

科目名	研究方法論／Research Methodology
担当教員	商大 先生(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 アカデミックトレーニング科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	他
配当年次	1 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本科目は、「アカデミック・トレーニング（A T）」の科目区分に属します。

アカデミック・トレーニング（A T）は、テーマ研究を行うために必要な基本的スキルを教授するための科目であり、研究方法論、学術英語Ⅰ・Ⅱ及び統計学により構成され、1 年次後期の研究指導Ⅰ、2 年次前期の研究指導Ⅱ、2 年次後期の研究指導Ⅲを合わせてテーマ研究指導を構成します。

なお、研究方法論は、博士後期進学類の学生は必修となります。

達成目標 ／ Course Goals

- ・各分野における研究の進め方
- ・学術論文の執筆方法
- ・文献の読み方
- ・プレゼンテーションの方法

等を学修し理解することにより、これらの手法を適切に用いることができる。

授業内容 ／ Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

使用教材 ／ Teaching materials

学生の研究テーマ構想等を考慮して学生と相談したうえで、教材を選定します。

成績評価の方法 ／ Grading

- ・授業への参加度

・事前の準備・報告、事後課題の提出

・試験ないしプレゼンテーション

等を基準としますが、担当する指導教員により評価要素のウェイトが異なります。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

小樽商科大学大学院商学研究科履修規則第 6 条に基づき、

秀（100 点～90 点）、

優（89 点～80 点）、

良（79 点～70 点）、

可（69 点～60 点）及び

不可（59 点以下）に分け、可以上を合格とします。

履修上の注意事項 ／ Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。

科目名	学術英語I／Academic English I
担当教員	於保 淳(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 アカデミックトレーニング科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	水/Wed 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	於保 淳(1-525)
オフィスアワー	於保 淳(Office hours: Held via Zoom, by appointment. Please email me (ohoa@res.otaru-uc.ac.jp) to schedule.)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

The course aims to develop students' academic presentation skills in English. Through practical exercises, students will be prepared to present their work at international and domestic conferences. Students will learn the general techniques required for academic presentations and apply them to their own field. Students will also learn how to give effective feedback and be able to evaluate their own presentations.

Despite the numbering, it is highly recommended to complete Academic English II (academic writing) before enrolling in this course, as familiarity with academic writing conventions provides a useful foundation. However, this is not a requirement, and students are welcome to take this course first or independently.

達成目標 ／ Course Goals

By the end of this course, students will be able to:

- structure and deliver academic presentations clearly and persuasively in English;
- design effective slides and posters for academic and conference settings;
- manage audience interaction, including Q&A sessions, with confidence;
- give and apply constructive feedback to improve presentation performance.

授業内容 ／ Course contents

1. The key aims of a presentation
2. The basics of conferences
3. Resources: Presentations on TED and YouTube
4. Preparing a script before you create the slides
5. Pronunciation, intonation, and speed of voice / Title
6. Starting your presentation: giving the big picture

7. Agenda
8. Explaining technical slides
9. The visual aspect of slides
10. The conclusions and final slide, Q&A Session
11. Practising, improving, and getting feedback
12. Introduction to Poster presentation
13. Poster presentation (1st try) + feedback + revision
14. Oral presentation (1st try) + feedback + revision
15. Final poster & oral presentation + feedback

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

In most cases, no prior study is required, as activities, including readings, are generally done during class. However, you may be asked to prepare a presentation before class.

使用教材 ／ Teaching materials

Wallwork, Adrian. 2022. Giving an Academic Presentation in English Intermediate Level. Springer.

成績評価の方法 ／ Grading

Active involvement in class discussions, including very short presentations: 40%
Presentations (poster presentation, final oral presentation): 60%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

Since this class includes practical exercises, class attendance and active participation are vital for success. The evaluation of your presentation will be based on whether you have applied what you have learned in the class.

Your final grade will be based on the total score:

A (秀) : 100-90

Excellent performance on the requirements of the class

B (優) : 89-80

Good performance on the requirements of the class

C (良) : 79-70

Acceptable performance on the requirements of the class

D (可) : 69-60

Minimally acceptable performance on the requirements of the class

F (不可) : 59-0

Unacceptable performance on the requirements of the class

履修上の注意事項 ／ Remarks

1. English is the medium of instruction in this class, but Japanese may be used if necessary.

2. The course schedule and course contents are subject to change depending on the needs of the students and the size of the class.

3. About Using AI Tools:

- You may use AI tools to generate ideas, explore different ways to express concepts and receive language support.
- However, using AI to complete entire presentations or scripts is prohibited. Not following this rule could lower your grade or cause you to fail the course.

科目名	学術英語 II／Academic English II
担当教員	朱 易安(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 アカデミックトレーニング科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	金/Fri 5
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	朱 易安(1 号館 520 室)
オフィスアワー	朱 易安

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

This course trains the students to read and write English in academic context.

達成目標 ／ Course Goals

To critically analyze English academic texts and express one's academic viewpoints in written English.

授業内容 ／ Course contents

At the beginning of each course, the instructor will provide a short text on a given topic and discuss with the students on how to critically analyze it, which will last 30 minutes. The students will then be given 30 minutes to write a paragraph expressing their opinion regarding the provided text. In the last 30 minutes, the class will go through each student's paragraph and provide feedback.

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

Students interested in further enhancing their writing skills are welcome to arrange a meeting with the instructor for individual feedback.

使用教材 ／ Teaching materials

The teaching materials will be provided by the instructor.

成績評価の方法 ／ Grading

Attendance 40%

Mid-term 30%

Final 30%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

The mid-term and the final exam will both consist of writing an essay consisting of several paragraphs on a given topic.

履修上の注意事項 ／ Remarks

An absence for a justifiable reason will not be counted toward the attendance grading.

科目名	統計学／Statistics
担当教員	寺坂 崇宏(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 アカデミクトレーニング科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業では、統計学の数理的な側面を中心に説明をして、統計学の方法を用いたデータ分析について、より深く理解することを目的とします。授業は講義形式で実施します。

達成目標 ／ Course Goals

本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は、推測統計学に関する重要な理論を習得して、実際のデータ分析の際に、これを活用できるようになることです。

授業内容 ／ Course contents

- 第 1 回 確率：標本空間、事象、確率
- 第 2 回 確率：条件付確率、乗法定理、事象の独立
- 第 3 回 確率変数：離散型確率変数
- 第 4 回 確率変数：離散型確率変数の期待値とその演算について
- 第 5 回 確率変数：連続型確率変数
- 第 6 回 確率変数：連続型確率変数の期待値とその演算について
- 第 7 回 確率変数：2 変数の確率変数、確率変数の独立
- 第 8 回 確率変数：2 変数の確率変数に関連する期待値
- 第 9 回 確率変数：条件付期待値とその応用
- 第 10 回 標本分布：チェビシェフの不等式と大数の法則
- 第 11 回 標本分布：中心極限定理
- 第 12 回 点推定と区間推定の基本
- 第 13 回 最尤法
- 第 14 回 仮説検定の基本
- 第 15 回 仮説検定の応用

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：講義前に資料を manaba に up します。up された資料に目を通して、数式の展開がある場合は、その展開を紙に写して、例題がある場合は、答案例を見ながら、どのように解答を導いているのかを紙に書いて、確認してください。

事後学修：例題を自力で解けるようにしてください。授業後、練習問題が用意されていたら、それに取り組んでください。PC を使った実習を伴う練習問題を出すことがあります。

使用教材 ／ Teaching materials

教員が教材を用意します。manaba からダウンロードしてください。

成績評価の方法 ／ Grading

期末試験による評価をします。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀 (100～90 点)：授業で取り扱った統計学の内容について完全に理解しており、自分の研究で必要となる統計的手法を身につけるための知識を完全に修得している。
 優 (90～80 点)：授業で取り扱った統計学の内容の内容について十分に理解しており、自分の研究で必要となる統計的手法を身につけるための知識を十分に修得している。

良 (79～70 点)：授業で取り扱った統計学の内容の内容について一応理解しており、自分の研究で必要となる統計的手法を身につけるための知識を一応修得している。

可 (60～69 点)：授業で取り扱った統計学の内容について、最低限ではあるが理解しており、自分の研究で必要となる統計的手法を身につけるための知識を最低限修得している。

不可 (0～59 点)：授業で取り扱った統計学の内容について理解しておらず、自分の研究で必要となる統計的手法を身につけるための知識を修得していない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

本講義は、学部の 3 年次配当科目の数理統計学との合併授業です。

ノート PC を用意して下さい。

manaba を使って、授業についての連絡をします。受講生は必ず manaba の連絡を確認してください。

科目名	ミクロ経済学 I／MicroeconomicsI
担当教員	中島 大輔(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 4
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	中島 大輔
オフィスアワー	中島 大輔(By Appointment)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本科目では大学院 1 年目の標準的なミクロ経済学を学習する。具体的には消費者行動の理論、企業行動の理論、およびその帰結としての均衡分析（部分均衡・一般均衡）を扱う。ゲーム理論・情報の経済学などに関しては後期のミクロ経済学 2 で扱われるであろう。

受講者のレベルに合わせて、担当教員による講義・学生による発表・演習問題を適当な比率で行う。

達成目標 ／ Course Goals

個々の研究にミクロ経済学を応用して分析ができるようになること。

授業内容 ／ Course contents

授業の目的にある通りである。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

学部レベルのミクロ経済学の知識と、微積分・線形代数の基本的な知識を前提とする。また、事後には多数の演習問題を解くことになる。

使用教材 ／ Teaching materials

履修者のこれまでの学習履歴などに応じて、開講後に指示する。

成績評価の方法 ／ Grading

講義内の議論・演習問題の取り組みを通じて評価するが、必要であれば持ち帰り式の期末試験を行う。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

経済学コースの統一基準による。

履修上の注意事項 ／ Remarks

履修希望者は 4 月 3 日（金）までに担当教員宛に

これまでのミクロ経済学及び数学に関してどのような学習をしてきたか
どのような研究を考えているか

を説明したメールを必ず送ってください。

メールアドレスは nakajima@res.otaru-uc.ac.jp
です。

科目名	ミクロ経済学Ⅱ／MicroeconomicsⅡ
担当教員	白田 康洋(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 4
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	白田 康洋(543)
オフィスアワー	白田 康洋

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

目的：大学院初級レベルでのミクロ経済学の理解

本科目は、前期での「ミクロ経済学Ⅰ(MicroeconomicsⅠ)」に基づき、発展的な内容となる一般均衡分析、厚生経済学、ゲーム理論、及び情報の経済分析を講義する。どのような社会経済においても資源は稀少である。本科目では、その資源が、経済活動の中でどのような配分が実現するのか、また、実現されるべきかを考察する。前半は、これらの資源配分と所得分配の問題を市場メカニズムにより分析し、後半は、それらの問題をゲーム理論により分析する。

方法：担当教員による講義と受講生による発表

トピックごとに教科書に沿った Lecture Notes を使って基本的な内容を講義した後、受講生にはいくつかの Exercise に取り組んで発表してもらう。

達成目標 ／ Course Goals

国際的に標準な大学院コアコースレベルでの価格理論・ゲーム理論による経済分析を理解する。またそれをもとにして、国際経済学や公共経済学といった発展的な経済学の内容を理解するための基礎能力を身につけ、修士論文作成に役立てる。

授業内容 ／ Course contents

以下のトピックを順に講義する。

1. イントロダクション、消費者理論の復習 (Week 1)
2. 一般均衡理論、厚生経済学 (Week 2-5)
 - パレート効率性、ワルラス均衡、コア
 - 厚生経済学の基本定理
 - 動学的一般均衡入門、不確実性
3. 社会選択・社会厚生理論 (Week 6-8)
 - 定式化、コンドルセ・パラドックス

- アローの一般不可能性定理とその関連
- 市場経済への応用

4. ゲーム理論 (Week 9-11)

- 展開形ゲーム、戦略形ゲームの定義
- 支配戦略、合理化可能戦略
- ナッシュ均衡、サブゲーム完全均衡

5. 市場の失敗：不完全競争 (Week 12)

- 独占、寡占

6. 市場の失敗：不完備情報 (Week 13-14)

- マーケットデザイン
- ヴィックリー・クラーク・グロブスメカニズム

7. まとめと予備 (Week 15)

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前：受講者は毎回事前に示した教材を読んで、理解できていない点を明瞭にさせてくこと。少人数授業が予想され、受講者の理解に合わせて授業を進行するため、これを必ず行うこと。

事後：毎回の授業で扱った部分に対応する教科書の練習問題を解いて、内容をよく理解しているかを確認すること。

使用教材 ／ Teaching materials

メインテキストは以下の[JR]を使用。[MWG], [OR]は参考書。

[JR] G.A. Jehle & P. J. Reny; Advanced Microeconomic Theory, 3rd ed., Prentice Hall, 2010.

[MWG] A. Mas-Colell, M. D. Whinston, & Jerry R. Green; Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995.

[OR] M. J. Osborne & A. Rubinstein; A Course in Game Theory, MIT Press, 1994.

成績評価の方法 ／ Grading

期末試験(60%)と宿題・発表(40%)によって評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀(100~90): ミクロ経済理論について秀でた理解力を示し、応用して、さまざまな経済問題について秀でた分析をすることができる。

優(89~80): ミクロ経済理論について優れた理解力を示し、応用して、さまざまな経済問題について優れた分析をすることができる。

良(79~70): ミクロ経済理論について良い理解力を示し、応用して、さまざまな経済問題について良い分析をすることができる。

可(69~60): ミクロ経済理論について理解力を示し、応用して、さまざまな経済問題について分析をすることができる。

不可(59~0): ミクロ経済理論について十分な理解力を持たず、さまざまな経済問題に

ついて分析をすることができない。

履修上の注意事項 / Remarks

前期開講「ミクロ経済学Ⅰ」の知識を前提とするので必ず履修すること。「ミクロ経済学Ⅰ」の単位未取得者の履修は認めない。基本的な集合論, 線形代数と微積の知識があるとより望ましい。授業で使用する言語は, 受講者と相談の上, 日本語, 英語, またはその両方とする。

科目名	マクロ経済学 I / Macroeconomics I
担当教員	廣瀬 健一(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

「マクロ経済学 I」（前期開講）と「マクロ経済学 II」（後期開講）を合わせた年間の授業を通じて、大学院基本科目レベルのマクロ経済学として標準的に提供される内容を網羅する目的で講義を行います。

「マクロ経済学 I」では特に、分権経済（Decentralized Economy）における動学的一般均衡の導出、代表的個人（Representative Agent）モデルを用いた経済成長・景気変動に関する理論分析、および、マクロ経済における貨幣的・金融的側面の考察を取り扱います。

達成目標 / Course Goals

マクロ経済学の理論研究に必要な大学院レベルの基礎知識を習得することを目標とします。

授業内容 / Course contents

- 1 回目 Consumption and Saving (I): Finite-horizon Optimization Problems for Households
- 2 回目 Consumption and Saving (II): Infinite-horizon Optimization Problems for Households
- 3 回目 Investment (I): Intertemporal Optimization Problems for Firms
- 4 回目 Investment (II): Tobin's "q"
- 5 回目 General Equilibrium in a Decentralized Economy (I): Steady-state Analyses
- 6 回目 General Equilibrium in a Decentralized Economy (II): Transition-dynamics Analyses
- 7 回目 Monetary Economics (I): Money Demand in Optimization models
- 8 回目 Monetary Economics (II): Money Supply and Monetary Policies
- 9 回目 Economic Growth (I): Neo-classical Growth Theories
- 10 回目 Economic Growth (II): Endogenous Growth Theories

- 11 回目 Real Business Cycle (RBC): Flexible-price Dynamic Stochastic General Equilibrium (DSGE) models
- 12 回目 New Keynesian Macroeconomics (I): Microeconomic Foundations for Keynesian Economics
- 13 回目 New Keynesian Macroeconomics (II): Sticky-price Dynamic Stochastic General Equilibrium (DSGE) Models
- 14 回目 Asset Pricing (I): Complete Markets with Arrow-Debreu Securities
- 15 回目 Asset Pricing (II): Stochastic Discount Factor and Risk Neutral Probability

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

事前学習：各回の内容に関して、学部レベルの議論を完璧に復習しておくこと

事後学習：各回の内容に関して、講義中に指示した文献を参照して、理解を深めること

（詳細は担当教員との事前メール、および、講義にて指示します）

使用教材 / Teaching materials

Wickens (2012), "Macroeconomic Theory: A Dynamic General Equilibrium Approach" (2nd edition), Princeton University Press

Blanchard and Fischer (1989), "Lectures on Macroeconomics", MIT Press

Acemoglu (2009), "Introduction to Modern Economic Growth", Princeton University Press

Gali (2015), "Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle:

An Introduction to the New Keynesian Framework and Its Applications" (2nd edition), Princeton University Press

Ljungqvist and Sargent (2018), "Recursive Macroeconomic Theory" (4th edition), MIT Press

Alogoskoufis (2019), "Dynamic Macroeconomics", MIT Press

成績評価の方法 / Grading

期末試験によって評価します。

成績評価の基準 / Grading Criteria

現代商学専攻の統一基準（履修案内の共通事項（4））を参照すること。

履修上の注意事項 / Remarks

学部レベルのミクロ経済学・マクロ経済学の知識を前提とします。

履修希望者は必ず事前にメール(hirose@res.otaru-uc<以下は大学公式アドレス>)で担当教員とコンタクトを取って下さい。

科目名	マクロ経済学 II／MacroeconomicsII
担当教員	小寺 寛彰(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	小寺 寛彰(1 号館 427 室)
オフィスアワー	小寺 寛彰

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

「マクロ経済学 I」（前期開講）と「マクロ経済学 II」（後期開講）を合わせた年間の授業を通じて、大学院基本科目レベルのマクロ経済学として標準的に提供される内容を網羅する目的で講義を行う。

「マクロ経済学 II」では、「マクロ経済学 I」の続きとして、動学的マクロモデルに重点を置く予定である。具体的なモデルとしては、消費・貯蓄モデル、動学的一般均衡モデルや世代重複モデル、労働サーチモデルをカバーする予定である。

達成目標 ／ Course Goals

大学院基本科目レベルのマクロ経済学として標準的に提供される動学分析を理解する。

授業内容 ／ Course contents

下記項目を 1～2 週でカバーする予定である。

消費・貯蓄モデル

動学的一般均衡モデル

世代重複モデル

労働サーチモデル

なお、時間があればその他の重要なマクロモデルもカバーする予定である。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修

スライドを事前に配布するので、授業前に目を通しておくこと。

事後学修

各トピック終了後に課す宿題を通して、講義の内容を理解すること。

使用教材 ／ Teaching materials

Wickens (2012), “Macroeconomic Theory: A Dynamic General Equilibrium Approach” (2nd edition), Princeton University Press

Blanchard and Fischer (1989), “Lectures on Macroeconomics”, MIT Press

Acemoglu (2009), “Introduction to Modern Economic Growth”, Princeton University Press

Ljungqvist and Sargent (2018), “Recursive Macroeconomic Theory” (4th edition), MIT Press

成績評価の方法 ／ Grading

宿題のパフォーマンスと期末試験によって評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

宿題のパフォーマンスと期末試験によって評価する。

履修上の注意事項 ／ Remarks

学部の「ミクロ経済学」知識を有していること。

大学院「ミクロ経済学 I」「ミクロ経済学 II」「経済数学」「マクロ経済学 II」をあわせて受講することが望ましい。

履修希望者は必ず事前にメールで担当教員とコンタクトを取ること。

科目名	計量経済学 I / Econometrics I
担当教員	田中 晋矢(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
開講曜限	水 / Wed 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	田中 晋矢(1 号館 443)
オフィスアワー	田中 晋矢

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

授業の目的：世界標準の大学院修士(MA)レベルの線形回帰分析を主とした計量経済理論を修得することを目的とする。
 方法：輪読形式（ゼミ形式）による。

達成目標 / Course Goals

- ・世界標準の大学院修士(MA)レベルの計量経済理論を修得する。

授業内容 / Course contents

第 1 ～ 6 回：線形回帰モデルの推定と検定

第 7 ～ 9 回：パネルデータ分析

第 10 ～ 12 回：操作変数法

第 13 ～ 15 回：制限従属変数モデル

*ただし受講者の事前知識と関心分野に応じて各トピックの内容あるいはウェイトを変更する可能性があります。

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

事前学修：担当教員の指示した箇所の予習・準備を行うこと。

事後学習：講義中の担当教員のフィードバックに基づき復習を行うこと。

使用教材 / Teaching materials

西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮著『計量経済学』, 有斐閣, 2019 年。
 をメインテキストとしますが, その他文献も必要に応じて利用します。その他文献については講義中に紹介します。

成績評価の方法 / Grading

学期末の筆記試験により評価します。

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀 (90 ～) : 世界標準大学院修士(MA)レベルの線形回帰分析を主とした計量経済理論を非常に高い水準で理解している。

優 (80 ～ 89) : 世界標準大学院修士(MA)レベルの線形回帰分析を主とした計量経済理論を高い水準で理解している。

良 (70 ～ 79) : 世界標準大学院修士(MA)レベルの線形回帰分析を主とした計量経済理論を一定程度の水準で理解している。

可 (60 ～ 69) : 世界標準大学院修士(MA)レベルの線形回帰分析を主とした計量経済理論を最低限の水準で理解している。

不可 (～ 59) : 世界標準大学院修士(MA)レベルの線形回帰分析を主とした計量経済理論を理解できていない。

履修上の注意事項 / Remarks

- ・本研究科提供科目 (AT 科目) である「統計学」を履修済みであり, 単位を修得していること。
 - ・そうではない場合は学部在籍時に推測統計を扱う統計関連科目を履修し, 単位を修得していること。ただしこの場合は授業初回においてその科目の単位修得状況が記載された成績証明書と当該科目のシラバスのコピーを授業担当者に提出すること。あるいは統計検定 2 級合格しており, 合格証明書を提出できること。
 - ・1 変数関数および多変数関数に関する微分の基礎知識を有すること。
- *これらの条件を満たしていない場合には当授業でカバーする内容を理解することが極めて高い確率で不可能であると思われますので原則として履修を認めません。

科目名	計量経済学 II／EconometricsII
担当教員	田中 晋矢(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	水/Wed 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	田中 晋矢(1 号館 443)
オフィスアワー	田中 晋矢

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

授業の目的：世界標準の大学院レベルの行列代数および大標本理論に基づく線形回帰分析を主とした計量経済理論を修得つけることを目的とする。

方法：受講生による輪読形式（ゼミ形式）の併用による。

達成目標 ／ Course Goals

- ・世界標準の大学院レベルの計量経済理論を修得する。

授業内容 ／ Course contents

第 1 ～ 5 回：Linear regression in finite samples

第 6 ～ 1 0 回： Statistical theory for large samples

第 1 1 ～ 1 5 回：Linear regression in large samples

＊ただし受講者の事前知識と関心分野に応じて各トピックの内容あるいはウェイトを変更する可能性があります。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：担当教員の指示した箇所の予習・準備を行うこと。

事後学習：講義中の担当教員のフィードバックに基づき復習を行うこと。

使用教材 ／ Teaching materials

Fumio Hayashi (2000) "Econometrics" Princeton Univ. Press.

をメインテキストとしますが、その他文献も必要に応じて利用します。その他文献については講義中に紹介します。

成績評価の方法 ／ Grading

学期末の筆記試験により評価します。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（9 0 ～）：世界標準の線形回帰分析を主とした計量経済理論を非常に高い水準で理解している。

優（8 0 ～ 8 9）：世界標準の線形回帰分析を主とした計量経済理論を高い水準で理解している。

良（7 0 ～ 7 9）：世界標準の線形回帰分析を主とした計量経済理論を一定程度の水準で理解している。

可（6 0 ～ 6 9）：世界標準の線形回帰分析を主とした計量経済理論を最低限の水準で理解している。

不可（～ 5 9）：世界標準の線形回帰分析を主とした計量経済理論を理解できていない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

- ・本研究科科目「計量経済学 I」を履修済であること。
- ・多変数関数に関する微分の基礎知識に加え行列代数に関する基礎知識（行列の和・差・積、逆行列など）を有していること。

＊以上を本講義を履修するにあたっての最低条件とします。これらの条件を満たしていない場合には当授業でカバーする内容を理解することが極めて高い確率で不可能であると思われますので原則として履修を認めません。

科目名	経済史／Economic History
担当教員	平井 進(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

(1) ドイツを中心に西洋経済史を、農村社会史とその関連領域を中心に考察する。ヨーロッパの歴史的な農村社会の多様性・多元性という立場から、近作を検討したい。前近代の農村地域組織や農村住民の政治参加・国家形成などをテーマとする。日本経済史は扱わないので注意されたい。

(2) 授業はゼミ形式で行う。参加者は毎回、事前準備として講読文献を読解し、その内容を整理・紹介するレジュメを作成し、授業の際にそれに基づいて報告することが求められる。また、大学院の授業なので、必要に応じて関連文献を読み、調べてもらうことはいうまでもない。

達成目標 ／ Course Goals

- 1) ヨーロッパ農村社会の歴史的な多様性・多元性を農村地域団体の観点から説明できるようになること。
- 2) 農村社会史・農業史の文献を読めるようになること。

授業内容 ／ Course contents

各回の授業は、講読文献の内容報告とこれをめぐる討論からなりたつ。なお、本学図書館に所蔵される当該分野の書籍・学術誌はほとんどないため、複写のため北海道大学総合図書館・文学部図書館に頻繁に行く必要がでてくる可能性があることにも注意されたい。

- (1) 打ち合わせとオリエンテーション。
- (2) 文献購読。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前：毎回事前に文献をきちんと読み、レジュメを作成してくること。

事後：必要に応じて関連文献を読むこと。

使用教材 ／ Teaching materials

小林繁子『近世ドイツの魔女裁判：民衆世界と支配権力』（ミネルヴァ書房）；坂口正彦『農村における結合関係の比較史』（日本経済評論社）；山崎彰『近代ドイツ農村社会の誕生：領地文書から見た開発・紛争・教育』（刀水書房）；飯田恭『農場と森林のプロイセン史：一六～一九世紀の御領地・御領林経営』（慶応大学出版会）。

成績評価の方法 ／ Grading

授業でのレポーターとしての報告とその内容（60％）と授業への参加状況・発言（40％）。なお、無断欠席の場合は「不可（0点）」となるので、注意すること。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

毎回の授業に先立つ文献のレジュメ作成が評価の前提・必須条件となる。その上で、それに基づく授業での内容報告（60％）と授業への参加状況・発言（40％）。レジュメ作成を怠った場合と無断欠席の場合は「不可（0点）」となるので、注意すること。

5. 成績評価の基準（Grading Criteria）

秀（100-90）：西洋経済史について秀でた理解力を有し、毎回非常に優れたレジュメを作成し、諸問題について秀でた報告を行うことができる。ただし、授業に全回参加の場合に限る。

優（89-90）：西洋経済史について優れた理解力を示し、毎回優れたレジュメを作成し、諸問題について優れた報告を行うことができる。

良（79-70）：西洋経済史について良い理解力を示し、毎回適切なレジュメを作成し、諸問題について良い報告をすることができる。

可（69-60）：西洋経済史について理解力を示し、毎回レジュメを作成し、諸問題について一応報告することができる。

不可（59-0）：西洋経済史について十分な理解力をもたず、諸問題について報告することができない。また毎回レジュメを作成してこない場合、出席回数が授業回数の2/3未満の場合。

履修上の注意事項 ／ Remarks

1) 学部3-4年レベルの西洋経済史の知識を習得し、農村社会史・農業史に関心があり、フーフエ制度、村落共同体、土地領主制・農場領主制、ヨーロッパ型結婚パターンといった概念は既習であることが望ましい。

2) 参加希望者は開講前に必ずメールで連絡すること。

科目名	現代市場システム論／Modern Market System
担当教員	鎌田 直矢(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業は商業の理論を学ぶことを目的としています。その際、下記の使用教材の輪読、および演習課題のディスカッションを通して商業の理論に関する理解を深めます。

達成目標 ／ Course Goals

商業論の概念や理論を用い、現実の社会で起きている現象を説明できるようになることを目指します。より具体的には、商業に関する理論モデルを理解し、それらのモデルを用いて流通システムの構造や構成員の行動を説明するスキルを身につけます。

授業内容 ／ Course contents

各回の講義内容は「授業計画詳細情報」を参照してください。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

各授業ごとに事前学習および事後学習を必要とする。まず各回で取り扱う範囲を事前に示すので、受講者は該当部分について報告資料を作成する必要がある。次に授業の後においても、その日の授業で学んだ内容を整理することが求められる。加えて、授業で取り扱った理論をもとに現実世界の事例についても検討することが求められる。その際、日経産業新聞、日経 MJ、日経ビジネス、日経情報ストラテジーなどの新聞・雑誌記事の関連記事を検索し日常的に読むことが求められる。なお、ここで挙げた新聞・雑誌は、図書館で読むことができるので活用すること。

使用教材 ／ Teaching materials

高嶋克義（2012）『現代商業学 新版』，有斐閣。

成績評価の方法 ／ Grading

授業への貢献（10 点），リアクションペーパー（30 点），期末課題（60 点）の得点を合わせて総合的に判断する。なお，リアクションペーパーは毎回の講義終了時から次回講義までの間に manaba へ入力・提出してもらう。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：上記総合得点において 90 点以上である

優：同 80 点以上 90 点未満である

良：同 70 点以上 79 点未満である

可：同 60 点以上である

不可：同 60 点未満である

履修上の注意事項 ／ Remarks

講義の内容および成績評価の基準について初回の講義にて詳しく説明しますので、必ず出席するようにしてください。原則として講義への遅刻（途中入室）は認めません（交通機関の遅れについては考慮します）。なお、PC やタブレット等の情報端末を持参することが望ましいです。

科目名	国際市場戦略 II／International Market Strategy II
担当教員	ブラート カロラス(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

Since the advent of Japan as one of the world's top economic powers during the latter part of the twentieth century, academic and journalistic interest has focused on uncovering and explaining the characteristics of Japanese corporate business and marketing methods. Especially during the 1980s and 90s, many experts sought to unravel the secrets behind the success of Japanese marketers in foreign markets and tried to explain the peculiarities of the Japanese market to foreign marketers. Despite a recent shift of attention from Japan to China—because of the economic ascendance of China on the one hand and the relative decline of the Japanese economy on the other—Japan remains one of the world's largest and most sophisticated markets and remains a very important but difficult market for many foreign marketers.

In this course we will take an in-depth look at relevant characteristics of marketing, distribution, advertising, and consumer behavior in Japan. Our primary focus will be on the characteristics of Japanese consumers, how these characteristics have evolved over time, and how consumer behavior affects the various aspects of corporate marketing strategies and tactics of both Japanese and foreign companies operating in the Japanese market. This course will show that in the 21st century the characteristics of Japanese marketing and consumer behavior continue to evolve and constitute a moving target for domestic and foreign-affiliated companies alike.

The course is organized around student presentations and class discussion of key readings from the relevant English-language academic literature.

達成目標 ／ Course Goals

Upon the completion of this course, students are expected to be able:

- To understand cross-cultural analysis, explain and apply the Hofstede framework of national culture, and critically examine the Western and Eastern approaches to cultural

change

- To understand and discuss the characteristics of a range of aspects pertaining to marketing and consumer behavior in Japan
- To discuss how these characteristics have evolved over time
- To evaluate the opportunities and pitfalls of the Japanese market for foreign-affiliated and Japanese companies

授業内容 ／ Course contents

Session 1: Cross-cultural analysis

Session 2: Cross-cultural analysis

Session 3: Characteristics of Japanese Marketing and Culture

Session 4: Characteristics of Japanese Marketing

Session 5: Characteristics of Japanese Marketing: New Product Planning

Session 6: Characteristics of Japanese Marketing: Marketing research

Session 7: Characteristics of Japanese Consumers

Session 8: Characteristics of Japanese Consumers

Session 9: Characteristics of Japanese Distribution: International retailers

Session 10: Characteristics of Japanese Distribution and Retailing: International retailers

Session 11: Characteristics of Japanese Distribution and Retailing: convenience stores

Session 12: Characteristics of Japanese Branding and Advertising

Session 13: Characteristics of Japanese advertising

Session 14: Characteristics of Japanese advertising

Session 15: Characteristics of Japanese advertising agencies

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

Preparation: Students are required to read assigned materials and complete any preparatory tasks prior to each class.

Review: Students are expected to review the materials covered in class and utilize this accumulated knowledge when presenting, participating in class, and writing the final report.

使用教材 ／ Teaching materials

The instructor will distribute the listed readings to participants at the start of the course.

成績評価の方法 ／ Grading

Class participation and contribution (including attendance): 20%

Presentations: 30%

Final report: 50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

A (90-100): Demonstrates excellent understanding of the course content as well as excellent

ability to critically read, creatively discuss, and comprehensively and coherently write about it.

B (80-89): Demonstrates very good understanding of the course content as well as very good ability to critically read, creatively discuss, and comprehensively and coherently write about it.

C (70-79): Demonstrates good understanding of the course content as well as good ability to critically read, creatively discuss, and comprehensively and coherently write about it.

D (60-69): Demonstrates satisfactory understanding of the course content as well as satisfactory ability to critically read, creatively discuss, and comprehensively and coherently write about it.

F (0-59): Demonstrates unsatisfactory understanding of the course content as well as unsatisfactory ability to critically read, creatively discuss, and comprehensively and coherently write about it.

履修上の注意事項 / Remarks

Before each session, all participants are required to read the assignment for class discussion. Every week a different participant will present the readings for that week and to moderate the class discussion. Class discussion in principle will be in English but may be complemented by discussion in Japanese to accommodate linguistic capabilities of the participants. At the end of the course, participants will individually submit a report in English or Japanese in which they critically discuss and synthesize the readings.

科目名	経営史／Business History
担当教員	戴 秋娟(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	戴 秋娟(1 号館 411 室)
オフィスアワー	戴 秋娟(随時（事前にメールで連絡をして予約すること）)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

経営史の研究は、経済史や経営学に加えて、文化史、経済学、社会学や政治学など社会科学の諸分野との関係を通じて学際的に発展しながら、企業家活動ないし企業の経営活動、そして社会や経済発展におけるそれら役割について様々な視点から展開されている。本講義は、経営史学に関する基礎的且つ体系的知識と日本経営史についての基礎的な素養を身につけることを目的とします。

文献の輪読が中心であるが、適宜参加者の関心のあるテーマについて調査や分析を行う。

達成目標 ／ Course Goals

- (1)経営史という学問の成り立ちと概容について基本的な知識を得ることで、今後の経営史研究の基礎的な素養を身につける。
- (2)経済史・経営史研究の視角と手法を学ぶことができる。
- (3)経営史研究に必要な発展的知識を習得する。

授業内容 ／ Course contents

各回の内容は次のとおりである。ただし、履修者の知識、習得度合に応じて講義の順番や講義内容を変更する場合がある。

- 第 1 回： 授業の目的と概要
- 第 2 回： 経営史学の課題
- 第 3 回： 江戸時代の商家経営
- 第 4 回： 幕末・維新期の企業家活動
- 第 5 回： 近代産業経営の成立
- 第 6 回： 会社制度の導入と普及
- 第 7 回： 商業教育の発展
- 第 8 回： 財閥の形成とコンツェルン化

- 第 9 回： 専門経営者の形成
- 第 10 回： 明治・大正期の工場労働とホワイトカラー層の形成
- 第 11 回： 都市型第 3 次産業の形成
- 第 12 回： 経済民主化と企業変革
- 第 13 回： 企業集団とメインバンク
- 第 14 回： テーマから考える世界の経営史
- 第 15 回： 総括 経営史研究の方法

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

【事前学修 予習（2 時間）】

- ・ 講義資料を読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。
- ・ 報告担当の際は、報告資料を作成・印刷し、授業開始時に参加者に配布する。
- ・ 報告者以外の参加者は、テキストの報告が予定されている部分を読み、授業中、積極的に質問やコメントができるよう準備する。

【事後学修 復習（1 時間）】

- ・ 授業で扱った内容を再度確認し、理解が不十分であったと思われる点は次回の授業時に確認する。

使用教材 ／ Teaching materials

特定の教科書を定めず、主に下記の参考書に依拠しつつ（つまり、下記以外にも含めて）、講義内容に関係する文献を指示する。

【参考書】

- 岡崎哲二ほか（2022）『経済史・経営史研究 入門：基本文献,理論的枠組みと史料調査・データ分析の方法』有斐閣
- 宇田川勝・生島淳編（2011）『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣
- 経営史学会(2004)『日本経営史の基礎知識』有斐閣ブックス
- 由井常彦・橋本寿朗（1995）『革新の経営史 戦前・戦後における日本企業の革新行動』有斐閣

成績評価の方法 ／ Grading

期末レポート 50% 平常点 50%（授業時間中の報告 30%・出席 20%）

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

成績の評価は、100 点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。

- 秀（90 点以上 100 点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。
- 優（80 点以上 90 点未満）到達目標を高い水準で達成している。
- 良（70 点以上 80 点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。
- 可（60 点以上 70 点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。
- 不可（60 点未満）到達目標を達成していない。

また、特別な事情以外で 5 回以上欠席した場合も成績に関わらず不可とする。

履修上の注意事項 / Remarks

- (1)初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。
- (2)授業では、学問的理解を深めるために、各回の主なテーマについての課題と方法の議論を中心に進めるので、基礎的な知識・情報の整理のために予習が必要である。
- (3)予習した上、毎回授業に臨むこと。

科目名	経営組織論／Organization Theory
担当教員	木田 世界(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	木田 世界(1 号棟（研究棟）537 研究室)
オフィスアワー	木田 世界(木 3。アポしでも構いませんが、事前に連絡があると確実です。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

経営組織論に関連する論文、文献の輪読（または講義）を行う予定です。

教員は、従業員、顧客、社会の三方良しの経営を目指して、サービスプロフィットチェーンやウェルビーイング、組織能力、両利きの経営などを研究しています。ミクロ組織論、資源ベースの戦略論、企業と社会論などの領域の学術文献、教科書、論文の輪読を主にやりたいと考えています。詳しくは、受講者の数、要望や能力に応じて決めます。履修前の連絡もしくは初回授業への出席を推奨します。

kida<アットマーク>res.otaru-uc.ac.jp

In this class, students are going to make presentations on an academic book or papers. I welcome international students.

Students who want to take this class are encouraged to contact the lecturer in advance.

達成目標 ／ Course Goals

経営組織論を、受講者や教員の体験を交えて学ぶことができる

現代の日本企業の組織の課題について多様な見解をのべることができる

授業内容 ／ Course contents

第1回 ガイダンス

第2回 ステイクホルダーと経営

第3回 企業の社会貢献と戦略

第4回 日本の企業と従業員のウェルビーイング

第5回 事例

第6回 モチベーション

第7回 リーダーシップ

第8回 振り返り・事例

第9回 組織能力と個人の能力

第10回 現場の管理とエンパワーメント

第11回 組織とイノベーション①

第12回 組織とイノベーション②

第13回 組織管理の現代的課題

第14回 日本企業の経営と課題

第15回 事例

※上記は一例です。受講者の要望や運営の都合で大きく変わる可能性があります。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

・事前、事後に関連する文献を読み考察すること。

・発表資料の準備

read literatures and prepare a resume for presentation

使用教材 ／ Teaching materials

未定ですが、候補の例を挙げます。

受講者次第です。

・組織行動論の考え方・使い方：良質のエビデンスを手にするために
服部泰宏著

有斐閣 2020.9

・エビデンスから考えるマネジメント入門

中本龍市，水野由香里著

中央経済社，中央経済グループパブリッシング（発売）2022.8

・Hatch 組織論：3つのパースペクティブ

Mary Jo Hatch, Ann L. Cunliffe [著]；大月博司，日野健太，山口善昭訳

同文館出版 2017.2（Hatch, M. J. (2018). Organization Theory: Modern, Symbolic, and Postmodern Perspectives, 4th edition. New York: Oxford University Press.）

・世界標準の経営理論 = Management theories of the global standard

入山章栄著

ダイヤモンド社 2019.12

・他、組織科学、日本経営学会誌、経営哲学論集、経営学史学会年報、海外ジャーナル等の論文

成績評価の方法 ／ Grading

受講者による発表、参加態度...100%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：成績評価の総合点数が100点～90点

・経営組織論について具体的な例や理論を挙げながら非常によく説明できる。

優：89 点～80 点

- ・経営組織論について具体的な例や理論を挙げながら十分に説明できる。

良：79 点～70 点

- ・経営組織論について具体的な例や理論を挙げながら説明できる。

可：69 点～60 点

- ・経営組織論について具体的な例や理論を挙げながらかろうじて説明できる。

不可：59 点以下

- ・経営組織論について具体的な例や理論を挙げながら説明することがほとんどできない。

履修上の注意事項 / Remarks

必要に応じてオンラインで開催する可能性もあります。

科目名	財務会計論 I／Financial Accounting I
担当教員	石井 孝和(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	水/Wed 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	石井 孝和(4 号館 3 階 353 号室)
オフィスアワー	石井 孝和(随時 (ただし、事前にメールでアポイントメントを取ること))

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

企業外部の利害関係者に向けた情報提供は財務会計が担う主要な役割として位置づけられているが、近年では財務諸表を中心とした財務報告だけでなく、それ以外の情報開示である非財務報告の有用性についても関心が高まっている。そこで本授業では、企業が投資家等に向けて行う財務・非財務報告の主要なトピックごとに、それらの情報開示の有用性について検討することを目的とする。受講者は各回の授業前にあらかじめテキストの該当箇所を精読し、担当者にはトピックごとの論点を整理して授業内で報告してもらおう。その後、その内容をもとに履修者全員でディスカッションを行う。

達成目標 ／ Course Goals

現行の財務報告制度について理解したうえで、企業が行う情報開示の主要な論点について論理的な考察を行う力を身に付ける。

授業内容 ／ Course contents

- 第 1 回 イントロダクション：財務会計の意義と役割
- 第 2 回 会計情報に基づく企業価値評価
- 第 3 回 会計情報と株式市場
- 第 4 回 報酬契約
- 第 5 回 M&A と減損損失
- 第 6 回 情報開示：四半期開示
- 第 7 回 株主資本コスト
- 第 8 回 経営者予想
- 第 9 回 サステナビリティ開示

- 第 10 回 テキスト情報の有用性
- 第 11 回 コーポレート・ガバナンス
- 第 12 回 経営者能力
- 第 13 回 人的資本会計
- 第 14 回 株主還元政策と株式価値
- 第 15 回 全体の総括：財務報告制度に関する今後の課題

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- 事前学修：
 - テキスト該当箇所の精読および発表、討論の準備
- 事後学修：
 - 授業で行った議論の整理・復習

使用教材 ／ Teaching materials

中野誠、加賀谷哲之、河内山拓磨編著『財務・非財務報告のアカデミック・エビデンス』中央経済社、2025 年。
その他、必要な資料については適宜こちらから配布する。

成績評価の方法 ／ Grading

事前提出課題（40％）及び授業内でのディスカッションへの参加度（60％）により評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- 秀（90～100 点）：財務報告制度に関する論点を考察するための秀でた知識と理解力を有している。
- 優（80～89 点）：財務報告制度に関する論点を考察するための優れた知識と理解力を有している。
- 良（70～79 点）：財務報告制度に関する論点を考察するためのおおよその知識と理解力を有している。
- 可（60～69 点）：財務報告制度に関する論点を考察するための最低限の知識と理解力を有している。
- 不可（59 点以下）：財務報告制度に関する論点を考察するための十分な知識と理解力を有していない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

学部レベルの財務会計に関する知識を有していることを前提として授業を進めていきます。

科目名	管理会計論 I／Management Accounting I
担当教員	岡田 龍哉(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	岡田 龍哉(1 号館 518 室)
オフィスアワー	岡田 龍哉

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業の目的は、管理会計論の基礎的な議論を取り扱いながら、受講者が自ら問題を設定し、それに対しての解を検討・考察できるようディスカッションの経験を積むことにある。そのため、受講者は初歩的な管理会計論の知識と技術を修得していることを前提に、それらをより深化させるために常に疑問を探る姿勢が求められる。

本授業の方法は、受講生が授業内で与えられるテーマに関してのレジュメを事前に作成し、授業内で報告することが基本となる。受講生の報告に基づき、受講生同士でディスカッションを行う。

達成目標 ／ Course Goals

- ・管理会計論の基礎的な議論を整理し、実際に起こり得る事例と結び付け説明することができる。
- ・管理会計論の知識と技術を応用するために、周辺分野における必要な情報を収集することができる。

授業内容 ／ Course contents

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 管理会計の基礎知識の確認
- 第 3 回 管理会計の目的と対象
- 第 4 回 管理会計の役割と機能
- 第 5 回 費目別計算
- 第 6 回 部門別計算
- 第 7 回 製品別計算
- 第 8 回 標準原価計算
- 第 9 回 直接原価計算
- 第 10 回 予算管理システム

- 第 11 回 事業部制組織のマネジメント
- 第 12 回 戦略的コスト・マネジメント
- 第 13 回 業務的意思決定
- 第 14 回 設備投資意思決定
- 第 15 回 総合的な振り返り

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- ・事前学修
毎回の授業に先立ち、提示された論点に対し適切な文献を参照し、議論や疑問をまとめレジュメを作成する。
- ・事後学修
毎回の授業後、授業内で行われたディスカッションの内容と生じた疑問を整理しまとめる。

使用教材 ／ Teaching materials

なし。文献探索および情報の取捨選択に関する経験を積むため、提示された論点に基づき、受講生が適切な文献を探索し参照する。

成績評価の方法 ／ Grading

作成・提出されたレジュメ（50%）および授業内におけるディスカッションへの貢献度（50%）により評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- 秀（100-90%）：管理会計論に関する知識や論点を理解し説明するための秀でた能力を修得している。
- 優（89-80%）：管理会計論に関する知識や論点を理解し説明するための優れた能力を修得している。
- 良（79-70%）：管理会計論に関する知識や論点を理解し説明するための十分な能力を修得している。
- 可（69-60%）：管理会計論に関する知識や論点を理解し説明するための最低限の能力を修得している。
- 不可（59%以下）：管理会計論に関する知識や論点を理解し説明するための能力を修得していない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

学部レベルの原価計算論・管理会計論の知識を有していることが望ましい。不安な点があれば、第 1 回イントロダクションへ参加する前に整理し、授業時間内に質問をすること。

科目名	異文化コミュニケーションの基礎I／Foundations of Intercultural Communication I
担当教員	石川 友和(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 4
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

This course aims to introduce current thinking on multilingualism with English in intercultural and transcultural communication. It explores the dynamic links between named languages, cultural representations, and semiotic affordances, as well as power issues associated with communication.

達成目標 ／ Course Goals

You will develop a decolonial understanding of language, culture, and communication in a globally connected world. You will also critically consider its implications and applications for language education, academia, business, and digital communication.

授業内容 ／ Course contents

1. Culture and language in digital communication
2. Complexity theory, language attitudes, and language awareness
3. Awareness of English-within-multilingualism
4. From communicative competence to inter/transcultural awareness
5. Inter/transcultural language education and Global Englishes
6. Decolonial translanguaging and transcultural communication

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

Come prepared as needed.

使用教材 ／ Teaching materials

Main references

- (1) Baker, W., & Ishikawa, T. (2021). Transcultural communication through Global Englishes.

Routledge. (Available in the university library)

- (2) Ishikawa, T., & Baker, W. (2025). English as local designs: Decolonial translanguaging and transcultural communication. *Critical Inquiry in Language Studies*. Advance online publication.

成績評価の方法 ／ Grading

1. Active participation (10%)
2. Chapter presentation (20%)
3. Workshop presentation (20%)
4. Midterm and final exams (50%)

*Specific evaluation criteria and preparation tips, as well as the class policy on the use of generative AI tools, are discussed in class.

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀 (90 or above) Outstanding performance

優 (80–89) Mastery performance

良 (70–79) Satisfactory performance

可 (60–69) Marginal performance

*Regular and punctual attendance is expected of you throughout the semester.

履修上の注意事項 ／ Remarks

If you have any questions or concerns, please do not hesitate to contact Dr Tomokazu Ishikawa <t-ishikawa@res.otaru-uc.ac.jp>.

科目名	英語教育のための言語学／Language Concepts for TESL/TEFL
担当教員	西口 純代(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	金/Fri 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	西口 純代(1-316)
オフィスアワー	西口 純代(Fridays 12:30pm-12:45pm with appointments)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

If Mary "stopped" dancing, Mary used to dance. If "Mary's cat" meowed, Mary has a cat. The sentence ``Mary speaks Italian too" presupposes that Mary speaks a language other than Italian. Where do these presuppositions come from? On the other hand, negation is considered to be a "hole" to presuppositions. In ``Mary did not stop dancing," ``not" does not negate that Mary was dancing. We will investigate what is called presupposition projection problem, accommodation and other related topics.

達成目標 ／ Course Goals

Students will be able to understand what presupposition projection and accommodation are. They will know what are called presupposition triggers, plugs, holes, and filters in English.

授業内容 ／ Course contents

We will read the following literature:

Kadmon (2001), Heim (1983), van der Sandt (1992), von Fintel (2000), Tonhauser et al (2018), Degen and Tonhauser (2022), de Marneffe et al (2019), Scontras and Tonhauser (2025).

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

Students are expected to read the assigned portion of the reading material before each class.

使用教材 ／ Teaching materials

Kadmon, N (2001) Formal Pragmatics: Semantics, Pragmatics, Presupposition, and Focus. Oxford: Blackwell

Heim, I (1983) On the Projection Problem for Presuppositions. In Formal Semantics: Essential Readings, Oxford: Blackwell.

van der Sandt, R (1992) Presupposition Projection as Anaphora Resolution. J of Semantics von Fintel, K (2000) What is Presupposition Accommodation?

Tonhauser, J et al (2018) How Projective Is Projective Content?: Gradience in projectivity and at-issueness. J of Semantics

Degen, J et al (2022) Are there factive predicates? An empirical investigation. Language

成績評価の方法 ／ Grading

60% of grading will be based on class activity, 20% on the final presentation and 20% on the term paper.

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

S : Excellent term paper & class activities

A : Good term paper & class activities

B : Sufficient term paper & class activities

C : Acceptable term paper & class activities

履修上の注意事項 ／ Remarks

This course will be offered in English.

科目名	日英語の対照言語学／English Grammar in a Contrastive Perspective
担当教員	於保 淳(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	於保 淳(1-525)
オフィスアワー	於保 淳(Office hours: Held via Zoom, by appointment. Please email me (ohoa@res.otaru-uc.ac.jp) to schedule.)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

【Course Objectives】

This course is an advanced-level formal semantics course that investigates the syntax and semantics of quantifiers from a cross-linguistic perspective.

While all natural languages possess mechanisms to express quantification, the specific representational strategies vary significantly across languages. For example, to represent the situation described in the English sentence (1), Japanese offers at least three structural variants, as shown in (2)-(4):

(1) All the cats ran away.

(2) Subete-no neko-ga nigedashita. [all-gen cat-nom ran.away]

(3) Neko subete-ga nigedashita. [cat all-nom ran.away]

(4) Neko-ga subete nigedashita. [cat-nom all ran.away]

This course addresses several core theoretical questions: How can we account for the differences between Japanese and English? Can the Japanese variants in (2)-(4) be captured under a unified formal analysis? Furthermore, what quantificational patterns are observed in other languages, and what theoretical machinery is required to analyze paradigms that diverge from both English and Japanese?

We will explore these issues not merely from a descriptive standpoint, but through the rigorous theoretical framework of formal semantics.

【Course Method】

The course will be conducted through a combination of lectures, critical readings of primary literature, and in-class discussions. Students will actively engage in theoretical problem-solving and semantic analysis of various cross-linguistic data to develop their analytical skills in formal semantics.

【Important Note】

As this is an advanced-level class, students are expected to have a solid background in theoretical linguistics. Familiarity with basic syntactic and semantic theory is a strict prerequisite for enrollment.

(重要：本講義は上級レベルであるため、理論言語学の背景知識が必要とされます。基本的な統語論および意味論の知識があることを、履修の必須条件とします。)

達成目標 ／ Course Goals

- Acquire basic knowledge about quantifiers in natural language
- Gain practical experience applying the theoretical ideas discussed in class to new data.

授業内容 ／ Course contents

1. Introduction to Quantifiers
2. Review of Compositional Semantics I
3. Review of Compositional Semantics II
4. Generalized Quantifier Theory I
5. Generalized Quantifier Theory I
6. Generalized Quantifier Theory I
7. Generalized Quantifier Theory II
8. Generalized Quantifier Theory II
9. Generalized Quantifier Theory II
10. An Alternative Analysis I
11. An Alternative Analysis II
12. Quantification in Japanese I
13. Quantification in Japanese II
14. Numerals and Classifiers
15. Presentation

Note: The course contents and schedule are subject to change.

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

After every class, review all materials discussed there within the same day. Do not postpone your review. Use manaba for questions and discussions so that you share your thoughts with others.

使用教材 ／ Teaching materials

No textbooks will be used. Lectures and discussions will be based on handouts prepared by the instructor. Reference materials and readings will be distributed in class.

Some recommendations for understanding the basics of semantics:

- Heim, Irene, and Angelika Kratzer. 1998. Semantics in generative grammar. Blackwell.
- 田中拓郎. 2016. 『形式意味論入門』. 開拓社

- Coppock, Elizabeth and Lucas Champollion. Invitation to Formal Semantics. Some reference books for natural language quantifiers:
- Szabolcsi, A. (2010). Quantification. Cambridge University Press.
- Keenan, E., & Paperno, D. (Eds.). (2012). Handbook of Quantifiers in Natural language. Springer.
- Paperno, D., & Keenan, E. L. (Eds.). (2017). Handbook of Quantifiers in Natural Language: Volume II. Springer.

成績評価の方法 / Grading

Homework assignments: 50%

Final Project (Presentation and Final Paper) or Final take-home exam: 40%

Active participation in discussion: 10%

成績評価の基準 / Grading Criteria

- Homework assignments and the final take-home exam are graded based on your answers and your explanations for your answers. Answers without explanations will not be accepted. Carefully explain, in your own words, why and how you came up with your answer.
- The final paper is graded based on how well you have understood the course content and how well you have applied what you have learned in the course.

Your final grade will be based on the total score:

A（秀）: 100-90

Excellent performance on the requirements of the class

B（優）: 89-80

Good performance on the requirements of the class

C（良）: 79-70

Acceptable performance on the requirements of the class

D（可）: 69-60

Minimally acceptable performance on the requirements of the class

F（不可）: 59-0

Unacceptable performance on the requirements of the class

履修上の注意事項 / Remarks

1. 【Important】If you are planning to take this course, make sure you come to the first class to understand the required level of study. Make sure that you talk with the instructor if you (have to) miss it.
2. The material will be cumulative, and it will be difficult for anyone who gets behind to catch up. Thus, attending class and doing all the exercises is important and essential.
3. This class will be conducted using both Japanese and English, or either language. The handouts are almost all in English.
4. In the event that you are unable to attend a class due to unavoidable circumstances, please

notify me in advance by 12:00 pm on the day of the class at the latest. I will then provide you with a recording of the missed class.

科目名	言語教育論／Topics in Linguistics and Language Teaching
担当教員	クランキー(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

This is a course in language teaching where the content changes may vary each semester. This semester, the course will be focused on the theory and practice of language teaching. It is intended for future teachers of English at the junior high and senior high school level.

達成目標 ／ Course Goals

By the end of the course, students will have a base of knowledge to draw from that will be useful to them as future language teaching professionals locally here in Japan. As many of our graduates find employment teaching here in Hokkaido, particular focus will be given to the classroom situation here on this island, while understanding the requirements set forth by the education ministry.

授業内容 ／ Course contents

(Anticipated Schedule)

1. Introduction and Overview of the Course
Homework 1: Review Language and Our World
Homework 2: Watch, A Modular Approach to Reading Introduction
2. Review material in Language and Our World
Homework 1: Review Language and Our Lives
Homework 2: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 1
3. Review material in Language and Our Lives
Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 2
4. Chapter 1: English as a world language (who learns it and why)
Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 3
5. Chapter 2: Theories of language and language learning

Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 4

6. Chapter 3: A discussion of learner characteristics that influence teacher decisions, including guidance on managing learning

Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 5

7. Chapter 4: A description of approaches to teaching language systems (grammar, vocabulary, and pronunciation), and to teaching language skills (speaking, writing, listening, and reading)

Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 6

8. Chapter 5: A wide range of practical teaching ideas

Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 7

9. Chapter 6 An examination of the role of technology (old and new) in the classroom

Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 8

10. Chapter 7: A description of assessment for language learning in the digital age

Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 9

11. Hokkaido-specific information

Homework 1: Watch, A Modular Approach to Reading: Unit 10

12. Mock lessons (1) Active skills (Speaking/Writing)

13. Mock lessons (2) Passive skills (Reading/Listening)

14. Review

15. Final exam

(Further homework will be given as appropriate)

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

It is highly recommended and will be assumed that each student has taken (or is concurrently taking) the undergraduate 3rd and 4th year teacher training program courses. Prior to taking this course, it is highly recommended that all students read the following two books. (Both books are available in the library.)

Clankie and Kobayashi, Language and Our World. Sanshusha 978-4-384-33381-7

Clankie and Kobayashi, Language and Our Lives. Sanshusha 978-4-384-33427-2

Following each class there will be a homework and video review. These are partially given in the course contents above. Each week, following a class, you should review any areas which remain unclear. And then, once you understand, then move on to the next unit for the upcoming class. The Modular Approach to Reading videos are presented from a learner's perspective and are intended to give you a view of how to be a better reader in a foreign language, information that can then be better presented to students of these future teachers. And while they focus solely on reading, that skill is one of the most frequently encountered for teachers at the junior and senior high school level, therefore its emphasis.

使用教材 ／ Teaching materials

Harmer, J. The Practice of English Language Teaching. Pearson. 978-1447980254 (5,170 円).

(I will try to place one or two copies in the university library.)

This book includes a DVD. We will use the DVD as well as the book.

We will also be using "A Modular Approach to Reading". These videos are online and are free to watch.

成績評価の方法 / Grading

50% Socratic direct questioning of the students (theory)

50% ability to use the principals taught in the course (application in the form of the mock lessons)

成績評価の基準 / Grading Criteria

This is a graduate level course. This course assumes a large amount of background knowledge. Students lacking that background knowledge will find this class very difficult. Students will not only need to be able to understand the theories and methods presented in this course, but they will need to apply them to a real teaching situation in the form of the mock lessons.

標語（評点） 評価基準

秀（100～90） 個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している

優（89～80） 個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している

良（79～70） 個々の科目について良い理解力及び応用力を有している

可（69～60） 個々の科目について理解力及び応用力を有している

不可（59～0） 個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない

履修上の注意事項 / Remarks

This course is only normally only for students accepted into the Applied Linguistics/Linguistics/Literature side of the Commerce graduate school program.

3rd and 4th year students who plan to become junior or senior high school teachers of English, may also take the course. But, these students should contact the professor (shawn@res.otaru-uc.ac.jp) before registering for the course.

This course is not recommended for students from other majors, or those simply looking for credits. Any non-major who wishes to take this course MUST contact me ahead of the start of the course.

科目名	応用言語学の基礎／Foundations of Applied Linguistics
担当教員	三ツ木 真実(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

This course will introduce students to the field of applied linguistics research from a variety of perspectives. However, the main emphasis is on providing information about how people think about learning and teaching English effectively in and out of the classroom. Major topics include language learning theories, first and second language acquisition, and learner differences. It is a requirement for obtaining credits to give a presentation at the academic conference in Hokkaido on the small research project conducted individually by each student in class, including the content and results of the research.

達成目標 ／ Course Goals

Develop a basic understanding of Applied Linguistics concepts.
Identify and define the different Sub-fields of Applied Linguistics.
Discuss some of the theories and principles of language Teaching.
Discuss different learning styles and relate them to Second Language Acquisition.
Experientially learn the fundamental aspects of shaping a single research project through the preparatory process for the academic conference presentation.

授業内容 ／ Course contents

1. Introduction to Applied Linguistics and Overview of the Course
2. The Process of First Language Acquisition
3. The Process of Second Language Learning
4. Individual differences in learners and second language learning
5. Second Language Learning Theories
6. Second Language Learning and Classroom Observation
7. Second Language Learning and Teaching in Classroom
8. Small Research Project (1): Introduction

9. Small Research Project (2): Literature Review
10. Small Research Project (3) Data Collection
11. Small Research Project (4) Data Analysis
12. Small Research Project (5) Discussion
13. Final Presentation Rehearsal
14. Final Presentation
15. Wrap up of the course

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- 1) Be sure to work on the assignments based on the contents and references introduced in the class.
- 2) Be sure to make consistent progress on the small research project each week and thoroughly report and share its content within the class.

使用教材 ／ Teaching materials

Required textbook: Lightbown, P. & N. Spada. (2013) How Languages are Learned (Fourth Edition). Oxford University Press.

成績評価の方法 ／ Grading

Active class participation including preparation and discussion 20 %
Assignments 30%
Presentation 50%
(*The term "Presentation" refers to the academic conference presentation.)

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100-90）－応用言語学の基礎を非常によく理解し、授業課題の提出状況及び内容も非常に良好である。議論における論理的に一貫性においても、大学院生としては秀逸なレベルの理解と説明ができる。
優（89-80）－応用言語学の基礎をよく理解し、授業課題の提出状況及び内容も良好である。議論における論理的に一貫性において、大学院生としては秀逸なレベルの理解と説明ができる。
良（79-70）－応用言語学の基礎をよく理解し、授業課題の提出状況及び内容も過不足のない程度のレベルである。議論における論理的に一貫性において、大学院生としては過不足のない程度のレベルの理解と説明ができる。
可（69-60）－応用言語学の基礎を理解し、授業課題もこなした。議論における論理的に一貫性において、大学院生として許容できるレベルの理解と説明ができる。
不可（59 以下）－応用言語学の基礎の理解が不十分である。授業課題の提出状況及び内容も心もとないレベルである。議論における論理的に一貫性において論理的に一貫性においても、問題のあるレベルの理解と説明である。

履修上の注意事項 / Remarks

As the final goal is the academic conference presentation, please do not enroll in the course if you are unable to fulfill this requirement.

This class will be conducted using both Japanese and English, or either language.

科目名	言語文化論／Language and Culture
担当教員	朱 易安(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	朱 易安(1 号館 520 室)
オフィスアワー	朱 易安

履修上の注意事項 ／ Remarks

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

Learning the diversity of human language and human culture and the interaction between the two by consulting individual academic articles on linguistic typology.

達成目標 ／ Course Goals

To familiarize oneself with different theories and approaches of linguistic typology.

授業内容 ／ Course contents

The student will read various papers of linguistic typology and discuss them critically with the instructor.

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

Reading one academic article before each class is required.

使用教材 ／ Teaching materials

The required materials will be provided by the instructor.

成績評価の方法 ／ Grading

Attendance 40%

Chalk-talk 60%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

Weekly attendance is required. Absence for a justifiable reason will not count towards the attendance.

A chalk-talk summarizing a given linguistic article in five minutes will be the final examination.

科目名	初級ビジネス英語／Introductory Business English
担当教員	浦島 久(商学研究科アントレプレナーシップ専攻)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	金/Fri 6 ,金/Fri 7
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

目的：

ビジネスの現場に必要な実践的英語を総合的に（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）それぞれのタスクを通じて学ぶ。

内容：

ビジネス・ストーリーは、知っていて得をする、日常会話の話題になる、そして学生の英語のレベルに合ったものをセレクトする。授業は、リスニング、音読、シャドーイング、サマリー&意見の順番で進める。最終授業では、商品あるいはサービスの売り込みをプレゼンしてもらう。

形式：

- 1) 1日に90分1コマの授業を10分休憩を挟んで、2コマ連続行い、8日間継続する。
- 2) 教室内での使用言語は、日本語と英語を半々とする。

達成目標 ／ Course Goals

到達目標：

自分が知っている単語、文法で自分が言いたいことを表現できるようにする。

授業内容 ／ Course contents

モジュール1 自己紹介及びビジネス・ストーリー

第1時限：自己紹介

- 1) 授業のオリエンテーション(30分)
- 2) リスニング(20分)
- 3) 英語による自己紹介(40分)

第2時限：ビジネス・ストーリー (1)

- 1) 使える表現の学習(20分)

- 2) リスニング(5分)

- 3) 音読(10分)

- 4) シャドーイング(5分)

- 5) サマリー&意見(50分)

モジュール2 ビジネス・ストーリー

第3時限：ビジネス・ストーリー (2)

- 1) 使える表現の学習(20分)

- 2) リスニング(5分)

- 3) 音読(10分)

- 4) シャドーイング(5分)

- 5) サマリー&意見(50分)

第4時限：ビジネス・ストーリー (3)

- 1) 使える表現の学習(20分)

- 2) リスニング(5分)

- 3) 音読(10分)

- 4) シャドーイング(5分)

- 5) サマリー&意見(50分)

モジュール3 ビジネス・ストーリー

第5時限：ビジネス・ストーリー (4)

- 1) 使える表現の学習(20分)

- 2) リスニング(5分)

- 3) 音読(10分)

- 4) シャドーイング(5分)

- 5) サマリー&意見(50分)

第6時限：ビジネス・ストーリー (5)

- 1) 使える表現の学習(20分)

- 2) リスニング(5分)

- 3) 音読(10分)

- 4) シャドーイング(5分)

- 5) サマリー&意見(50分)

モジュール4 ビジネス・ストーリー

第7時限：ビジネス・ストーリー (6)

- 1) 使える表現の学習(20分)

- 2) リスニング(5分)

- 3) 音読(10分)

- 4) シャドーイング(5分)

- 5) サマリー&意見(50分)

第8時限：ビジネス・ストーリー (7)

- 1) 使える表現の学習(20分)

- 2) リスニング(5分)

- 3) 音読 (10分)
- 4) シャードーイング (5分)
- 5) サマリー&意見 (50分)

モジュール5 ビジネス・ストーリー及びディスカッション

第9時限：ビジネス・ストーリー (8)

- 1) 使える表現の学習(20分)
- 2) リスニング (5分)
- 3) 音読 (10分)
- 4) シャードーイング (5分)
- 5) サマリー&意見 (50分)

第10時限：ディスカッション

- 1) リスニング (会議) (30分)
- 2) 英語でのディスカッション (模擬会議) (60分)

モジュール6 ビジネス・ストーリーと特別プログラム

第11時限：ビジネス・ストーリー (9)

- 1) 使える表現の学習(20分)
- 2) リスニング (5分)
- 3) 音読 (10分)
- 4) シャードーイング (5分)
- 5) サマリー&意見 (50分)

第12時限：ゲストを招いての特別プログラム

ゲストへの Q&A

モジュール7 ビジネス・ストーリー及び Show & Tell

第13時限：ビジネス・ストーリー (10)

- 1) 使える表現の学習(20分)
- 2) リスニング (5分)
- 3) 音読 (10分)
- 4) シャードーイング (5分)
- 5) サマリー&意見 (50分)

第14時限：Show and Tell

- 1) Show and Tell (60分)
- 2) プレゼンテーション発表会の準備 (30分)

モジュール8 プレゼンテーション及びまとめ

第15時限：プレゼンテーション

プレゼンテーション及びまとめ (90分)

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

モジュール1

事前学修：1分程度の自己紹介を英語で話せるようにしておく。

事後学修：自己紹介を24行程度の英文でまとめメールで送る

モジュール2

事前学修：最近あったことを英語で紹介できるようにする。

事後学修：ビジネス・ストーリー (2) (3) を2回ずつ音読する。

モジュール3

事前学修：最近あったことを英語で紹介できるようにする。

事後学修：ビジネス・ストーリー (4) (5) を2回ずつ音読する。

モジュール4

事前学修：最近あったことを英語で紹介できるようにする。

事後学修：ビジネス・ストーリー (6) (7) を2回ずつ音読する。

モジュール5

事前学修：ディスカッションのための意見を英語でまとめておく。

事後学修：ビジネス・ストーリー (8) を2回ずつ音読する。

モジュール6

事前学修：ゲストに聞く質問を準備する。

事後学修：ゲストにお礼のメールを入れ、そのコピーをメールにて提出。

モジュール7

事前学修：Show and Tell のための準備をする。

事後学修：Show & Tell で紹介したものを英語でまとめ、12行程度の英文でまとめメールにて提出。

モジュール8

事前学修：プレゼンテーション発表会の準備をする。

事後学修：授業の全体的な感想を英語でまとめ、メールにて提出する。

使用教材 / Teaching materials

カラー改訂第2版『自分のことを1分間英語で話してみる』(KADOKAWA)

成績評価の方法 / Grading

- ・提出課題 (30%)
 - ・授業への参加度 (30%)
 - ・プレゼンテーション (40%) を総合的に判断して、最終評価を決定する。
- 評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出ること。

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀 (100~90)：個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している
優 (89~80)：個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している
良 (79~70)：個々の科目について良い理解力及び応用力を有している
可 (69~60)：個々の科目について理解力及び応用力を有している
不可 (59~0)：個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない

履修上の注意事項 / Remarks

履修上の注意事項：

英検(準 2 級)、TOEIC(450～490 点)、TOEFL CBT (130～150 点)、TOEFL PBT (450～470 点) を目安とする。このレベルに合わない受講生は遠慮してもらいます。

科目名	行政法研究(基本)／Administrative Law (Basic)
担当教員	尾下 悠希(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	尾下 悠希
オフィスアワー	尾下 悠希(授業中に指示します。)

授業の目的・方法／Course Objectives and method

行政法研究（基本）では、行政法の“基本的”論点を取り上げて、調査、深い理解、批判的・多角的な分析を行うとともに、各論点につき現代的な意義を考えることを目的とする。

演習形式で、行政法の学術文献を読み進める。受講者は、事前に文献を読み、授業では教員も交えて、質疑・議論を行う。

達成目標／Course Goals

行政法の“基本的”論点について理解をするとともに、批判的・多角的に分析できるようになる。

授業内容／Course contents

第1週 この授業の概要、各論点の説明

第2週～第15週 毎回、論文を読んできた上で、質疑・議論をする。

事前学修・事後学修／Preparation and review lesson

（事前学修）

文献を読む。

（事後学修）

授業時の議論内容を踏まえて、文献を読み直す。

使用教材／Teaching materials

コピーを配付する。

成績評価の方法／Grading

授業への参加度（質疑・議論の様子）

成績評価の基準／Grading Criteria

①文献の内容を過不足なく要約できたか、②批判的・多角的な分析および自身の説得的な主張ができたかを基準にして、評価を行う。①②を満たしているかどうか、満たしている場合にはそれが優れているかどうか、を考慮する。秀（100～90 点）、優（89～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）、不可（59～0 点）で成績評価をする。

履修上の注意事項／Remarks

履修を希望する場合には、履修登録の期限前までに尾下（yuki-oshita@res.otaru-uc.ac.jp）にメールで連絡してください。

科目名	憲法研究 I (基本) / Constitutional Law I (Basic)
担当教員	坂東 雄介(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	坂東 雄介(322(商大には 322 教室が 2 つあり、私の研究室は 1 号館の方です))
オフィスアワー	坂東 雄介 (連絡があれば柔軟に対応する。連絡は ybando★res.otaru-uc.ac.jp まで(★は@に変換して下さい)。)

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

この演習では、比較法アプローチによって憲法学に関する知見を深化することを目的とする。比較法アプローチとは、外国の法制度を分析・検討することにより、日本法と比較する軸を形成し、日本との共通点及び相違点を理解するアプローチである。本演習では、担当教員の関心及び能力の理由から、特に、英米圏の憲法学及び移民法・国籍法に関する文献読解及び比較を中心とする。

上記の理由から、本演習では、比較するための前提として、①学部レベルの憲法及び行政法の知識、並びに②外国語文献を読むことが出来る程度の英語能力を有していることを受講生に求める。なお、この演習は、語学の授業ではない。受講生には一定程度の英語能力を有することを前提に、外国の法制度について分析するものである。英語能力の向上(例えば英会話能力や英作文能力)の向上を目的とする者は他の授業を履修したほうが良い。

達成目標 / Course Goals

- ・日本法を外国法と比較し、相対化する視座を獲得すること
- ・移民、難民問題に関する大学院レベルの知識を習得し、多角的な分析能力、思考を身に付けること

授業内容 / Course contents

演習形式で実施する。報告者は事前に文献を読み、レジュメを作成した上で、報告することが求められる。報告者以外の履修者は、事前に文献を読んでもらうことはもちろん、報告者に質問し、全体での質疑応答(ディスカッション)に加わることが求められる。大体のペースとして、2、3週で1つの文献(または章)を読み終えるもの

としたい。

第1週 打ち合わせ(担当者決め、担当する文献の選択)

第2~3週 憲法学に関する文献についての発表及びディスカッション

第4~5週 移民に関する文献についての発表及びディスカッション①

第6~8週 移民に関する文献についての発表及びディスカッション②

第9~11週 難民に関する文献についての発表及びディスカッション

第12~15週 国籍・市民権に関する文献についての発表及びディスカッション

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

指定された文献を読み、不明点を明らかにするとともに、意見・質問などを考えてくこと

使用教材 / Teaching materials

履修者数や受講生の興味関心などを勘案した上で判断する。詳細は初回に周知する。

成績評価の方法 / Grading

受講の参加状況のみ(100%)によって判断する。具体的には、報告の準備を十分に行っているかどうか、適切な質問を提示するかどうか、積極的に質問・意見などを述べるかどうか、などである。担当した発表の放棄や欠席は一切認めない。特に悪質なものについては、その後の出席及び単位を認めない。ただし、正当な理由を有する場合はこの限りではない。

成績評価の基準 / Grading Criteria

- ・秀 (100-90): 憲法学について秀でた理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について秀でた分析をすることができる。
- ・優 (89~80): 憲法学について優れた理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について優れた分析をすることができる。
- ・良 (79~70): 憲法学について良い理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について良い分析をすることができる。
- ・可 (69~60): 憲法学について理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について分析をすることができる。
- ・不可 (59~0): 憲法学について十分な理解力を持たず、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について分析をすることができない。

履修上の注意事項 / Remarks

- ・演習形式で実施するため、事前の予習を求める。また、特段の事由がない限り、欠席は認めない。特に報告担当を放棄した場合はその場で不可とする。
- ・履修を予定している者は、第1週のオリエンテーション前日までに講義担当者である坂東に連絡すること。

科目名	憲法研究 II（基本）／Constitutional LawII（Basic）
担当教員	小倉 一志(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

憲法学（特に、基本的人権・違憲審査制など）に関する学部レベルの知識を前提として、「表現（言論）の自由」・情報法の諸問題について分析・検討を行う。

なお、前期は（基本）、後期は（発展）とのことであるので、前期は概説的な文献を、後期は内容的に特化した文献を扱うこととし、両者の棲み分けを図りたい。

達成目標 ／ Course Goals

「表現（言論）の自由」・情報法に関する（大学院博士前期課程レベルの）知識を習得し、そこでの諸問題を分析・検討できるようになる。

授業内容 ／ Course contents

演習形式で実施します。報告者は事前に文献を読み、レジュメを作成した上で、報告することが求められます。報告者以外の履修者は、事前に文献を読んでくことはもちろん、報告者に質問し、全体での質疑応答（ディスカッション）に加わることも求められます。

各回で扱うテーマの一例を下に示します（前期は概説的な文献を扱うことにします）。

1. 表現の自由の歴史
2. 表現の自由保障の意義
3. 表現規制立法の違憲審査基準
4. 違法な行為の煽動・唱道
5. 不快な言論
6. わいせつな表現
7. 名誉毀損的表現
8. プライバシーを侵害する表現
9. 営利的言論

- 1 0. 差別的表現
- 1 1. 報道の自由・取材の自由
- 1 2. 知る権利
- 1 3. パブリックフォーラム
- 1 4. ニューメディアにおける表現
- 1 5. 時・場所・方法の規制

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

毎回の予習課題として「文献の精読・レジュメ等の作成」を、復習課題として「授業内容の確認」を課すことにします。

使用教材 ／ Teaching materials

さしあたり、英語文献として、

DANIEL A. FARBER, THE FIRST AMENDMENT, 4th Ed. (2014)

JEROME A. BARRON, FIRST AMENDMENT LAW, 5th Ed. (2017)

T. BARTON CARTER & JULIET LUSHBOUGH DEE & HARVEY L. ZUCKMAN, MASS COMMUNICATION LAW, 7th Ed. (2014)

日本語文献として、

奥平康弘『なぜ「表現の自由」か』（東京大学出版会・1998 年）

市川正人『表現の自由の法理』（日本評論社・2003 年）

芦部信喜『憲法学III 人権各論(1)〔増補版〕』（有斐閣・2000 年）

駒村圭吾・鈴木秀美編『表現の自由I・II』（尚学社・2011 年）

高橋和之『人権研究 1 表現の自由』（有斐閣・2022 年）

小向太郎『情報法入門〔第 5 版〕』（NTT 出版・2020 年）

曾我部真裕ほか『情報法概説〔第 2 版〕』（弘文堂・2019 年）

を挙げておきます（詳細については、開講時に相談して決めることにします）。

成績評価の方法 ／ Grading

毎回出席することは当然として、授業への参加度（レジュメの作成・当日の報告・質問内容・質疑応答への参加など）により判断します。評価の要素・ウエイトは、授業への参加度を 100%とします。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：授業への参加度が極めて高い場合

優：授業への参加度が十分に高い場合

良：授業への参加度が高い場合

可：授業への参加度が一定程度ある場合

不可：授業への参加度が不十分である場合

履修上の注意事項 ／ Remarks

- ・基本的人権・違憲審査制などに関する学部レベルの知識を有していることを前提とします。
- ・演習形式で実施しますので、事前の準備が必要になります。また、欠席については「やむにやまれぬ」場合を除き認めません（自動的に不可になるので注意すること）。
- ・履修を予定されている方は、第1週のオリエンテーション時までに（私と）コンタクトをとってください

科目名	刑事法研究（基本）／Criminal Law（Basic）
担当教員	菅沼 真也子(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	水/Wed 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

私たちの社会では、日々、犯罪が発生しており、私たちは、主にメディアを通してこれらの犯罪の情報に接している。その意味で、犯罪や刑罰は学生諸君にとって遠くかけ離れた世界の話ではないが、一方で、このような問題について、どのような場合に犯罪が発生するのか、あるいはしないのか、といったことを具体的に検討する機会は少ない。

本講義は、刑法総論と刑法各論の両者について、近年の新しい議論や判例に関する学生諸君の理解を深めることを目的とする。毎回の講義で1つのテーマを取り上げ、事前に担当を割り当てて、担当した学生がそのテーマに関する理論の議論状況や判例の状況、及びそれに対する自身の見解をプレゼンテーションし、そのプレゼンに基づいて授業参加者で議論することで、個々の学生が自ら深く考察することができるようにする。

達成目標 ／ Course Goals

刑法総論、各論の各テーマに関する知識、理解を深める。

各テーマの考察を通して、論理的思考力を高め、自分の考えを他者に理論的に説明する能力を高める。

授業内容 ／ Course contents

第1週 ガイダンス・担当者の割り当て決定。

第2週～第14週 テーマに即したプレゼンテーション及びそれに対する意見交換。

→第2週～第8週：刑法総論のテーマ

第9週～第14週：刑法各論のテーマ

第15週 ここまでで取り上げたテーマの中で、特に重要な論点の最新判例を取り上げ、議論する。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修)

プレゼン担当学生は、担当となっているテーマを30分程度のプレゼンテーションにまとめ、レジュメを作成する。適宜、統計資料や外国での議論状況も参照し、自身の見解も明示できるようにすること。

それ以外の学生は、次週のテーマになっている問題について、自分なりに資料や判例等を参照し、最低限の基本事項について理解した上で、講義に臨むこと。

(事後学修)

プレゼンを聞いた上で、現在の議論状況や判例の問題点を挙げ、自身の見解をまとめたレポートを作成し、翌週提出すること。

使用教材 ／ Teaching materials

参考文献として以下のものを挙げる。

佐伯仁志・橋爪隆編『刑法判例百選I総論〔第8版〕』（有斐閣・2020年）

佐伯仁志・橋爪隆編『刑法判例百選II各論〔第8版〕』（有斐閣・2020年）

井田良他編『刑法演習サブノート 210問〔第2版〕』（弘文堂、2023年）

成績評価の方法 ／ Grading

プレゼンテーションの完成度、刑法への理解度、授業への参加度を基準にして、秀（90～100）、優（80～89）、良（70～79）、可（60～69）で評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：刑法に関心を持って周到に準備されたプレゼンを実施し、テーマとなっている問題について正確に理解した上で、自身の見解を理論的に明らかにできる。授業において、事前に学習してきた基礎知識に基づいて、積極的に討論に参加することができる。討論を通じて、刑法の諸問題について分析することができる。

優：刑法に関心を持って適切に準備されたプレゼンを実施し、テーマとなっている問題について正確に理解した上で、自身の見解を明らかにできる。授業において、積極的に討論に参加することができる。

良：刑法に関心を持って準備されたプレゼンを実施し、プレゼンを通じてテーマとなっている問題について正確に理解することができる。授業において、意見を求められれば討論に参加することができる。

可：事前の準備に基づくプレゼンを実施し、テーマとなっている問題について正確に理解することができる。プレゼン内容に関して意見を求められれば、自身の見解を述べることができる。

不可：プレゼン準備が不十分で、正確に理解することができない。意見を求められても自身の見解を述べることができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

教科書、参考書等は初回授業で指示します。

科目名	民法研究Ⅰ（基本）／Civil LawⅠ（Basic）
担当教員	岩本 尚禧(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業の目的は「高齢者と相続」を巡る法的問題を検討することである。医療技術の発達により、平均寿命は伸長したものの、これに伴い認知症という新たな社会問題が生み出された。そして、認知症を治癒させる方法は未だ確立されていない。これは、判断能力の低下した高齢者が社会に放置される法的リスクを発生させている。この「法的リスク」として本授業は「高齢者と相続」を取り上げる。例えば遺言の作成には「自分の財産は何か、これを誰に与えるか、当該財産を当該人物に与えるべき理由は何か？」等について理解できる能力が最低限度必要である。しかし、こうした判断能力を認知症高齢者は持ち合わせているだろうか？これを持ち合わせていないならば、当該高齢者の財産はすぐさま搾取の対象となる。法学と医学の狭間に置かれた法的課題を、裁判例や諸外国の文献、あるいは医学的知見を交えて分析・検討する。

達成目標 ／ Course Goals

学部生として習得した民法の基礎理論を駆使しつつ、遺言という法制度の趣旨から導かれる「遺言能力」のあり方を見極められる力の習得を目指す。具体的には、ある事例において認知症が疑われる高齢者に法的な判断能力があるかどうかを見極める力、そしてその判断を裏付ける「判断能力それ自体を詳細に分析することができる力」の習得を目指す。この力が習得されることによって、高齢者の遺言を巡る法的紛争を未然に防ぐことが可能になり、あるいは紛争発生後の問題を説得的に解決へ導くことが可能になり、ひいては社会における法的リスクの低下に寄与することができる。

授業内容 ／ Course contents

- 第1回 法律行為①基本原理とその歴史
- 第2回 法律行為②「能力」と「行為」の関係

- 第3回 契約①問題の確認
- 第4回 契約②法律行為と意思表示
- 第5回 契約③高齢者被害者の類型把握
- 第6回 契約④高齢者の消費者被害（その1）
- 第7回 契約⑤高齢者の消費者被害（その2）
- 第8回 契約⑥制度設計の検討
- 第9回 遺言①問題の確認
- 第10回 遺言②具体的事例の検討
- 第11回 遺言③鑑定－法律専門家と医療専門家の協同－
- 第12回 遺言④民法と神経科学
- 第13回 遺言⑤清明期と遺言能力
- 第14回 遺言⑥制度設計の検討
- 第15回 総括：高齢化社会を見据えた法の在り方について

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修として高齢者に関わる時事問題を広く把握し、必要に応じて報道記事や裁判例を収集すること。その際は認知症に対する医学的知見の到達点も意識することが必要である。

事後学修として授業中に取り扱われた裁判事例以外の事例を自ら分析すること。似た事件は存在するが、しかし同じ事件は存在しない。この「違い」が法的な判断に如何なる相違をもたらすか、を意識することは精密な法分析に欠かせない能力であり、その訓練として上記事後学修が必要である。

使用教材 ／ Teaching materials

授業中に提示する。

成績評価の方法 ／ Grading

授業各回の翻訳提出物および授業態度によって評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- ①秀：十分な比較法的知見を習得し、それを過不足なく論理的・説得的に展開することができる。
- ②優：十分な比較法的知見を習得し、それを論理的・説得的に展開することができる。
- ③良：比較法的知見を習得し、それを論理的・説得的に展開することができる。
- ④可：比較法的知見を習得できている。

履修上の注意事項 ／ Remarks

履修条件：学部時代に民法の単位を全て履修していること。本授業は主として家族法の領域に属するものの、財産法の知見は必ず求められる。民法の単位の修得は絶

対に必要である。

科目名	民法研究II（基本）／Civil LawII（Basic）
担当教員	高 影娥(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	水/Wed 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	高 影娥(1 号館 439 室)
オフィスアワー	高 影娥

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業は、民法における主要理論および重要判例を素材として、その理論構造と問題点を検討することを目的とする。受講者による報告および討論を中心に進める。

達成目標 ／ Course Goals

- ・民法の主要理論について体系的に理解し、説明できる。
- ・判例の論理構造を分析し、学説との関係を整理できる。
- ・特定の論点について自らの見解を論理的に提示できる。

授業内容 ／ Course contents

民法の主要分野（財産法）に関する理論的課題および重要判例を取り上げる。各回において受講者による報告を行い、その内容について討論を行う。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前に指定文献および判例を精読し、報告担当者はレジュメを作成すること。
事後には討論内容を踏まえ、自らの理解を整理すること。

使用教材 ／ Teaching materials

使用教材は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

成績評価の方法 ／ Grading

研究報告（60％）および最終レポート（40％）により評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：到達目標を十分に達成し、判例・学説を踏まえ論理的に検討できる。
優：到達目標を概ね達成し、主要論点を整理した上で説明できる。

良：基本的論点を理解しているが、説明・論証に不十分な点がある。
可：最低限の理解にとどまる。
不可：到達目標に達していない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

積極的な報告および討論参加を求める。

科目名	民法研究 III（基本）／Civil LawIII（Basic）
担当教員	橋本 伸(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 5
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

- （１）本講義では、私人と私人の間の法律関係を規律する基本法である「民法」の中の財貨帰属に関する規律を行う「物権法」の重要な問題を取り上げ検討する。
- （２）方法：講義＋演習の形式で行う。主として講義形式となるが、数回ほど文献報告を予定している。

達成目標 ／ Course Goals

物権法に関する日本法の基本知識を理解し、従前の日本の議論の到達点と残された課題がどこにあるかについて指摘できるようになること

授業内容 ／ Course contents

- * 以下は概ねの予定です（進捗により前後することがあります）。
- 第１回 本講義の概要／所有権１：内容、存在意義など
- 第２回 所有権２：保護１（侵害利得請求権—附：不当利得一般）
- 第３回 所有権３：保護２（準事務管理—附：利益の吐き出し）
- 第４回 所有権４：保護３（物権的請求権）
- 第５回 物権変動論１：総論
- 第６回 物権変動論２：不動産１（177条の「対抗」の意味）
- 第７回 物権変動論３：不動産２（177条の「第三者」の範囲）
- 第８回 物権変動論４：不動産物（177条の物権変動の範囲）
- 第９回 動産物権論５：動産（対抗要件、即時取得）
- 第10回 担保物権１：抵当権１（概説、設定・登記、実行手続）
- 第11回 担保物権２：抵当権２（抵当権の効力）
- 第12回 担保物権３： 抵当権３（抵当権侵害）
- 第13回 担保物権４： 抵当権４（法定地上権）
- 第14回 担保物権５： 抵当権５（共同抵当）

第15回 担保物権６：譲渡担保

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- 事前学習：事前に配布資料を一読すること
- 事後学習：取り上げた判決について判例百選等の評釈を読むこと

使用教材 ／ Teaching materials

- ①六法（必須。最新のものが望ましい）

成績評価の方法 ／ Grading

- ・以下の２点を総合評価する。
- ①授業中の報告（４０％）、②最終レポート（６０％）による（合計１００％）。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- 秀（100～90）：民法（物権法）の問題について、秀でた理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について秀でた分析を加えることができる。
- 優（89～80）：民法（物権法）の問題について、優れた理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について優れた分析を加えることができる。
- 良（79～70）：民法（物権法）の問題について、良い理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について良い分析を加えることができる。
- 可（69～60）：民法（物権法）の問題について、理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について分析を加えることができる。
- 不可（59～0）：民法（物権法）の問題について、十分な理解力を持てず、民法理論を応用して、様々な問題について分析を加えることができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

- ・学部で民法の講義を受講していることが望ましいが、分からないところをご自身で調べるつもりがあれば、未履修で受講しても問題ない。
- ・受講を考えている学生は、文献の準備の都合上、開講日の３日前までに manaba の個別指導を通じて連絡ください。

科目名	商法研究I（基本）／Commercial LawI（Basic）
担当教員	多木 誠一郎(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 4
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	多木 誠一郎(4 3 5 号室（1 号館） 電話 0 1 3 4－2 7－5 3 7 4 電子メール taki@res.otaru-uc.ac.jp（電子メールを送信する際には、連絡先電話番号の記載をお願いします）)
オフィスアワー	多木 誠一郎(後期：火曜日 12 時 30 分－13 時 30 分 予約不要。上記時間帯以外でも質問歓迎。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業を通じて会社法についての基本的事項である目的・株式・組織・運営・資金調達等について、高度専門職ないし研究職として必要とされる基礎的学力を身につけることを目的にします。

各回のテーマごとに受講生全員で議論するゼミナール形式で行います。受講生一人一人に担当箇所を決めて発表してもらい、それに対して発表者以外の受講生に質問をしてもらいます。担当箇所や授業の進度は受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めます。

達成目標 ／ Course Goals

- ・会社とりわけ株式会社は経済合理性を究極まで追求しうる法形態です。私たちが知っている他の経済団体とどのような点で共通しており、反対にどのような点で異なるのかを説明できるようになること。
- ・なぜ共通しているのか、なぜ異なるのかを株式会社と他の経済団体の基本的特質と関連付けて説明できるようになること。
- ・わが国の経済団体では株式会社があらゆる面で圧倒的な存在です。ビジネスプランニングをするに際して株式会社が使いやすいからです。起業家にとってどのような点が好まれるのかを理由を挙げて説明できるようになること。

授業内容 ／ Course contents

会社とりわけ株式会社の目的・株式・組織・運営・資金調達等を下記の通り一通り取り上げる予定です。もっとも、受講生の関心に応じて可能な範囲で対応します。上記事項以外をテーマにして欲しい等、何か特別の希望がある場合には、気軽にご相談下さい。

- ①会社とは
（予習課題）会社の種類
（復習課題）会社以外の経済団体
- ②株式会社の基礎
（予習課題）所有と経営の分離
（復習課題）経営者支配
- ③設立
（予習課題）株式会社設立の状況（統計）
（復習課題）設立に関する責任
- ④株式
（予習課題）株式自由譲渡の原則
（復習課題）株式の譲渡制限
- ⑤株主総会
（予習課題）機関分化
（復習課題）総会の問題点
- ⑥取締役・取締役会
（予習課題）取締役選任の現状
（復習課題）取締役会の問題点
- ⑦監査役・監査役会・会計監査人
（予習課題）監査役選任の現状
（復習課題）監査役の問題点
- ⑧指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社
（予習課題）委員会の導入状況
（復習課題）モニタリングモデル
- ⑨役員の責任
（予習課題）著名事件
（復習課題）責任追及の問題点
- ⑩会社の計算
（予習課題）計算書類の確定までの手続
（復習課題）分配可能額
- ⑪資金調達
（予習課題）株式発行市場の現状（統計）
（復習課題）株式の発行手続
- ⑫組織再編

（予習課題）組織再編の種類
（復習課題）経済的機能からみた組織再編

⑬企業グループ

（予習課題）企業グループの現状
（復習課題）企業グループの管理

⑭企業形態の選択

（予習課題）ビジネスプランニングの選択肢
（復習課題）株式会社の長短所

⑮まとめ

（予習課題）疑問事項の取上げ
（復習課題）疑問事項に対する私見とりまとめ

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

上記「授業内容」に記載の通り

使用教材 ／ Teaching materials

中東正文ほか『会社法』（有斐閣、第2版、2021年）
伊藤靖史ほか『会社法』（有斐閣、第6版、2025年）
神作裕之ほか編『会社法判例百選』（有斐閣、第4版、2021年）
最終的には受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めますので、決めるまで購入しないでください。

成績評価の方法 ／ Grading

- ①授業への参加度 33.4%
- ②ホームワーク 33.3%
- ③試験ないしレポート 33.3%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）：会社法について秀でた理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が秀でている。
優（89～80）：会社法について優れた理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が優れている。
良（79～70）：会社法について良好な理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が良好である。
可（69～60）：会社法について理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力がある。
不可（59～0）：会社法についての理解力が不十分であり、会社法上の法的問題を解決する能力が不十分である。

履修上の注意事項 ／ Remarks

- ・コツコツと地道に勉強していきましょう。
- ・法学の勉強をしたことがない方も履修可能です。
- ・受講生の希望があれば（受講生が複数いる場合には、受講生間で希望の一致があれば）、①札幌サテライトでの授業（一部）、②遠隔授業（一部）、③取り上げるテーマの変更等（上記「授業内容」参照）、可能な範囲で対応します。気軽にご相談下さい。

科目名	商法研究Ⅱ（基本）／Commercial LawⅡ（Basic）
担当教員	河森 計二(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

商法研究Ⅱ（基本）では、商法総則・商行為に関する裁判例の検討を行い、受講者の商法総則・商行為への理解を深めることを目的とする。

授業の方法は、『商法判例百選』を素材として、受講者の中から毎回の報告者を決定したうえで、事例の報告と受講者の質疑応答および担当教員による重要事項の解説により構成される。各回の授業は、演習形式で行うことを予定している。

達成目標 ／ Course Goals

この授業では、商法総則・商行為に関する事例を通じて、商法に関わる問題を理解し、基本的な用語や商法におかれる規定の趣旨等について説明できるようになることが達成目標となる。

授業内容 ／ Course contents

『商法判例百選』にある事例のなかから担当者を決定し、担当者による報告と受講者全体からの質疑応答を中心に演習を行う。必要に応じて、担当教員が商法総則・商行為の論点について解説する。

商法研究Ⅱ（基本）における授業内容としては、次の内容を予定しており、各回の内容による担当事例を決定し報告してもらう。

第1回：商法総則・商行為の概要

第2回：商人

第3回：商業登記

第4回：商号

第5回：営業譲渡

第6回：商業使用人

第7回：商事売買

第8回：代理商・特約店

第9回：フランチャイズ

第10回：問屋営業

第11回：物品運送

第12回：旅客運送

第13回：旅行契約

第14回：倉庫営業

第15回：場屋営業

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修としては、各回の事例における事実の概要と判旨をよく読み、理解できない用語や内容を明確にしておくこと。また、報告者への質問を考えておくこと。

事後学修としては、事例の論点整理と質疑応答の内容を確認しまとめる。

使用教材 ／ Teaching materials

神作裕之=藤田友敬（編）『商法判例百選』（有斐閣、2019 年）

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（質疑応答などの参加姿勢）：40%

報告内容：30%

課題の提出：30%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

事例報告の内容と質疑応答については、つぎの基準に留意して評価します。

秀（100 点～90 点）：①商法総則・商行為で基本となる知識を十分理解している。②事例の論点を十分理解した上で、結論を適切に導き出すことができる。

優（89 点～80 点）：①商法総則・商行為で基本となる知識を十分理解している。②事例の論点を十分理解した上で、結論を導き出すことができる。

良（79 点～70 点）：①商法総則・商行為で基本となる知識を十分理解している。②事例の論点を理解した上で、結論を導き出すことができる。

可（69 点～60 点）：①商法総則・商行為で基本となる知識を理解している。②事例の論点を理解した上で、結論を導き出すことができる。

不可（59 点～0 点）：①商法総則・商行為で基本となる知識の理解が不十分である。②事例の論点を理解しておらず、結論を導き出すことができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

この授業の受講を希望する方は、第1回授業の前日までに、受講する旨を河森のメールアドレス（kawamori@res.otaru-uc.ac.jp）に必ず連絡すること。

受講生の顔ぶれ・人数によっては話し合いのうえで柔軟に対応します。

科目名	知的財産権法研究（基本）／Intellectual Property Law （Basic）
担当教員	才原 慶道(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	才原 慶道(1 号館 3 2 3 号室)
オフィスアワー	才原 慶道(初回の授業の際に指示します。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

いわゆる知的財産法のうち、学部の授業（「知的財産法」）では、主に、非登録型の著作権法を取り上げました。大学院では、登録型の一つである特許法を扱います。この授業では、下記の使用教材を使って、特許法に関する基本的な事項を網羅的に学んでいきます。

達成目標 ／ Course Goals

学部で学んだ、非登録型の著作権法に加えて、登録型の特許法を知ることによって、知的財産法の全体像を概観し、同法の基本的な構造をより深く理解することです。

授業内容 ／ Course contents

第 1、2 回 特許発明ほか
 第 3、4 回 発明者
 第 5 回 特許取得手続
 第 6、7 回 審判・審決取消訴訟ほか
 第 8、9 回 特許権
 第 10～15 回 権利侵害
 （上記は、あくまでも進行の目安です。）

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：下記の使用教材について、当該回の予習範囲として指定された部分を読んでください。

事後学修：当該回の授業を踏まえて、4,000 字程度のレポートを作成の上、提出してください。

使用教材 ／ Teaching materials

島並良＝上野達弘＝横山久芳「特許法入門」（第 2 版、有斐閣、2021 年）

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加（質疑等） 60%
 レポート 40%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

現代商学専攻の統一基準によります。

履修上の注意事項 ／ Remarks

科目名	労働法研究（基本）／Labor Law（Basic）
担当教員	國武 英生(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	金/Fri 5
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業は、労働法が直面している課題や論点について調査・研究することを目的とする。

テーマを受講生と相談の上で選択し、関係法令、判例、実例、諸外国の法制度などを素材として、受講生の調査・プレゼンテーションをもとに質疑応答形式で進めていく。また、北大労働判例研究会に出席することにより、判例検討の方法等を学ぶ。

達成目標 ／ Course Goals

判例評釈を行う基礎的能力を身につけるとともに、労働法上の論点について学術的な知見をふまえながら論じる力を修得することを目指す。

具体的には、①裁判例や具体的な事象をもとに議論する、②日本や諸外国の制度や実態を踏まえてより広く深い考察をする、③受講生同士で対話し主体的に考える力を養う、といった点に重きを置きたい。

授業内容 ／ Course contents

労働法上の論点について、毎回、報告者を決めて報告してもらう。その報告に基づき、受講生同士で質疑応答を行うことで検討する。以下の方法を組み合わせて実施する。

(a) 判例研究：最新の労働判例について検討する。報告者には、事実の概要、判旨、判決のポイント（先例との関係・位置づけ、学説の議論など）を報告してもらう。報告にあたっては、事実と判旨について、どこがわからなかったかを積極的に明らかにすること。全員で報告内容について議論し、理解を深める。

(b) テーマ研究：重要な論点や論題を選び、上記 (a) と同様の要領で検討を加え、理解を深める。

(c) レポート作成：文章作成能力を高めることを目的として、上記 (a) (b) を素材にして、レポートを作成し、提出する。

[第 1 回] ガイダンス
 [第 2 回] 判例研究とリーガル・リサーチの手法
 [第 3 回] 判例研究
 [第 4 回] 判例研究
 [第 5 回] 判例研究
 [第 6 回] 判例研究
 [第 7 回] 判例研究
 [第 8 回] テーマ研究のアプローチと手法
 [第 9 回] テーマ研究
 [第 10 回] テーマ研究
 [第 11 回] テーマ研究
 [第 12 回] テーマ研究
 [第 13 回] テーマ研究
 [第 14 回] テーマ研究
 [第 15 回] まとめ

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前の学習として、各授業回で取り扱う検討素材および報告レジュメを読んで理解を深め、何がわからないかを確認しておく。その上で、授業で質問するなどして理解を深めること。各回の予習としては 120 分程度が目安となる。

事後の学習としては、授業の内容を復習し、発見した課題や検討のアプローチ等を書き残しておく。発見した課題を次につなげる習慣を身につけることを推奨する。各回の復習としては 60 分程度が目安となる。

使用教材 ／ Teaching materials

参考文献としては、以下のものを使用する。各論に関する教材については、テーマ選択時に指定する。

- ・國武英生『新訂 雇用社会と法』（放送大学教育振興会、2021 年）
- ・村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選〔第 10 版〕』（有斐閣、2022 年）

成績評価の方法 ／ Grading

下記の要素に基づき成績評価を行う。

- ・報告内容（リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーション） 60%
- ・授業への参加度（討論、グループワーク） 40%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- ・労働法の諸問題に深い関心を持ち、与えられた課題に積極的に取り組むことができるか
- ・与えられた課題について、口頭や文章でわかりやすくプレゼンテーションできる

か

- ・他者と協力して課題に取り組み、議論をしながら理解を深めることができるか
- ・法的な問題点を抽出し、自らの思考・判断のプロセス・結論を文章で明確に示すことができるか

上記基準について特に秀でている者を「秀」、上記基準を十分に満たす者を「優」、上記基準を一応満たす者を「良」、上記基準をぎりぎり満たす者を「可」、上記基準を満たさない者を「不可」とする。

履修上の注意事項 / Remarks

学部授業等において労働法の基礎について学習済みであることが望ましい。

科目名	社会保障法研究（基本）／Social Security Law（Basic）
担当教員	片桐 由喜(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	片桐 由喜(1 号館 407 室)
オフィスアワー	片桐 由喜 (随 時 。 た だ し 、 事 前 に メ ー ル (katagiri@res.otaru-uc.ac.jp) で訪問日時 of 約束をすること。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業は社会保障法が直面している課題や論点について調査・研究することを目的とする。

テーマを相談のうえ決定し、関係法令、判例、実務上の取扱い、外国の法制度などを素材としてする。授業は受講生の調査・プレゼンテーションを中心に質疑応答形式で行う。

達成目標 ／ Course Goals

社会保障制度の基本的な構造を理解し、判例評釈を行う基礎的能力の習得を目指す。
あわせて、受講生同士で主体的に議論し、持論を説得的に論ずる能力の習得を目指す。

授業内容 ／ Course contents

第 1 回 社会保障制度の生成史
第 2 回 社会保障制度の基本的構造
第 3 回 社会保障制度の法的根拠
第 4 回 生存権関連判例の研究
第 5 回 社会保険制度の意義
第 6 回 社会保険制度の基本的構造
第 7 回 医療保険制度の意義
第 8 回 医療保険制度の課題
第 9 回 所得保障制度の基本的構造
第 10 回 年金保険制度と生活保護制度の趣旨と相違点

第 11 回 社会保障制度の主体に関して－国籍関連判例（１）
第 12 回 社会保障制度の主体に関して－国籍関連判例（２）
第 13 回 諸外国の所得保障制度の検討（１）
第 14 回 諸外国の所得保障制度の検討（２）
第 15 回 総括：現行制度の課題の抽出と論点整理

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：

- ①各個別社会保障制度を文献等を読んで、基本的な内容を予習すること。
- ②授業の中で取り上げる判例、資料を事前に読んでおくこと。

事後学修：

授業で解説した内容を必ず自身で調べて、まとめておくこと。

使用教材 ／ Teaching materials

プリントを授業において適宜、配布。

成績評価の方法 ／ Grading

予習の程度 20%
授業での研究報告 40%
授業での質疑応答への貢献度 30%
判例評釈の程度 10%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している
優（89～80）個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している
良（79～70）個々の科目について良い理解力及び応用力を有している
可（69～60）個々の科目について理解力及び応用力を有している
不可（59～0）個々の科目について十分な理解力及び応用力を有していない

履修上の注意事項 ／ Remarks

科目名	国際経済法研究（基本）／International Economic Law （Basic）
担当教員	小林 友彦(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	金/Fri 6
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	小林 友彦(1 号館 523 号室)
オフィスアワー	小林 友彦(木曜日 13:00-14:00 金曜日 12:00-13:00)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

国際ビジネスに関連する基本的な法的論点について検討し、各自の研究分野における方法論や分析視角とどのように関連させうるか検討する機会を提供するのが、本科目の目的です。

（※法学を専攻する学生でなくても、不利にはなりません。）

達成目標 ／ Course Goals

経営学・商学・経済学・情報科学または法学を専攻する学生が、自身の研究分野と、多面的な国際ビジネスの法的課題との接点について検討し、各自の研究に活かすための視座を得ることが、本科目の達成目標です。

授業内容 ／ Course contents

履修者の専門分野に応じて、国際ビジネスの法的課題について、履修者が自ら関心のあるテーマについて問題提起し、それに対して担当教員が解説したり共同して検討したりすることを通じて理解を深めます。

トランプ関税、CPTPP、RCEP 等についても、履修者の関心があれば扱います。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：各自の専門分野における関心事項のうち、知財侵害・AI 規制・個人データ保護・広告規制など、ビジネス法務上の課題としても現れうるものを調べてください。

事後学修：授業で検討した法的分析について、各自の専門分野における今後の研究においてどのように役立つか整理してください。

使用教材 ／ Teaching materials

履修者と相談して決定します。

成績評価の方法 ／ Grading

授業参加度（70％）、小テストまたはレポート（30％）で成績評価します。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100－90）：国際経済法について秀でた理解力を示し、関連する問題について秀でた分析をすることができる。

優（89－80）：国際経済法について優れた理解力を示し、関連する問題について優れた分析をすることができる。

良（79－70）：国際経済法について良い理解力を示し、関連する問題について良い分析をすることができる。

可（69－60）：国際経済法について理解力を示し、関連する問題について最低限の分析をすることができる。

不可（59－0）：国際経済法について十分な理解力を持たず、関連する問題について最低限の分析をもすることができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

法学についての学習歴がなくても構いません。

開講する曜日や時間帯、教室（小樽か札幌かを含め）については、相談に応じます。

科目名	マネジメントサイエンスI／Management ScienceI
担当教員	ジョーダン チャールズ(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 5
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この科目では、オペレーションズ・リサーチにおいて最も重要な研究分野の一つである整数計画法について学ぶ。整数計画法とは最適化の一つであり、与えられた制約を満たす解の中から最適な整数解を計算する手法だが、整数にする制約から線型計画法よりかなり複雑な計算問題になる。工場などにおける生産計画やスケジューリングで応用されるが、情報科学においても重要な計算問題である。

この科目では、整数計画法の数学的な基礎（計算量等）・応用・最新のアルゴリズムを学ぶため、整数計画法の国際標準的な教科書(英語)の最新のものを教材にする。授業は対面のゼミ形式で行う。

達成目標 ／ Course Goals

- 整数計画問題の計算量理論を理解することにより、整数計画問題の複雑性を理解する。
- 複雑な整数計画問題を解くための最新のアルゴリズムを理解する。
- 最適解を計算することが現実的ではない場合利用できるヒューリスティックを学ぶ。
- 上記の手法の実装を実際の問題に適用できるようになる。
- 整数計画法に関する最新の国際標準的な教科書を読むことにより、この分野の研究文献等を理解するための英語力を学ぶ。

授業内容 ／ Course contents

第1部 整数計画法とは、計算しやすいバリエーション、数学的基礎（第1週～第5週）

- 整数計画法とは
- 整数計画法の計算しやすいバリエーション
- 計算量理論の紹介

- 整数計画法の計算量理論

第2部 整数計画法のアルゴリズム、最新のアルゴリズム、ヒューリスティック、ソルバ（第6週～第15週）

- 整数計画法のアルゴリズム（Branch and Bound、Cutting Plane）
- 整数計画法の最新のアルゴリズム
- ヒューリスティック等
- 上記のアルゴリズムの実装のソルバとその比較

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

毎回のテーマについて、教科書を事前に読む。復習のため、教科書からの問題を勧める。

使用教材 ／ Teaching materials

Laurence A. Wolsey. Integer Programming (2nd edition). John Wiley and Sons, 2021.

成績評価の方法 ／ Grading

成績評価は以下の通りにする。

発表：50%、討論への参加状況：50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報コース標準成績評価基準に従う。

履修上の注意事項 ／ Remarks

履修を予定している学生は事前にメール等で連絡すること。

科目名	意思決定論／Decision Theory
担当教員	片岡 駿(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 4
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

<目的>

- ・意思決定に関する基本的な知識を習得することを目的とする。
- ・意思決定における心理的バイアスについて学ぶ。
- ・意思決定における数理的方法論について学ぶ。

<方法>

- ・授業は講義形式で行う。
- ・授業内容に関するレポート課題を課す。

達成目標 ／ Course Goals

- ・人間の意思決定バイアスについて理解する。
- ・意思決定の方法について説明できる。

授業内容 ／ Course contents

- 1：意思決定の概要
- 2：意思決定における心理的バイアス
- 3：フレーミング効果
- 4：賦存効果
- 5：サンクコスト
- 6：ヒューリスティック
- 7：意思決定における確率的思考
- 8：確率の基礎概念
- 9：条件付確率
- 10：相関関係と因果関係
- 11：確率の独立性
- 12：期待効用

13：危機回避思考

14：主観確率1

15：主観確率2

※上記は目安であり，進度により変更することがあります。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

<事前学習>

講義資料に目を通しておくこと

<事後学習>

講義資料・ノートを読み直し，講義内容を説明できるようになること。

使用教材 ／ Teaching materials

講義資料を manaba で配布する。

成績評価の方法 ／ Grading

3 回実施するレポート課題によって評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報学科標準成績評価基準に従います。

履修上の注意事項 ／ Remarks

本授業の履修を希望する学生は，第1回授業の前日までに担当教員にメールで連絡してください。

レポート課題は manaba を用いて実施します。

科目名	情報システム論 I／Information System I
担当教員	沼澤 政信(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	金/Fri 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	沼澤 政信(4 号館 451 室)
オフィスアワー	沼澤 政信(事前にメールで連絡をしてください。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業では、人工知能（AI）を「人間の考え方や判断の仕組みを、計算やルールとして表現する」技術・学問として理解することを目的とします。

具体的には、問題をどのように整理し、選択肢を比較し、最も適切な答えを見つけるのかという思考のプロセスを、探索、制約の整理、確率的な判断、学習といった方法を通して学びます。そして、それぞれの方法がどのような問題に向いているのか、またどのような限界があるのかを理解します。

さらに、AI を「よく分からないが便利な仕組み」として使うのではなく、その中身の考え方を理解したうえで、自分の研究テーマや関心のある課題をどのように AI の枠組みで整理できるかを考えたい。

達成目標 ／ Course Goals

本授業の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りです。

- ・人工知能（AI）の基本的な仕組みや考え方を、学術的観点から説明できる。
- ・与えられた課題を整理し、問題の構造や前提条件を明確にできる。
- ・AI の各手法が有効となる条件とその限界を、理論的に検討できる。
- ・AI の活用可能性と課題について、批判的かつ論理的に論じることができる。

授業内容 ／ Course contents

授業では、プロジェクターを用いてスライド資料や関連動画を映写して、以下の内容について適時説明します。また、学生自身の研究テーマや関心のある課題をどのように AI の枠組みで整理できるかを、課題として与えて、各自調査して発表してもらいます。

【主な内容】

- AI の歴史や現在の AI の応用
- 問題解決としての探索理論（探索アルゴリズム）

- 制約充足問題（CSP）と組合せ最適化
- 不確実性と確率的推論
- 機械学習の理論基盤
- AI の限界と倫理・社会実装

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修として、次の授業内容に記載された語句について、各自で情報系の書籍や雑誌、ウェブ記事等で調べることを期待します。また、事後学修では、講義資料や参考資料の内容を確認し、復習してください。授業の中で特に関心を持った事項については各自で積極的に調べて、より深い知識を得るように努めてください。

使用教材 ／ Teaching materials

特に指定しません。

成績評価の方法 ／ Grading

下記の評価要素とウェイトにより、総合的に本授業の評価を行います。

- 授業への参加度（各回のプリント課題）：15%
- manaba の小テスト（理解度チェック）：15%
- 課題への取り組み：70%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報コース標準成績評価基準に従います。

履修上の注意事項 ／ Remarks

- 授業方法、受講に関しての諸注意や評価方法の詳細などは、第一回講義日に簡単に説明します。
- プログラミングおよびコンピューターネットワークに関する講義を学部で履修していることが望ましい（ただし、履修条件ではありません）。

科目名	情報システム論 II／Information SystemII
担当教員	三浦 克宜(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

情報システムは、社会生活やビジネス活動を支える重要な柱のひとつであり、高度かつ知的な情報処理を人間に代わり行なっている。一方で、情報システムの内部構造の大規模化と複雑化が進んでおり、情報システムの正しさを保証することが非常に困難になっている。情報システムの正しさを真に追求することは、安全な情報システムの構築に重要であり、また、近年の大きな話題である人工知能（Artificial Intelligence：AI）技術の発展に繋がる。本授業では、情報システムの正しさを基礎とする問題解決手法の理論や技術について学習する。

達成目標 ／ Course Goals

本授業により得られる知識や技術は以下の通りである。

1. AI 技術が必要とされる背景および技術的な発展が明確になる
2. 宣言的意味の等価性に基づくプログラム合成理論を理解し、その基でプログラミングができる
3. 現代の AI 技術とその理論の違いを知り、それぞれの良し悪しを理解する

授業内容 ／ Course contents

本授業は全 15 回からなり、話題ごとにレポート課題を出題する。予習・復習については必要に応じて適宜指示する。

第 1 週：本授業の概要 =必要な基礎知識と最終目標を知る=

第 2,3 週：AI 技術の必要性和重要性 =形式的意味論や機械学習の基礎を学ぶ=

第 4-6 週：宣言的意味の等価性に基づくプログラム合成手法

第 7-12 週：例題とプログラミングを基に、その理論の構造を理解する

第 13,14 週：現代 AI 技術との理論の違いを考察する

第 15 週：本授業のまとめ

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

基礎知識（用語）や技術をより深く理解するために、事前学修としては情報系の書籍やウェブ記事などを読むように心がけること。計算モデル、形式的意味、人工知能、機械学習、論理プログラミングなどをキーワードとして参考書籍を探す。例えば、以下の書籍が挙げられる。

1. 計算論理と人間の思考 推論 AI への論理的アプローチ, ロバート・コワルスキ, ISBN-10：4909240064
 2. 計算モデルとプログラミング, 猪股俊光ほか, ISBN-10：4627854714
 3. 形式意味論入門, 田中拓郎, ISBN-10：4758918228
 4. 数理議論学, 若木利子ほか, ISBN-10：4501555505
 5. 人工知能は人間を超えるか, 松尾豊, ISBN-10：4040800206
 6. 人工知能 仕事編, 松原仁, ISBN-10：4315522600
 7. 人工知能 ディープラーニング編, 松尾豊, ISBN-10：431552185X
- そして、事後学修としては授業資料や参考書籍などに目を通すように心がけること。

使用教材 ／ Teaching materials

授業資料はウェブサイト経由で配布する。参考書籍などは必要に応じて適宜提示する。

成績評価の方法 ／ Grading

下記の評価要素とウェイトを基に総合的に理解度を評価する。

授業への参加度（事例紹介、討論）：20%

レポート課題の提出状況：40%

最終的な理解度（議論形式）：40%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報コース標準成績評価基準に従う。

履修上の注意事項 ／ Remarks

1. 受講希望者は、第 1 週の授業開始の【7 日前の正午】までに E メールで連絡すること。

※ k-miura (AT) res.otaru-uc.ac.jp (AT)を@に置き換える

2. 本授業は、講義形式と演習形式の併用で行う。

科目名	コンピュータサイエンス I / Computer Science I
担当教員	三谷 和史(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	三谷 和史(4 5 5) 三谷 和史(mit@mit-s.otaru-uc.jp)
オフィスアワー	までメールにて連絡のこと。)

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

目的:本学の学部教育で使用するプログラミング言語は、それを実行するコンピュータの動作原理であるフォン・ノイマン型に基づいた手続き型の言語である。

しかし、それ以外のパラダイムに基づく言語も存在する。その中でも特に関数型のパラダイムに基づく言語を概観し、実際に関数型言語を使つてのプログラムの作成を通じて、プログラミングへの理解を深める。

言語としては、SML, OCaml, Haskell, Scheme 等の何れかを考えている。

最終的には、単に問題を関数的に分析できるだけでなく、

効率が良く関数型言語らしい形で分析できる能力を身につける。

更には、関数型言語で最適化された関数を手続き型言語に戻すことで、

手続き型言語での正しく最適なプログラム作成に資することが出来ることを学ぶ。

方法:輪講と演習

達成目標 / Course Goals

- ・問題の構造を再帰的・関数的に理解できること
- ・高階関数を使ったプログラムの作成ができること
- ・関数の最適化を理解できること
- ・遅延評価を使ったストリームの概念を理解し作成ができること

授業内容 / Course contents

学生の興味や進行具合によって多少の変更はあるが、おおよそ以下の通り。

初回：イントロダクション

2-4 回目：正格言語 SML と非正格言語 Haskell の概観と基本的プログラミング

5-6 回目：高階関数を使ったプログラミング

7-8 回目：末尾再帰と CPS

9-10 回目：SML での無限リストの実現とモジュールシステム

11-12 回目：Scheme の Call/CC と SECD マシン

13-14 回目：関数型言語による言語処理系の作成例について

15 回目：まとめ

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

課題となるプログラムの作成、デバッグ及び文献等の精読

使用教材 / Teaching materials

適宜指示する。また、プログラミング作成のための問題プリントを配布する。

成績評価の方法 / Grading

定期試験は行なわない。講義への参加度と課題への取組状況で総合的に評価する。具体には、講義への参加度 6 割、プログラミング 4 割程度で評価する。

成績評価の基準 / Grading Criteria

社会情報コース標準成績評価基準に従う。

履修上の注意事項 / Remarks

ある程度のプログラミングを行なえ、プログラミング言語への興味があることが望ましい。英語による文献、本を読む能力があること。

科目名	知識科学／Knowledge Science
担当教員	佐山 公一(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 基本科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 1
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

無料の統計クラウドサービス SAS ODA(On Demand for Academics)と共分散構造分析ソフト Amos を使って、統計学の基礎とデータ分析法の概要を学ぶ。Zoom を介したリアルタイムの遠隔授業の演習形式で行う。適宜課題を自分で設定し、設定した課題を発表する。

達成目標 ／ Course Goals

・統計分析を正しく行え、分析結果を間違えずに読めるようになる。

授業内容 ／ Course contents

第 1 週～2 週 質問紙調査（サーベイ）の作成方法を学ぶ。
 第 3 週～4 週 データを整理・加工する方法と集計方法を学ぶ。
 第 5 週～6 週 平均と分散をとる。平均値の差の検定を行う。
 第 7 週～8 週 検証的因子分析を行う。
 第 9 週～10 週 クラスター分析、コレスポネンシ分析を行う。
 第 11 週～12 週 確認的因子分析を行う。
 第 13 週 回帰分析を行う。
 第 14 週～15 週 共分散構造分析を行う。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

統計分析を正しく行え、分析結果を間違えずに読める、という本科目の目的を達成するためには、事前に、学部で統計学を学んでいることが必要です。もし統計学に関する基本的な考え方を知らなければ、学部レベルの統計学の教科書を一通り読んでおいてください。

使用教材 ／ Teaching materials

履修者の学習状況を見ながら、質問紙調査、因子分析、t 検定、分散分析、SAS に関する教科書を、適宜指定する。

成績評価の方法 ／ Grading

参加度 40%
 課題の発表 10%
 ホームワーク（分析の自習） 50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報コース 標準成績評価基準 に従う。

履修上の注意事項 ／ Remarks

とくになし。

科目名	人文・社会科学特講 a／Special Studies in Human/Social Science a
担当教員	宮田 賢人(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	水/Wed 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

授業の目的：

近年、紛争解決の方法としての「討議（民主主義）」は危機に陥っているように見えます（あるいはそのように語られることがしばしばあります）。討議とは、何か争いが生じたとき、関係者の間で、暴力ではなく、自由で平等で誠実な理由の交換を通じて、何が正しくて何が正しくないかを共に決めていく営みですが、このような営みは、少なくとも自由民主主義の社会においては、望ましい紛争解決の方法であると考えられてきました。しかし、近年の世界各地における戦争の発生や、SNS を中心とするデジタル空間におけるフェイクニュースや感情扇動的なコミュニケーションの増大は、暴力ではなく理性的な議論に定位しようとする討議の無力さや限界をさまざまな面から露呈させています。そうしたなかで、討議（あるいは民主主義）の危機が語られるのみならず、代替案の提案もなされています。本授業の目的は、こうした討議（民主主義）の危機の時代にあって、討議や民主主義の哲学的基礎を学習し、現代社会におけるその可能性と限界とを多角的に整理・考察することにあります。

授業の方法：

- ・討議や民主主義の哲学的基礎に関する基本文献を受講生で輪読し、ディスカッションする。
- ・また、授業の終盤では、受講生による研究レポート（期末レポート）の発表会を行う。

達成目標 ／ Course Goals

- ・討議（民主主義）の根拠づけや限界をめぐる基本的な哲学的論点について学習すること。
- ・これらの哲学の理論を具体的な事例に応用して事例を分析できるようになること。

- ・自身の主張を他者に対して説得的に表現し論証する技能を涵養すること。

授業内容 ／ Course contents

第1回： イントロダクション

第2～12回：

上述のテーマに沿った論文・著作を輪読します。以下は取り上げる可能性のある文献の候補です（受講生の人数や希望に応じて取り上げる文献は決定する予定）。

- ハンス・ケルゼン『民主主義の本質と価値』
- カール・シュミット『現代議会主義の精神的状況』
- ユルゲン・ハーバーマス『道徳意識とコミュニケーション行為』
- ジェイソン・ブレナン『アゲインスト・デモクラシー』 etc.

交代で担当者が文献の要約レジュメを作成し、それをもとにディスカッションを行います。

第13回：まとめと研究レポート（期末レポート）の準備

第14～15回：研究レポート（期末レポート）の報告会

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学習：

- ・輪読対象の文献は毎回事前に読んできてください（自分が要約を担当しない回でも）

事後学習：

- ・授業で理解が追いつかなかった箇所は入門書などを使って（あるいは私への質問を通じて）フォローアップしてください。

使用教材 ／ Teaching materials

ハンス・ケルゼン『民主主義の本質と価値』

カール・シュミット『現代議会主義の精神的状況』

ユルゲン・ハーバーマス『道徳意識とコミュニケーション行為』

ジェイソン・ブレナン『アゲインスト・デモクラシー』

成績評価の方法 ／ Grading

平常点（50％）、期末発表およびレポート（50％）

- ・平常点は積極的なディスカッションの参加の有無を重視して評価します。
- ・本授業は演習形式なので理由のない3回を超える欠席で自動的に不可評価とします。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：成績評価の総合点数が100点～90点

授業で扱った差別や平等の諸学説と論点と直接は取り上げられなかった派生的論点を正しく理解しており、それを具体的事例に十全な仕方に応用することができる。

優：89 点～80 点

授業で扱った差別や平等の諸学説と論点を正しく十全い理解しており、それを具体的事例に応用することができる。

良：79 点～70 点

授業で扱った差別や平等の諸学説と論点を理解しており、それを具体的事例に応用することができる。

可：69 点～60 点

授業で扱った差別や平等の諸学説の基本的要点をおおむね理解しており、それを具体的事例に一応は応用することができる。

不可：59 点以下

授業で扱った差別や平等の諸学説とその基本的要点の理解が不十分であり、具体例への応用も不適切である。

履修上の注意事項 ／ Remarks

・授業の性質上 20 名を定員とします。希望者が 20 名を超えた場合は、哲学・倫理学の既習者を優先し、またその中でも成績優秀者を優先します。

・2027 年度に開講される可能性のある卒業研究ゼミナール（宮田賢人）の履修を希望する学生は、本講義の履修を強く推奨します。

科目名	自然・健康科学特講 a / Special Studies in Natural/Health Science a
担当教員	後藤 良彰(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
開講曜限	月 / Mon 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	後藤 良彰(357)
オフィスアワー	後藤 良彰(月曜日 12:50～14:30 (その他の時間帯でも構いません。できるだけ事前にメールでご連絡ください。))

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

目的:

複素数ならびに複素数を変数とした関数(複素関数)は、現代数学において必要不可欠な概念となっており、実数の枠組みにおける計算にも応用がある。

本科目では、複素数と複素関数の基礎を学習する。代数・幾何・解析といった複数のアプローチにより、複素数を普段扱っている「数」と同様に捉えられるようになることを目標とする。

方法:

基本的に板書で講義を進めていく。

2 回目以降の講義では、毎回出席確認のついでに演習として小テストを実施する。ノートを見たり周囲の人(教員含む)と相談したりして構わないので、講義内容の理解を深めるために利用してもらいたい。

達成目標 / Course Goals

- ・複素数を用いた様々な計算ができる。
- ・複素数と平面図形の関係を説明できる。
- ・具体例を通じて、複素関数と実数の関数との類似点及び相違点を説明できる。

授業内容 / Course contents

履修者の理解度や興味に応じて進度や内容を変更する可能性がある。

1. イントロダクション、複素数の導入
2. 複素数の計算、複素平面
3. 極形式、オイラーの公式

4. 複素平面と演算の関係
5. n 乗根
6. 2 次方程式、3 次方程式の解の公式
7. 無限遠点、拡張された複素平面とその上の関数
8. 複素平面内の円と直線の方程式
9. 1 次分数変換と 2 次正方行列
10. 円円対応
11. 複素関数としての指数関数、三角関数
12. 複素関数としての三角関数
13. 複素関数としての対数関数
14. 複素関数としてのべき関数、逆三角関数
15. 代数学の基本定理

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

復習に力を入れること。

講義を受ける際には、前回までの内容がきちんと理解されていることが望ましい。

- ・講義ノートをよく読み、概念や計算方法を定着させる。
- ・講義中に扱った例題や問題を解き直す。
- ・配布された練習問題に取り組む。

使用教材 / Teaching materials

特に教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布することもある。

参考文献として、以下を挙げておく。

- ・片山孝次「複素数の幾何学」岩波書店
- ・野口潤次郎「複素数入門」共立出版
- ・志賀浩二「複素数 30 講」朝倉書店
- ・R.V.チャーチル, J.W.ブラウン, 中野實訳「複素関数入門(原書第 4 版新装版)」数学書房

成績評価の方法 / Grading

- ・期末試験 70%
- ・平常点(毎回の小テスト) 30%

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀(100～90): 複素数及び複素関数について秀でた理解力を示し、様々な学問に応用することができる。

優(89～80): 複素数及び複素関数について優れた理解力を示し、計算問題や証明問題を解くことができる。

良(79～70): 複素数及び複素関数について良い理解力を示し、計算問題を解くことができる。

可(69～60): 複素数及び複素関数について理解力を示し、基本的な計算問題を解くことができる。

不可(59～0): 複素数及び複素関数について十分な理解力を持たず、基礎的な問題を解くことができない。

履修上の注意事項 / Remarks

本学の学部で開講している「数学 I」程度の内容を習得していることが望ましい。

科目名	自然・健康科学特講 c / Special Studies in Natural/Health Science c
担当教員	片山 昇(商学部) / 沼田 ゆかり(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
開講曜限	火/Tue 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

経済の発展にともない食生活が豊かになる一方で、自然の喪失や食の安全性が問題となってきた。本講義では、生命と食料生産のしくみ、食品機能について学び、自然と食に関する諸問題の理解を目的とする。パワーポイントを用いた講義を中心とするが、中間・最終課題として、各自が調べた結果を報告していただく予定である。

本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下の通りである。

- ・化学の観点に基づき、食品や食品機能に関する問題を説明できる。
- ・科学的視点から、生物（生命）の環境への適応を説明できる。

達成目標 / Course Goals

- ・食品化学の基礎と先端的な内容を理解し、食品に対する幅広い知識を修得する。
- ・生物学や農学に関する学術的課題を理解し、その課題の解決に向けた仮説を提案する。

授業内容 / Course contents

第1～3回 食品の成分
 第4～5回 食品に関する技術
 第6～8回 食品の機能性（プレゼンテーション）
 第9～11回 科学（Science）について
 第12～13回 生物の驚異の能力
 第14～15回 生態系サービス（プレゼンテーション）

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

自然と食に関する諸問題を理解するという目標を達成するため、日頃から自然と食

に関係するような新聞雑誌の記事等をよく読むように心がけ、食品に関心を向けること。

- ・配布されたプリントを熟読し理解を深め、積極的に授業に参加できるように準備しておくこと。
- ・学術的な視点で中間・最終課題の報告（プレゼンテーション）ができるように準備しておくこと。

使用教材 / Teaching materials

特に指定しない。必要に応じて参考文献を示すとともに、重要事項はプリントで配布する。

成績評価の方法 / Grading

受講状況と授業への参加度（討論・調査など）、レポート、プレゼンテーション等を総合的に考慮して評価する。

受講状況と授業への参加度（討論・調査など） 50%
 レポート 30%
 プレゼンテーション（中間・最終課題） 20%

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀（100～90）：生命と食糧生産のしくみ、食品機能について秀でた理解力を示し、自然と食に関する問題について秀でた分析ができる
 優（89～80）：生命と食糧生産のしくみ、食品機能について優れた理解力を示し、自然と食に関する問題について優れた分析ができる
 良（79～70）：生命と食糧生産のしくみ、食品機能について良い理解力を示し、自然と食に関する問題について良い分析ができる
 可（69～60）：生命と食糧生産のしくみ、食品機能について理解力を示し、自然と食に関する問題について分析ができる
 不可（59～0）：生命と食糧生産のしくみ、食品機能について十分な理解力を持たず、自然と食に関する問題について分析ができない

履修上の注意事項 / Remarks

自然科学の見地から生命と食品について考察するので、日頃から自然と食に関する事象に関心を持ってもらいたい。

科目名	外国語演習 a（ドイツ語）／Foreign Language Seminar a
担当教員	林 弘晃(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	林 弘晃(1 号館 509 室)
オフィスアワー	林 弘晃(在室時可)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業では、これまでに学んできたドイツ語を用い「私」の考えや感情について語ること、そして、母語とは異なる言語とその背景をなす文化を学ぶことによって世界に関する認識の地平を広げ、「私」の価値観を相対化すること、この二つが目標となります。

これまでに学んできたドイツ語能力にさらに磨きをかけつつ、同時にしばし立ち止まって、西洋から遠い極東の国でドイツ語を学んでいるこの「私」とは一体何者か？ということについて、少し考えてみましょう。この授業を通じてドイツという国にさらに興味が湧き、それに応じて日本社会についても一層深く考えることができるようになれば、大成功です。

この目的を念頭に置き、コミュニケーションに重点を置いた教科書を用いてドイツ語を聞く、読む、また話す能力を養っていきます。また youtube 等の動画も積極的に活用して、最新のドイツ事情に触れていきます。

達成目標 ／ Course Goals

この授業の達成目標は以下の通りです。

- 1) ドイツ語圏の文化に対し、知的な興味を抱く。
- 2) 多少抽象的なドイツ語の文章を理解する。
- 3) 日常的なドイツ語を聞き取り、ある程度理解する。
- 4) 平易なドイツ語で意見の表明ができる。

授業内容 ／ Course contents

ドイツの国と人々を紹介するために作られたドイツ製のビデオ教材を選んで使用します。授業で扱うテーマは以下の予定ですが、参加者の必要度・理解度によって進度や内容が変わる場合もあります。

第 1, 2, 3 回：旅行での経験について語る

第 4, 5, 6 回：余暇の過ごし方について語る

第 7, 8, 9 回：AI とデジタル技術について自分の意見を述べる

第 10, 11, 12 回：多様なパートナーのありかた

第 13, 14, 15 回：住まいとライフスタイル

それぞれのテーマに加えて、ドイツの時事問題について、ドイツ語のニュース動画を通じて知識を深めます。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

- ・各授業の前に宿題をチェックし、授業で扱われる予定のテキストを自分がどれだけ理解しているか確認しましょう。
- ・テキストを復習し、発音練習をしましょう。
- ・毎回宿題が出されるので、必ずそれを完了しましょう。特に作文課題をやらずに授業に出ることがないようにしましょう。

使用教材 ／ Teaching materials

- ・『モドゥーレ 2』（Andreas Meyer 他、朝日出版、2750 円）
- ・ドイツ語辞書
- ・youtube 等の動画教材

成績評価の方法 ／ Grading

授業回数の 1/3 以上欠席すると単位取得の権利を失います。中間試験・期末試験の試験結果を 9 割、宿題の状況、授業での発話等の受講姿勢を 1 割として総合的に評価します。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

総合点 90%以上：秀

80～89%：優

70～79%：良

60～69%：可

60%未満：不可

履修上の注意事項 ／ Remarks

参加の基準はドイツ語Ⅱ既修程度のドイツ語能力ですが、相談に応じます。

欠席回数が 5 回以上になると単位取得資格を失います。

また、授業は教師と学生の対等な共同作業で成り立っていますから、意見や要望は大いに歓迎します。

科目名	外国語演習 b（フランス語）／Foreign Language Seminar b
担当教員	尾形 弘人(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	尾形 弘人(521)
オフィスアワー	尾形 弘人(火曜 12:00～13:00 事前にメールにて連絡すること)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

【目的】

フランス語I、IIで学んだフランス語をさらに発展させ、特に読解について「自立している」と言えるだけのレベルを目指します。ここで「自立」とは、自分の目的に応じて、自身でフランス語を勉強できることを意味し、その基本はやはり辞書を使いこなせることとにあります。

【方法】

フランスの文化や社会などについて書かれた文章を「速読・多読」します。予習に際しては、辞書の日本語訳を単につなげるのではなく、構文や語法を理解するように努めて下さい。

また、固有名詞や背景となる文脈など、不明の点があれば、インターネット等で調べておくこと。さらに、音読も予習に含めますので疎かにしてはいけません。

達成目標 ／ Course Goals

- ・構文を素早く見抜く力
- ・語法の深い理解
- ・微妙なニュアンスを感じ取るセンス
- ・全体的な内容の理解
- ・フランス語らしい発音

授業内容 ／ Course contents

教科書は日本人学習者向けに、毎年、新しく書かれ、アップ・トゥ・デイトな内用となっています。2026 年度版のタイトルは以下のとおりで、1 回の授業で 1 課を読

み進める予定です。

- フランスの日本人サッカー選手たち
- フランス政局の激動
- アルザス地方の料理
- フランスの子どもの課外授業
- ストリート・ミュージシャンたち
- ミストラル AI ー フランス流のイノベーション
- ベトナム、カンボジア、ラオスとフランス
- パルクールシュップ ー 高等教育への進学プラットフォーム
- 日本映画とカンヌ
- フランスの地方言語
- 百獣の王だった熊
- バティックの職業教育
- EU と農業協定
- フロン・ド・メール(k どもを守る親の会)
- 浸食が進むフランスの沿岸地帯

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

<事前学習>

予習として、単語の意味・語法を丁寧に調べ、論理だった日本語に訳出しておくこと（必ず訳文をノートに書いておくこと。）

また、音声ダウンロードし、発音練習を行うこと。

<事後学習>

復習として、発音の反復練習、指示された課題などを行うこと。

使用教材 ／ Teaching materials

ジョルジュ・ヴェスィエール他著『時事フランス語 2026 年度版』、朝日出版社

成績評価の方法 ／ Grading

定期試験 50%、平常点（積極性、予習の有無、復習の有無、課題の提出など）50%を目途に評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

上記の「達成目標」について、総合 90%以上を秀、80～89%を優、70～79%を良、60～69%を可とする。

履修上の注意事項 ／ Remarks

- フランス語Iおよびフランス語IIを単位修得済みか、あるいはフランス語検定試験 3 級合格程度の学力があることを前提とする。
- 成績評価は授業への出席が前提となっているので出席による加点はない。

逆に欠席はその回数に応じて減点する。

○欠席が目立つ場合、また、未予習や課題の不提出など学習状況が芳しくない場合、学期の途中でも履修を遠慮してもらう場合もある。

○公欠は「授業及び定期試験の欠席に関する取扱要項」に該当する要件のみとし、成績評価の際に考慮する。

○諸般の事情により対面授業ができない場合、遠隔授業（zoom 等）に切り替える場合もある。

科目名	外国語演習 c (中国語) / Foreign Language Seminar c
担当教員	嘉瀬 達男(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	嘉瀬 達男(1 号館 303 号室)
オフィスアワー	嘉瀬 達男(在室時。事前に連絡があると確実。)

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

中国語を 2 年程度学習した者を主な対象とし、身につけた中国語の能力を更に向上させることを目的とします。特に会話力の向上に重点を置きます。
 会話には発話と応答の能力が必要ですが、発話には即座に作文する能力、応答には相手の発言を聴き取る能力が求められます。
 そこで授業では、簡単な短い文で即座に発話する練習、相手の発言を正確に理解すること、そして一問一答にとどまらず、会話を長く展開させる訓練を中心に行ないます。
 また会話に必要な語彙力の増強にもつとめます。

達成目標 / Course Goals

日常会話の中で自分の意思を伝え、会話のやりとりをスムーズにできるようになること。
 身の回りの単語や日常生活で用いられる語彙、受講生それぞれにとって有用な単語に習熟し、会話に活用できること。

授業内容 / Course contents

教材は、日常的な会話の能力を高めるために特化した教科書を用います。
 教科書の内容は以下の通りです。
 第 1 課 あなたをもっと知りたくて (名前・身分・家族：人について 1)
 第 2 課 彼ってどう？ (趣味・外見・服装：人について 2)
 第 3 課 どこから来たの？ (どこに・どこから・どこで：場所について 1)
 第 4 課 あなたの家へはどうやって行くの？ (道順・出所・面白い場所：場所について 2)
 第 5 課 何年生まれ？ (年・月・日・曜日・時刻：時について 1)
 第 6 課 いつ帰る？ (時点・いつからいつ・いつまで：時について 2)

第 7 課 おいくつですか？ (年齢・値段・サイズ・距離：数について 1)
 第 8 課 気になる数値 (速さ・高さ・温度：数について 2)
 第 9 課 どうやってやるのか (方法・手段・やり方：方法について 1)
 第 10 課 誕生日はどう過ごす？ (料理の作り方・休暇・誕生日の過ごし方：方法について 2)
 第 11 課 週末の天気はどうですか？ (天気・体調・仕事：状況について 1)
 第 12 課 最近どうしてる？ (生活・住宅・学習の状況：状況について 2)
 第 13 課 どんな髪型にしたいですか？ (仕事・髪型・書類記入：求めること・求められること 1)
 第 14 課 何をお望みですか？ (機内で・募集条件・パソコンの環境：求めること・求められること 2)
 第 15 課 この映画どう？ (感想・相談・意見：意見について 1)
 第 16 課 あなたの意見は？ (方法・意見：意見について 2)
 各課いずれも 3 種類の発問が設定され、1 つの発問に対してそれぞれ異なる 3 つの応答方法が提示されています。これらの会話や既習の会話表現を利用しながら自由会話を展開し、より長く会話が続けられるよう練習を繰り返します。
 単語は、新たな語彙の増強にも努めますが、既に習得した単語も十分に活用してもらいます。
 授業では毎時 1 課ずつ進むことを目指しますが、時間をかける課と省略する課は履修生の意見を参照しつつ調整します。
 練習問題では発問・応答練習のほかリスニングも行ないます。

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

【事前学習】

今回の内容に簡単に目を通し、会話練習に使う既習単語や使ってみたい単語を確認しておくこと。単語帳を作ると良い。

【事後学習】

授業中の会話を通して学んだ新たな単語や表現、関連分野の中国語を覚えること。
 学習した会話の朗読練習や、音声を使ったシャドーイング。

使用教材 / Teaching materials

『訊 (き) くが勝ち』相原茂・郭雲輝・田禾 (朝日出版社)

成績評価の方法 / Grading

授業での発音・会話練習・授業参加度 70%
 単語小テスト・提出物 (manaba 小テスト) または小スピーチ 30 %
 受講者数により変更することがあります。

成績評価の基準 / Grading Criteria

秀：学習内容について、ほぼ完全に習得した者。

優：学習内容について、十分に習得した者。

良：学習内容について、おおむね習得した者。

可：学習内容について、基本的に習得した者。

不可：学習内容について、ほとんど習得しなかった者。

履修上の注意事項 / Remarks

予習・復習に時間をかければかけるほど、授業で積極的に発言できるようになること
でしょう。特に発音朗読練習に時間をかけることを勧めます。

この授業は「外国語上級Ⅲ（中国語）」との合同授業です。

中国語を母語とする者は事前に教員に申し出ること。

科目名	外国語演習 d（スペイン語）／Foreign Language Seminar d
担当教員	石井 登(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	石井 登(1 号館 515 研究室)
オフィスアワー	石井 登(毎週木曜日 13:00 以降)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

今年度の授業はスペイン語のテキストを使ってイタリア語の文法書を読んでいます。スペイン語ネイティブ向けのイタリア語文法書で学び、毎回日本語へと訳していきます。

原書講読を通じてスペイン語の文法用語を理解していくとともに、イタリア語の文法も学び、それぞれを相対化していきます。

原書の入手状況や受講者の希望に合わせて内容を変えることもあります。

達成目標 ／ Course Goals

この授業の達成目標は以下の通りです。

- ・スペイン語の原書を読み内容を理解できるようになる。
- ・スペイン語の文の構造を理解し、上手に日本語へ翻訳できるようになる。
- ・文法書などには出てこなかった表現について理解できるようになる。
- ・イタリア語との比較ができるようになる。

授業内容 ／ Course contents

テキストの内容に従って読んでいきます。

第 1 回 Glosario

第 2 回 Glosario

第 3 回 Fonética y pronunciación - Vocales

第 4 回 Fonética y pronunciación - Consonantes

第 5 回 Fonética y pronunciación - Consonantes dobles

第 6 回 Los pronombres personales sujeto

第 7 回 Presente de indicativo

第 8 回 Presente de indicativo

第 9 回 Presente de indicativo

第 10 回 Los usos verbales

第 11 回 Los usos verbales

第 12 回 El artículo

第 13 回 El artículo

第 14 回 El nombre

第 15 回 El nombre

翻訳することを想定し、毎回の進度は教科書の 2 ページ程度の分量としておりますが、受講者の力量や希望に合わせて進度を変更する場合があります。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

・事前学習：授業内ではスペイン語のテキストを読んでいますので、次の事前学習を行って下さい。

1. わからない単語を調べ、意味を確認する。

（意味を確認するとは、語源的な意味まで調べ、対応する適切な日本語を考えることです。）

2. そして教材テキストの内容を可能な限り日本語に訳します。

3. わからない部分や辞書では見つからない単語などを抽出して、教員との議論に備えます。

・事後学習：教科書で扱われる文法はネイティブ向けで、ある程度詳しい内容のものです。

授業で学んだ内容を確認しながら、より良いスペイン語の表記のスタイルを考えていきます。

使用教材 ／ Teaching materials

Giulia Marcela Savini / Emiliano Bruno. Gramática italiana, Alianza ESPASA. Barcelona. 2017.

ISBN 9788467027549

成績評価の方法 ／ Grading

出席・授業参加等の平常点（50%）期末試験（50%）

（ただし、受講者人数が数名（5 名程度まで）の場合は、試験に替えて翻訳のレポートとなります。）

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

評価の基準は次の通りです。

秀 100-90 点：この授業で学んだ内容について完全に理解している。

優 89-80 点：この授業で学んだ内容についてかなり理解している。

良 79-70 点：この授業で学んだ内容についてよく理解している。

可 69-60 点：この授業で学んだ内容について最低限は理解している。

不可 59-0 点：この授業で学んだ内容への理解が不足している。

履修上の注意事項 / Remarks

外国語上級Ⅲ（スペイン語）との併設授業です。

授業では毎回スペイン語を訳していきます。理解のための予習は必須となります。

また辞書を必ず持参してください。

科目名	外国語演習 e（ロシア語）／Foreign Language Seminar e
担当教員	山田 久就(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 コース共通科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	山田 久就(1 号棟 542 号室。) 山田 久就(研究室にいる時は、連絡なしで、いつでも大丈夫です。)
オフィスアワー	す。 メールで連絡があれば、時間を決めることも可能です。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

【目的】

現在、インターネット上にロシア語で書かれた文章が大量にあり、そこから多くの有益な情報を得ることができます。インターネット上にあるロシア語の文章から自分に必要な情報を得るための基礎的な訓練を行います。また、必要に応じて、ロシア語で情報を発信することができるようになるための基礎的な訓練も行います。

【方法】

ロシア語の電子辞書（教室のコンピュータに入っています）を利用して、インターネット上のロシア語で書かれた文章を読みます。それを例にして、作文を行います。

達成目標 ／ Course Goals

- (1)辞書を用いれば、インターネット上のロシア語をある程度の速さで読むことができる。
- (2)辞書を用いれば、インターネット上のロシア語の文章を参考にして、基礎的な作文ができる。

授業内容 ／ Course contents

・ロシア語で書かれた文章をなるべくたくさん読みます。

【第 1 回】授業の説明とロシア語の知識の確認を行います。また、どのようなテーマに関心があるのかの確認を行います。

【第 2,3,4 回】インターネット上のロシア語の文章の一つ選んで、それを読みます。過去の履修者数から少人数での授業が予想されるので、学生一人一人が、自身の関

心あるテーマで、別々の文章を読み、日本語に訳します。履修者が多い場合は、相談の上で、読む文章を制限する場合があります。読む文章の例としては、**википедия**（wikipedia のロシア語版）の各項目、いろいろな情報サイト、ニュースサイト、企業のホームページ、ショッピングサイトなどです。文章を選ぶ際に、必要に応じて、助言を行います。日本語に訳している最中に、何回かチェックを行い、誤りを訂正するとともに、テキストと関連するロシア語の文法および表現方法等に関して質問と説明を行います。

【第 5,6,7 回】学生それぞれが、第 2,3,4 回で読んだ文章とは違う文章をインターネット上から探してきて、その文章を読み、日本語に訳します。最初の文章と似たテーマでも違うテーマでも結構です。

【第 8,9,10 回】学生それぞれが、前回までと違う文章をインターネット上から探してきて、その文章を読み、日本語に訳します。最初の文章のテーマと第 2 の文章のテーマが近い場合は、違ったテーマを選んでください。

【第 11,12,13 回】学生それぞれが、前回までと違う文章をインターネット上から探して来て、その文章を読み、日本語に訳すか、これまでに読んだ文章を参考にして、自分が書きたい内容で、作文を行います。その際、関連するロシア語の文法および表現方法についての説明を行います。

【第 14,15 回】これまで行ってきたことを振り返って、疑問点に関する質疑応答を行います。あるいは、さらに別の文章を読んでも、作文を行っても結構です。

*3 回で一つの文章で、全体で、四つの文章としていますが、インターネット上の文章は短いものも、かなり長いものもあるので、多少の変更は可とします。ただし、いろいろなテーマの文章を読むこと勧めます。

*ロシアの文化などに関する話題についても提供します。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

【事前学修】

自分が読みたいテキストを見つけて、できる範囲で読んでみること。
自分が作文したい内容を整理して、できる範囲で書いてみること。

【事後学修】

授業で読んだテキストを読み返すこと。
授業で書いた文章を読み返すこと。

使用教材 ／ Teaching materials

インターネット上のロシア語で書かれた文章。

成績評価の方法 ／ Grading

・授業での課題（ロシア語から日本語への訳、ロシア語での作文）の進み具合と正確さ：70%。期末試験：30%。

・ただし、授業への参加度（遅刻、参加態度、応答など）が低い場合は、上記の成績から減点（最高で 25 点）を行います。

成績評価の基準 / Grading Criteria

成績評価の基準の目安は、100 点満点として、次のようになります。

90-100 点：ロシア語を読み書きする力がかなりある。

80-89 点：ロシア語を読み書きする力が十分以上にある。

70-79 点：ロシア語を読み書きする力が十分にある。

60-69 点：ロシア語を読み書きする力が最低限にある。

0-59 点：ロシア語を読み書きする力が不足している。

履修上の注意事項 / Remarks

- ・学部 of ロシア語 II を履修済みであるぐらいのロシア語に関する知識があることを前提とします。
- ・ロシア語の電子辞書は教室のコンピューターに入っています。
- ・紙媒体の露和辞典は数量限定ですが貸し出すことができます。

科目名	公共経済学／Public Economics
担当教員	天野 大輔(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	天野 大輔(337)
オフィスアワー	天野 大輔(講義時間の前後。それ以外の場合は、事前に e-mail で連絡すること。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

経済体制としての市場経済は今や、欧米諸国のような資本主義経済圏だけでなく、世界的規模でその地位を確立している。しかしながら、あらゆる経済取引を市場原理に任せて放置すると、非効率的な資源配分や所得分配の不平等などのような、いわゆる「市場の失敗」が発生する。(応用)経済学を学ぶ者にとって、そのような希少な資源の浪費(非効率性)に対する解決手段を研究することは、重要な社会科学の価値があると考えられる。

社会科学としての近代経済学では、市場メカニズムによる資源配分の予測だけでなく、政策当局による公共政策や税改正による経済的波及効果の検討、およびそのような経済効果による所得分配の在り方を考察する。そのためには、経済モデルを用いた理論的な分析(つまり思考実験の繰り返し)、およびその拡張的分析のための試行錯誤が必要である。本講義では大学院レベルの公共経済学、財政学およびマクロ経済動学(特に内生的経済成長理論)に関する専門的知識を習得し、著名な先行研究のサーベイを通じて、前述の分野の理論モデルを規範的(normative)かつ実証的(positive)に分析できるようになることを本講義の目的とする。

特に本講義では、内生的経済成長理論を中心とするマクロ経済動学の分析手段を習得し、公共経済学および財政学の重要なトピックの一つである公共投資あるいは所得再分配のための税改正やその経済的波及効果を考察することを目的とする。例えば、持続的な成長経済を前提として政府が公共投資を始めとする財政支出の配分や税政策を変更した際に、長期的な経済成長率や所得分配に与える比較静学を分析することによって、理論モデルによる思考実験を通じた将来予測や経済政策に対する示唆を議論することも本講義の目的の一つとする。

達成目標 ／ Course Goals

達成目標として、以下の事柄を設定する。初めに、社会科学の観点から様々な既存の経済政策を検証するための基礎的枠組み(理論モデル)となる公共経済学およびマクロ経済動学に関する専門的理論を習得する。

次に、個別の経済政策・財政政策に関する経済的波及効果、政策の理論的根拠および経済学的含意や現実の問題点について、実例も交えて理解かつ議論できるようになることを目指す。最後に、様々な現実の経済政策・財政政策の有効性やそれらの限界を理論的に評価したり、テキストに掲載された既存の経済理論モデルを拡張的に分析できるようになることも最終的な到達目標の一つとする。

授業内容 ／ Course contents

本講義は、学部の経済学科卒業レベルのミクロ・マクロ経済学および経済数学の専門的知識を前提として、ゼミ形式(輪読形式)で行われる。そのため、履修者には以下で指定した海外のテキストを輪読してもらう。

各履修者に事前にテキストの報告部分を指定するので、各回の報告担当者はテキストの該当箇所の内容に関して口頭で発表してもらう。具体的には、毎回、事前に指定された報告担当者は、テキストの各自の割り当て部分の内容に関して「事前に入念で詳細な」下調べ(予習)を行い、講義の当日に各自が予習した成果をフロアの履修者の面前で口頭(日本語)で解説してもらう。したがって、本講義は履修者全員の出席を前提とし、特に口頭発表の担当者の無断欠席は厳禁とする。特に、報告担当回において1度でも無断欠席をした場合は、本講義の運営(つまり、テキストの輪読)に重大な支障が発生するので、成績評価において不可の対象になりえるものとする。

具体的な授業計画としては、例として以下のテキスト①を使用する場合には、以下のようなトピックを想定している。ただし、下記はあくまで目安であって、各回の口頭発表者は、各自で入念で詳細な下調べ(予習)を事前に行った上で、テキストの輪読および口頭発表を実施するので、実現された発表(解説)のパフォーマンスおよび履修者の理解度を基にした進捗状況に依存して、下記の授業計画は変更される可能性が十分にある。

1. ガイダンス
2. Chapter 2: Public Capital and Education (1. Background, 2. The Economy)
3. Chapter 2: Public Capital and Education (3. Equilibrium and the Balanced Growth Path)
4. Chapter 2: Public Capital and Education (4. Sensitivity of Education Technology, 5. Public Policy)
5. Chapter 2: Public Capital and Education (6. Extensions)
6. Chapter 3: Public Capital and Health (1. Background, 2. A Two-Period Framework)
7. Chapter 3: Public Capital and Health (3. Time Allocation and Growth Dynamics, 4. Public Spending, Growth, and Human Welfare)
8. Chapter 3: Public Capital and Health (5. Optimal Spending Allocation, 6. A Three-Period Framework with Endogenous Fertility)
9. Chapter 3: Public Capital and Health (7. Endogenous Life Expectancy, 8. Interactions)

between Health and Education)

10. Chapter 4: Public Capital and Innovation (1. Background, 2. The Economy)

11. Chapter 4: Public Capital and Innovation (3. Balanced Growth Path, 4. Public Policy)

12. Chapter 4: Public Capital and Innovation (5. From Imitation to True Innovation)

13. Chapter 5: Public Capital and Women's Time Allocation (1. Background, 2. The Economy)

14. Chapter 5: Public Capital and Women's Time Allocation (3. Women's Time Allocation and Fertility, 4. The Balanced Growth Path)

15. Chapter 5: Public Capital and Women's Time Allocation (5. Public Policy, 6. Women's Labor Supply and Development)

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

履修者は各自の口頭発表に備えて、事前に指定されたテキストの該当部分に関する事前の入念な下調べ（予習）や先行研究のサーベイ（調査）だけでなく、場合によっては発表を聴いているフロアの履修者のために、口頭発表のためのプレゼンテーション資料（発表形式に依存した講義ノートあるいは投影資料）およびハンドアウトの作成などが必要になる。

また、講義期間における学習環境（例えば、感染症の拡大や厳冬期の荒天）に依存して、場合によっては、（小）テストを実施したり、テキストの練習問題や、授業内容を踏まえた政策提言や拡張的分析をレポートにまとめて提出する可能性もありうる。

使用教材 / Teaching materials

輪読形式で実施される本講義の使用教材は、現時点では以下のいずれかを予定している。優先順位と併せて列挙しておくが、どのテキストを教材として選択するかは履修者の専攻や修論のテーマなどに依存する。また、取り扱うトピックによっては、海外の論文を教材として指定することもあり得る。

* 本校のシラバス登録の「仕様」の字数制限を超えるようなので、下記の「履修上の注意事項」の欄に列挙する。

成績評価の方法 / Grading

通常の授業形態を前提として、テキストを輪読する際の口頭発表（プレゼンテーション）のパフォーマンス（つまり、発表該当部分に対する事前の下調べ・調査の詳細さや口頭での説明・解説の質）で主に評価する。また、フロアの参加者になった場合には、出席は当然のこととして、発表された内容に関する議論への参加（貢献）度から評価する。

さらに、上述した学習環境の変化に依存して、場合によっては、（小）テストや課題（テキストの練習問題など）の実施状況から評価することもありえる。

成績評価の基準 / Grading Criteria

上記の「成績評価の方法」に従い、得点に換算して評価（秀・優・良・可・不可のいずれか）する。それ以外の提出課題の評価については、「経済学コースにおける成績評価の統一基準」に従う。

口頭発表（プレゼンテーション）のパフォーマンスの他には、発表された内容に関する議論への参加（貢献）度からも判断する。さらに、上述した学習環境の変化があった場合には、課題（例えば、小テストやテキストの練習問題などの提出状況）からも判断される。

また、口頭発表（プレゼンテーション）を通じた単位認定に関する評価基準となりうる目安は、以下の通り。

①：公共経済学の分野に関する経済政策の背景にある経済理論を理解したうえで口頭発表している。・・・可

②：①に加えて、経済政策の理論的正当性、政策の波及効果およびそれらの限界を論理的に説明することができる。・・・良

③：②に加えて、モデル分析の結果を踏まえて、現実の政策を評価したり、既存のモデルの理論的拡張を提案することができる。・・・優

④：③のレベルにおいて特に優れている。・・・秀

履修上の注意事項 / Remarks

上記の大学院レベルのテキストを報告・解説するためには、事前の入念かつ詳細な下調べや調査が必要である。ゆえに、大学院1年生、つまり少なくとも経済学科卒業レベルのミクロ・マクロ経済学の専門的知識だけでなく、経済数学の知識も必要とするので、履修には十分に注意すること。また、授業や manaba のスレッド（掲示板）を用いた連絡などは日本語で行う。

上記のテキストの候補については、以下のとおり。

① Pierre-Richard Agénor (著)

“Public Capital, Growth and Welfare”, Princeton Univ Press (2014)

② Philippe Aghion and Peter Howitt (著)

“The Economics of Growth”, The MIT Press (2009)

③ Giuseppe Bertola, Reto Foellmi, and Josef Zweimuller (著)

“Income Distribution in Macroeconomic Models”, Princeton Univ Press (2005)

④ David de la Croix (著)

“Fertility, Education, Growth, and Sustainability”, Cambridge University Press (2012)

⑤ David de la Croix, and Philippe Michel (著)

“A Theory of Economic Growth: Dynamics and Policy in Overlapping Generations”, Cambridge University Press (2002)

⑥ Clas Eriksson (著)

“Economic Growth and The Environment”, Oxford University Press (2013)

科目名	産業組織論／Industrial Organization
担当教員	土居 直史(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	水/Wed 3
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業では、企業や消費者の行動を分析するために役立つ産業組織論について、その理論と実証方法を身に着けることを目的とします。
基本的には、指定した教材の担当箇所を履修者が発表する形で進めていきます。そのなかで、適宜、担当教員による説明をおこないます。

達成目標 ／ Course Goals

- ・産業組織論の理論を使って、現実の企業行動について考えられるようになること。
- ・需要モデルの推定方法を理解し、適切に推定できるようになること。
- ・供給モデルと需要推定値を基に、費用を推定できるようになること。

授業内容 ／ Course contents

第1週 インTRODakション
(理論パート)
第2週 完全競争
第3週 独占
第4週 ゲーム理論の確認
第5週 ベルトランモデル
第6週 クールノーモデル
第7週 シュタッケルベルグモデル
第8週 製品差別化
(実証パート)
第9週 データの分類
第10週 回帰分析と操作変数法の確認
第11週 需要モデルの推定：単一財
第12週 需要モデルの推定：差別化された財

第13週 需要モデルの推定：差別化された財（より高度な需要モデル）

第14週 費用推定

第15週 まとめ

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

産業組織論は、現実の企業や消費者の行動の理解を目指す分野です。そのため、普段から関心をもって経済ニュースに触れてください。具体的には、たとえば以下をおこなってください。

- ・現実の企業行動や消費者行動について疑問に思う点を挙げておくこと。
- ・講義で学んだ理論をもとに、その疑問について自分なりに考えること。
- ・その疑問に対して答えを出すために、講義で学んだ実証手法をどのように使うことができるかを考えること。

使用教材 ／ Teaching materials

- ・ルイシュ・カブラル, 2023, 「企業の経済学 産業組織論入門」, 日本評論社.
- ・小田切宏之, 2001, 「新しい産業組織論」, 有斐閣.
- ・Belleflamme, P., Peitz, M., 2015. Industrial Organization (2nd ed.). Cambridge University Press.
- ・Tirole, J., 1988. The Theory of Industrial Organization. MIT Press.
- ・Akerberg, D., Benkard, C.L., Berry, S., and A. Pakes (2006) “Econometric Tools for Analyzing Market Outcomes,” in Heckamn, J.J., and E. Leamer (eds.), Hand- book of Econometrics, Volume 6.

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（事前準備に基づく発表）：50%

期末試験：50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

現代商学専攻の統一基準に従います。

履修上の注意事項 ／ Remarks

学部レベルのミクロ経済学、統計学、計量経済学の知識を前提として授業をおこないます。

科目名	労働経済学／Labor Economics
担当教員	小野塚 祐紀(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	小野塚 祐紀(4 号館 360 室)
オフィスアワー	小野塚 祐紀(Appointment by email)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

大学院レベルの労働経済学の知識を習得することを目的とする。

大学院レベルの労働経済学のテキストである Cahuc, Carcillo & Zylberberg (2014)の輪読を主として授業を行う。

達成目標 ／ Course Goals

- ・労働経済学の学術論文を独力で読解できる。
- ・労働経済学の理論を用いて、現実の労働に関わる現象について考えることができる。

授業内容 ／ Course contents

括弧内は、本授業のテキストである Cahuc, Carcillo & Zylberberg (2014)の章に対応する。

第 1 回—第 4 回：労働供給（Ch. 1）

第 5 回—第 8 回：労働需要（Ch. 2）

第 9 回—第 11 回：競争均衡（Ch. 3）

第 12 回—第 15 回：教育と人的資本（Ch. 4）

*受講生の興味関心に合わせ、若干の内容を変更する可能性がある。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

<事前学修>

次回の授業で取り上げるテキストの範囲を読み、発表の準備をすること。

<事後学修>

授業中で指摘された点も踏まえて、内容を理解しているかを確認すること。

使用教材 ／ Teaching materials

Pierre Cahuc, Stephane Carcillo & Andre Zylberberg; Labor Economics, 2nd ed., MIT Press, 2014.

成績評価の方法 ／ Grading

授業中の発表：50%

課題：50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

経済学コースの成績評価の統一基準に従う。

履修上の注意事項 ／ Remarks

大学院 1 年生レベルのミクロ経済学及び計量経済学の知識を前提とする。

科目名	国際経済学／International Economics
担当教員	柴山 千里(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

中級レベルの国際貿易と貿易政策の理論を習得するための授業である。テキスト読解を中心に学習してゆく。

達成目標 ／ Course Goals

本科目の履修を通じて習得が期待される能力は、国際貿易に関する様々な事情について理論を用いて論じることができるようになることである。

授業内容 ／ Course contents

第1週～第2週 Two-Sector Model

第3週～第4週 The Heckscher-Ohlin Model

第5週～第6週 Gains from Trade and Regional Agreement

第7週～第9週 Import Tariffs and Dumping

第10週～第12週 Import Quotas and Export Subsidies

第13週 Political Economy and Trade Policy

第14週～第15週 Multinationals and Organization

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学習：テキストを読んで、内容を理解し、報告する準備を行う。

事後学習：各章の練習問題を解き、理解しているか確認する。

使用教材 ／ Teaching materials

Robert C. Feenstra, Advanced International Trade: Theory and Evidence 2nd edition, Princeton University Press, 2015.

成績評価の方法 ／ Grading

授業での発表（40％）と質疑応答(40%)および課題に対するレポート(20%)に基づき、授業の理解度を判断して決めます。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

経済学コース共通基準に基づきます。

履修上の注意事項 ／ Remarks

科目名	国際金融／International Finance
担当教員	廣瀬 健一(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

学部レベルの経済学の知識を前提として、大学院レベルの国際金融論・国際マクロ経済学の内容を理解することを目的として、下記内容を講義いたします。

達成目標 ／ Course Goals

国際金融論・国際マクロ経済学の研究に必要な大学院レベルの基礎知識を習得することを目標とします。

授業内容 ／ Course contents

- 1 回目 Basic Theories of Exchange Rate Determination (I): Purchasing Power Parity
- 2 回目 Basic Theories of Exchange Rate Determination (II): Interest Parity
- 3 回目 Foreign Exchange Market Intervention
- 4 回目 Exchange Rate Dynamics (I): Flexible-price Model
- 5 回目 Exchange Rate Dynamics (II): Sticky-price Model
- 6 回目 Traditional International Macroeconomic Models (I): Small-country Model
- 7 回目 Traditional International Macroeconomic Models (II): Two-country Model
- 8 回目 International Macroeconomic Models with Intertemporal Optimization (I): Two-period Model
- 9 回目 International Macro Models with Intertemporal Optimization (II): Infinite-horizon Model
- 10 回目 International Macroeconomic Models with Intertemporal Optimization (III): Stochastic Model
- 11 回目 New Open Economy Macroeconomics
- 12 回目 Puzzles for International Finance & International Macroeconomics
- 13 回目 Target Zone
- 14 回目 Currency Crisis

15 回目 Optimum Currency Area

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学習：各回の内容に関して、学部レベルの議論を完璧に復習しておくこと
 事後学習：各回の内容に関して、講義中に指示した文献を参照して、理解を深めること
 （詳細は担当教員との事前メール、および、講義にて指示します）

使用教材 ／ Teaching materials

Obstfeld and Rogoff (1996), “Foundations of International Macroeconomics”, The MIT Press
 Mark (2001), “International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods”, Blackwell
 Uribe and Schmitt-grohe (2017), “Open Economy Macroeconomics”, Princeton University Press
 Sarno and Taylor (2002), “The Economics of Exchange Rates”, Cambridge University Press
 Evans (2011), “Exchange-Rate Dynamics”, Princeton University Press
 その他の文献は、必要に応じて、講義中に指示します。

成績評価の方法 ／ Grading

期末試験によって評価します。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

現代商学専攻の統一基準（履修案内の共通事項（4））を参照すること。

履修上の注意事項 ／ Remarks

学部レベルの関連科目（ミクロ経済学・マクロ経済学・金融論・国際金融等）の知識を前提とします。
 履修希望者は必ず事前にメール(hirose@res.otaru-uc...<以下は大学公式アドレス>)で担当教員とコンタクトを取って下さい。

科目名	現代商学II／Modern Commerce II
担当教員	鈴木 和宏(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業は、マーケティング論や消費者行動論に関する学術論文を読むために、また、マーケティング戦略を立案するために必要な基礎知識の習得を目的として実施します。授業内容は受講者による輪読とディスカッションを採用します。

達成目標 ／ Course Goals

- ・マーケティング論の論文を理解するための基礎知識を身につける
- ・消費者行動論の論文を理解するための基礎知識を身につける
- ・マーケティング戦略の立案に必要な基礎知識を身につける

授業内容 ／ Course contents

1. 導入：授業の進め方
2. 現代マーケティングと市場志向
3. 企業戦略とマーケティング戦略
4. 購買行動と意思決定プロセスの分析
5. 知識構造と関与水準の分析
6. 競争環境の分析
7. 流通環境の進展
8. 市場細分化と標的設定
9. 製品ライフサイクル
10. 製品政策
11. ブランド政策
12. 価格政策
13. プロモーション政策
14. マーケティングチャネル政策
15. 関係性マーケティング

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学習

- ・発表者は課題図書を読み、その内容を解説できるように準備する
- ・発表者以外の受講者は課題図書を読み、内容を理解したうえで参加する

事後学習

- ・授業で出てきた理論や概念について興味がある箇所を調べて理解を深める

使用教材 ／ Teaching materials

下記を教科書として使用する予定です。ただし、受講者の知識水準や希望により他の著書を使用する可能性もあります。詳細は第一回目の授業にて確定します。

【教科書（予定）】

池尾恭一・青木幸弘・南千恵子・井上哲浩（2010）『マーケティング』有斐閣

成績評価の方法 ／ Grading

発表担当についてすべて行った受講者に限り、下記の項目にて評価を行います。担当を遂行しなかった場合は0点とします。

- ・輪読でのプレゼンテーション内容：40%
- ・ディスカッションに対する貢献度（発言頻度と内容）：30%
- ・期末レポート：30%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- ・秀（100～90）：マーケティング論や消費者行動論について秀でた理解力を示し、理論を応用して、さまざまなマーケティング戦略について秀でた分析や提言をすることができる。
- ・優（89～80）：マーケティング論や消費者行動論について優れた理解力を示し、理論を応用して、さまざまなマーケティング戦略について優れた分析や提言をすることができる。
- ・良（79～70）：マーケティング論や消費者行動論について良い理解力を示し、理論を応用して、さまざまなマーケティング戦略について良い分析や提言をすることができる。
- ・可（69～60）：マーケティング論や消費者行動論について理解力を示し、理論を応用して、さまざまなマーケティング戦略について分析や提言をすることができる。
- ・不可（59～0）：マーケティング論や消費者行動論について十分な理解力を持たず、理論を応用して、さまざまなマーケティング戦略について分析や提言をすることができない。または、課題を遂行しなかったため評価することができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

学部にてマーケティングに関する授業を受けたことがある人や、マーケティングの

入門書を読んだことがある人の受講を想定しています。ただし、マーケティングと消費者行動論に対する興味・関心と、授業準備を努力する意思があれば初学者でも問題はありません。また、この授業は日本語のみで行います。

不明な点については下記までお問い合わせください。

kazu-suzuki@res.otaru-uc.ac.jp（鈴木）

科目名	金融システム論／Financial System
担当教員	中浜 隆(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	水/Wed 2
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

授業の目的：

当授業では「保険」を取り上げます。授業の目的は、保険理論および現代の保険業と保険市場の現状と特徴について学習し、理解することにあります。

授業の方法：

- ・当授業は日本語で行います。また、当授業は面接授業を行います。
- ・受講者のテキスト予習を前提にしてテキストの内容を説明するとともに、討論も適宜行います。

達成目標 ／ Course Goals

- ・保険用語と保険理論を理解し、説明できるようになる。
- ・現代の保険業と保険市場の現状と特徴を理解し、説明できるようになる。

授業内容 ／ Course contents

第1回、第2回 リスクと保険

事前学修：テキストの第1章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

第3回、第4回 保険の経済理論

事前学修：テキストの第4章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

第5回、第6回 保険の構造

事前学修：テキストの第4章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

第7回、第8回 保険金融と金融リスク管理

事前学修：テキストの第6章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

第9回 保険と会計

事前学修：テキストの第7章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

第10回、第11回 保険事業と保険経営

事前学修：テキストの第8章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

第12回、第13回 保険産業と保険市場

事前学修：テキストの第9章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

第14回、第15回 保険政策と保険規制

事前学修：テキストの第10章の予習

事後学修：授業内容の要点整理

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

上記の「授業内容」の項目で、各回の授業の「事前学修」と「事後学修」を記載しています。

使用教材 ／ Teaching materials

テキスト：堀田一吉・中浜 隆（編）『現代保険学』有斐閣、2023 年
ISBN 978-4-641-18468-8

成績評価の方法 ／ Grading

成績評価は、以下の「評価の要素」と「ウェイト」をもって行います。

評価の要素 ウェイト

- ・授業への参加度（討論） 4 0 %
- ・期末レポート 6 0 %

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

・秀（90 点以上）：保険理論について秀でた理解力を示すとともに、現代の保険業と保険市場の現状と特徴について秀でた説明をすることができる。

・優（80 点～89 点）：保険理論について優れた理解力を示すとともに、現代の保険業と保険市場の現状と特徴について優れた説明をすることができる。

・良（70 点～79 点）：保険理論について良い理解力を示すとともに、現代の保険業と保険市場の現状と特徴について良い説明をすることができる。

・可（60 点～69 点）：保険理論について理解力を示すとともに、現代の保険業と保険市場の現状と特徴について説明をすることができる。

・不可（59 点以下）：保険理論について理解力を示しておらず、現代の保険業と保険市場の現状と特徴について説明をすることができない。

履修上の注意事項 / Remarks

- ・他の授業と時間割が重なる場合、調整します。
- ・小樽本校または札幌サテライトで授業を行います。

科目名	経営戦略論／Strategic Management
担当教員	加賀田 和弘(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

授業目的：本講義では、経営戦略論に関するテキストの輪読を通じて、経営戦略論の基本的な理論や概念を理解することを目的とする。またそれらを用いて、急速な環境変化や競争激化にある現代企業の成功・失敗要因や持続的競争優位の源泉を解明・分析する力を涵養していくことを副次的な目的とする。

授業の方法：前半（12 週目まで）は受講生全員で経営戦略論に関するテキスト（メインテキストは岸川善光「経営戦略 要論」、必要に応じてサブテキスト佐久間 信夫・芦澤 成光・文 載皓 編『経営戦略 要論 [改訂版]』）を輪読し、基本知識の習得を目指す。その際、予め決められた報告者は全員分のレジュメを作成し、その報告内容について質疑応答および全体的な議論を行うことで知識の確認・定着を図る。後半（13 週目以降）は習得した知識を用いて、現実の企業行動の分析をグループ（または個人）で行うことで、理論的な知識の実践的応用を図る。

達成目標 ／ Course Goals

本講義での学習を通じて、現代社会における企業行動やその戦略意図を理解できるようになること、企業の課題を見つけ、その解決を導くための分析アプローチを提示できる能力を身に付けることが達成目標である。

授業内容 ／ Course contents

以下の予定は、受講生の人数等に応じて若干変更する場合がある。

- ①オリエンテーション&「経営戦略論基礎①」
- ②「経営戦略論基礎②」
- ③第 1 章「経営戦略の意義」
- ④第 2 章「経営戦略論の生成と発展」
- ⑤第 3 章「経営戦略の体系」
- ⑥第 4 章「ドメイン」

- ⑦第 5 章「製品・市場戦略」
- ⑧第 6 章「経営資源」
- ⑨第 7 章「競争戦略」
- ⑩第 8 章「ビジネス・システム戦略」
- ⑪第 9 章「経営戦略の適合と革新」
- ⑫第 10 章「経営戦略の今日的課題」
- ⑬プレゼンテーション①
- ⑭プレゼンテーション②
- ⑮プレゼンテーション③

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学習・事後学習

- ・授業内容について特に重要なキーワードの内容を理解すること。
- ・企業の事例について学習した理論を適用して理解すること。
- ・日ごろから新聞、ニュース等を通じて得た経営の現場での実践事例を「経営戦略論」で学ぶ内容や学んだ事と照らし合わせるなど、講義で学ぶ基本的な理論とその実践または応用について理解するよう意識すること。
- ・新聞報道、経済雑誌、ニュース報道等で得られる経営実践について「経営戦略論」の視点から問題意識を持つこと。
- ・アルバイト等、身近な経営実践の現場において講義で学んだ内容との整合性を意識すること。

使用教材 ／ Teaching materials

メインテキスト：岸川善光「経営戦略 要論」同文館出版 2006

サブテキスト：佐久間 信夫・芦澤 成光・文 載皓 編『経営戦略 要論 [改訂版]』創成社 2023

講義受講にあたり上記 2 冊のテキストは必ず購入しておくこと。

成績評価の方法 ／ Grading

- ・報告レジュメ 30%
- ・グループ（または個人）プレゼンテーション内容 40%
- ・毎回の講義、グループ（または個人）プレゼンテーションでの質疑応答、ディスカッションの内容 30%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

経営戦略論の講義について、

秀（100-90）：内容をほぼ完全に理解し、応用的かつ独創的な考察・批評が出来ており秀でている。

優（89-80）：内容をほぼ理解し、応用的な考察・批評が出来ており優れている。

良（79-70）：多くの内容を理解し、常識的な考察・批評ができています。

可（69-60）：基本的な知識を有し、間違った理解はしていない。
不可（59-0）：内容を理解していない、または誤った理解をしている。

履修上の注意事項 / Remarks

事前にしっかりと予習をした上で授業に臨むこと。
報告者が授業を欠席する場合は、事前に他の受講生と交代した上で、担当者に連絡をすること。

科目名	財務会計論II／Financial AccountingII
担当教員	市原 啓善(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	市原 啓善(1 号館 (研究棟) 301 号)
オフィスアワー	市原 啓善(随時可 (予約不要))

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業の目的は、会計制度の経済的な役割や、会計制度が株式市場の価格形成と企業経営者の会計行動に及ぼす影響、資本市場に係る会計制度の基本的な課題等に関する理論研究・実証研究への理解を深めます。会計実務者にとっても、近年の学術成果が会計・財務・金融実務にとってどのような意義を持っているのかについて理解することは有益となりえます。

達成目標 ／ Course Goals

本授業の到達目標は下記の 3 点です。(1) 財務会計論における概念・研究・研究手法を体系的に理解する。(2) 企業経営者の会計意思決定や会計行動、その影響について理論的・実証的な議論を行える。(3) 財務会計に関するトピックについて、自ら問題を発見し適切な方法・方法論にしたがって分析・解決する能力を身につける。

授業内容 ／ Course contents

01. 財務会計理論研究のフレームワーク 1
02. 財務会計理論研究のフレームワーク 2
03. 理想的状況の会計
04. 財務会計に対する意思決定有用性アプローチ
05. 効率的証券市場
06. 会計情報の価値関連性
07. 意思決定有用性に対する価値評価アプローチ
08. 演習
09. 効率的契約理論と会計
10. コンフリクトの分析
11. 経営者報酬
12. 利益マネジメント

13. 基準設定の経済学
14. 基準設定の政治学
15. 演習

(受講学生の習熟度により若干の変更もありうる)

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

本科目 2 単位 90 時間の配分は、予習 30 時間、授業 30 時間、復習 30 時間を想定している。

【予習】各履修者は、毎回の授業前に、授業計画に沿った箇所のテキストを読み、授業に臨むこと。各回の報告担当者は、レジュメを作成して授業に臨むこと。

【授業】各回の報告担当者は、レジュメを用いて報告をし、それに基づいて履修者全員で議論を行う。各回に予定する授業内容は下に示すとおり。

【復習】各履修者は、授業における内容・課題を整理し、次回以降の講義において議論を行う。

使用教材 ／ Teaching materials

ウィリアム・R・スコット、パトリシア・C・オブライエン（太田康広・椎葉淳・西谷順平訳）「新版 財務会計の理論と実証」中央経済社、2022 年（Scott, W.R. and P. O'Brien. 2019. Financial Accounting Theory 8th ed. Pearson）

成績評価の方法 ／ Grading

満点を 100 点として、次の配分により評価する。

- (1) ホームワーク（レジュメ・事前課題の提出）：50 点
- (2) 授業への参加度（プレゼンテーション、受講姿勢、討論への参加度）：50 点

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀(100-90) 議論に積極的に参加し、財務会計論についての理解が特に秀でている
優 (89-80) 議論に積極的に参加し、財務会計論についての理解が優れている
良 (79-70) 議論に参加し、財務会計論についてほぼ理解している
可 (69-60) 議論に参加し、財務会計論について最低限理解している
不可(59-0) 財務会計論についての十分な理解を持たない等、上記以外

履修上の注意事項 ／ Remarks

科目名	管理会計論II／Management AccountingII
担当教員	乙政 佐吉(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

戦略を策定しただけでは「画に描いた餅」にすぎない。また、戦略の実行状況を測定したり、モニターしたりしなければ、戦略が意図された方向に適切に実践されているのか否か判断できないという事態に陥る。それゆえ、戦略を実行するには、管理会計システムが不可欠となる。講義では、このような戦略の実行や創発を促進するためのシステムとしての業績測定システムおよびその他のコントロール・システムについて、報告および討論を重ねながら考究する。

達成目標 ／ Course Goals

達成目標として、次の三点を挙げる。

- ・テキストやケースを正確に読解できるようになる。
- ・業績測定システムの設計や運用に関する学術的基礎を身につける。
- ・業績測定システムの設計や運用について自主的に研究を進めることができるようになる。

授業内容 ／ Course contents

第1週 イン트로ダクション
 第2～3週 戦略実行と業績測定・評価システム
 第4～5週 予算管理
 第6～7週 組織の分権化と業績評価システム
 第8～9週 バランス・スコアカード
 第10～11週 業績評価と報酬システム
 第12～13週 マネジメント・コントロール（1）
 第14～15週（授業内容）マネジメント・コントロール（2）

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

本講義の目的を達成するために、毎回、予習課題および復習課題をこなす必要がある。予習および復習課題についてはイントロダクション時に示す。以下の点に留意しながら課題に取り組むこと。

- ・わからない語彙等は必ず調べておくこと。
- ・自らの経験に照らしながらテキストの理解に努めること。
- ・興味をもった技法や理論に関しては自ら関連論文を検索すること。

使用教材 ／ Teaching materials

ロバート・サイモンズ（著）・伊藤邦雄（監訳）『戦略評価の経営学－戦略の実行を支える業績評価と会計システム－』ダイヤモンド社。

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（事例、討論、調査）： 50%

ホームワーク（事前・事後課題の提出）： 50%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

業績測定・評価システムについて秀でた理解力を示し、経営管理上の現象について秀でた分析をすることができる。

優（89～80）：

業績測定・評価システムについて優れた理解力を示し、経営管理上の現象について優れた分析をすることができる。

良（79～70）：

業績測定・評価システムについて基本的な理解力を示し、経営管理上の現象について分析をすることができる。

可（69～60）：

業績測定・評価システムについて基本的な理解力を示すものの、経営管理上の現象について分析をすることができない。

不可（59～0）：

業績測定・評価システムについて十分な理解力を持たず、経営管理上の現象について分析をすることができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

テキストの正確な理解、それに基づいた批判、建設的な議論の展開を望む。

科目名	会計学特講／Topics in Accounting
担当教員	田中 圭(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 4
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本講義は、会計学の一領域としての「監査論」をテーマとするものです。現代における「監査」は、企業が公開する財務諸表をはじめ様々な情報開示の信頼性を支える重要な社会制度といえます。授業では主に米国でこれまでに監査上の問題となった事例をピックアップし、その内容について履修者に調査・報告・議論してもらうことを通じて、監査制度の観点から現代会計の性質の分析を試みます。

達成目標 ／ Course Goals

現代の監査制度の基本的な枠組みと、主要なトピック（論点）について理解する。なお会計制度のあり方あるいは会計の社会的役割について、「監査」の観点から分析することで履修者にとって何らかの新たな知見が得られればより望ましい。

授業内容 ／ Course contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 現代監査制度の基本的な枠組み
- 第3回 Enron Corporation の事例（1）
- 第4回 Enron Corporation の事例（2）
- 第5回 Lehman Brothers Holdings, Inc. の事例（1）
- 第6回 Lehman Brothers Holdings, Inc. の事例（2）
- 第7回 高リスクの会計項目の監査（1）
- 第8回 高リスクの会計項目の監査（2）
- 第9回 内部統制をめぐる問題
- 第10回 会計担当者の倫理的責任
- 第11回 独立監査人（会計士）の倫理的責任
- 第12回 専門職をめぐる問題

第13回 米国以外の事例

第14回 補論：近年注目されている諸論点（監査の「品質」、「監査上の主要な検討事項（KAM）」など）

第15回 講義全体のまとめ

※ 講義計画および取り上げる内容は、履修者の関心の所在に応じて変更する可能性があります。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：指定した参考資料をもとにした報告の準備

事後学修：講義内での課題についての調査

使用教材 ／ Teaching materials

教科書は指定しませんが、下記の文献を参考資料として利用する予定です。

M.C.Knapp "Contemporary Auditing 12th ed." Cengage Learning（2021）

このほか履修者の関心に応じて、適宜参考文献を紹介します。

成績評価の方法 ／ Grading

下記の通り、講義での報告・議論と課題への取組みを通して、達成目標の到達度を評価します。

- ・参考資料をもとにした授業内での報告と議論への参加：60%
- ・講義内で議論した疑問点等の調査：40%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀(100-90) 現代の監査制度と主要論点についての理解が特に秀でている。

優 (89-80) 現代の監査制度と主要論点についての理解が優れている。

良 (79-70) 現代の監査制度と主要論点についてほぼ理解している。

可 (69-60) 現代の監査制度と主要論点について最低限理解している。

不可(59-0) 現代の監査制度と主要論点についての十分な理解を持たない等、上記以外。

履修上の注意事項 ／ Remarks

履修にあたって、簿記・会計学についての基礎的な知識をある程度習得していることが望まれます。

科目名	文学と英語教育／Literature for TEFL/TESL
担当教員	高橋 優季(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	月/Mon 4
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

今年度のテーマは「スコットランドのファンタジー小説を読む」です。

作品は 比較的新しい作家 Neil Cockburn の M.J. Bikie Meets the Loch Ness Monster (2021) を読みます。タイトルからも推察可能なおとおり、スコットランド北部ハイランド地方のネス湖に伝わるネッシー伝説をもとにしたストーリーなので、実際の伝説の伝わり方やその背景についても学んでいきます。

達成目標 ／ Course Goals

分量のまとまった英文に読み慣れること、が英語の実践面における目標です。

毎回 20 ページ以上の英文を当たり前のこととして読んでいきます。一語一句分からない言葉を辞書で引いたり文脈から判断したりなどして、英語の文章を丁寧に読み込むことで、作品世界のイメージと物語内容の理解を深められることを目指します。そのため、英文を素早く的確に読解するための実践的なトレーニングにもなります。その上で、現代小説の物語の構成について意識を持てるよう講義を進めていきます。

授業内容 ／ Course contents

第1週 作品背景の把握。スコットランドとはどこか、その風土、おおまかな歴史。
 第2週 ハイランド地方について。ネス湖とその周辺の地理的事情。ネッシーとは。
 第3週 ネッシー伝説の真偽。伝承の歴史。真偽がどのように明かされてきたか。
 第4週 作品の精読開始。1～3章。
 第5週 作品精読。3～5章。
 第6週 作品精読の続き。5～7章。
 第7週 7～9章。
 第8週 9～11章。
 第9週 11～13章。
 第10週 13～15章。

第11週 15～17章。
 第12週 17～19章。
 第13週 19～21章。
 第14週 21～23章。
 第15週 23～25章。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

毎回の授業において

（予習事項）

毎回20ページ前後の英文を読み進めることになります。事前によく読み内容を把握してくるのは絶対条件となります。講義では毎回の予習内容の要約発表が問われます。その上で、理解に自信がなかったり疑問に感じる部分を明らかにしていただくことになります。

（復習事項）

授業を通して自分たちの理解がどう変わったか、事前の疑問点が解決したかを確認し、作品解釈における英文理解を改めて見直す（→後にレポートして出していただくことになります）

使用教材 ／ Teaching materials

Neil Cockburn 作

M.J. Bikie Meets the Loch Ness Monster (2021)使用。詳細は教室で指示します。

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（毎回の作品内容の要約説明）50 %

レポート提出（詳細は授業内で指示します）50 %

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

「可」を合格ラインとします。

履修上の注意事項 ／ Remarks

辞書を持参しましょう。

科目名	テスト評価論／Testing and Evaluation
担当教員	クランキー(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 1
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

This is a course in the basics of language testing. The focus of the course this semester will focus largely on two distinct areas of assessment that will be relevant to high school and junior high school teachers. The first is classroom assessment in its various forms. The second is item development and high stakes testing, such as that found in entrance exams at the junior and senior high school level.

達成目標 ／ Course Goals

It is hoped that by the end of this course, students will be able to do the following.

1. Understand the basics of classroom evaluation techniques.
2. Be able to put into practice the techniques learned in the course.
3. Be capable of recognizing both good and poor item development on their tests.
4. Understand the importance of validity and reliability in high stakes testing, and the measures that can be used to ensure that both occur at a high level.
5. Understand and recognize the importance of fairness measures in testing and be able to follow widely recognized guidelines.

授業内容 ／ Course contents

Week 1. Introduction

Week 2. Teaching and Testing (pp. 1-7)

Week 3. Testing as Problem Solving (pp. 8-10)

Week 4. Kinds of Tests and Testing (pp. 11-25)

Week 5. Validity and Reliability (pp. 26-52)

Week 6. Achieving Beneficial Backwash (pp. 53-57)

Week 7. Stages of Test Development (pp. 58-74)

Mock Test Construction 1 Due

Week 8. Common Test Techniques (pp. 75-82)

Week 9. Testing Writing (pp. 83-112)

Week 10. Testing Oral Ability (pp. 113-135)

Week 11. Testing Reading (pp. 136-159)

Week 12. Testing Listening (pp. 160-171)

Week 13. Testing Grammar and Vocabulary (pp. 172-185)

Week 14. Testing Overall Ability (pp. 186-198)

Week 15. Testing Younger Learners (pp. 199-end)

Mock Test Construction 2 Due

(Additional assignments will be given as necessary.)

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

Students should read ahead of the class. And before going on to the next reading, students should review any parts which may have been unclear after the first reading or the lecture in the class. Following each class, students should review the main points of the lecture and any areas they didn't fully understand.

Homework will be given as necessary to demonstrate the points made in the lessons.

使用教材 ／ Teaching materials

Hughes, A. (2021). Testing for Language Teachers. Cambridge: Cambridge University Press.

成績評価の方法 ／ Grading

50% Contribution to the group discussions on each area of testing.

50% Evaluation of the mock test construction projects.

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

標語（評点） 評価基準

秀（100～90） 個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している

優（89～80） 個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している

良（79～70） 個々の科目について良い理解力及び応用力を有している

可（69～60） 個々の科目について理解力及び応用力を有している

不可（59～0） 個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない

履修上の注意事項 ／ Remarks

This class will be mainly face to face.

Office hour: 12-12:50 Thursdays, by appointment.

This is a course mainly designed for students of the graduate school teacher training program in linguistics/applied linguistics/literature.

The course is also open to 3rd and 4th year students who plan to become English teachers in junior or senior high school in the future.

Those students should contact the professor (shawn@res.otaru-uc.ac.jp) to express their interest before registering.

As this is a course that requires a lot of background in teaching, it is not recommended for students of other majors or students just looking for classes to fill credits. Any non-major student considering taking this course **MUST** contact the professor for permission prior to registering for the course.

科目名	中級ビジネス英語／Intermediate Business English
担当教員	小林 敏彦(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	月/Mon 6, 月/Mon 7
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	小林 敏彦
オフィスアワー	小林 敏彦(Thursdays, 13:00-14:00)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

わかりやすく、楽しく、ためになる満足度の高い授業を心がけ、洋楽 (Music)、洋画 (Movie)、メディア (Media) の 3M をオーセンティックな教材として活用し、ビジネス英語のシーンで求められる英語の機能と概念を特定し、英語を聞き取り理解する技能および語彙力の強化を行います。また、グローバルの視点からビジネスシーンをめぐる社会情勢を正確に把握し、ニュースメディアを情報のツールとして活用するスキルの習得を目指します。

達成目標 ／ Course Goals

- 1 洋楽の歌詞を聞き取り、持ち歌を 8 曲持つ。
- 2 洋画の台詞を字幕なしで理解するための基礎力を養う。
- 3 英語ニュースサイトでリアルタイムで政界情勢を把握し、情報入手力を高める。
- 4 ディクテーションを通じて、英語の音声認識力とメディア語彙力を高める。
- 5 経済ビジネスに関する英字新聞記事を通じて英語の読解力と語彙力を高める。
- 6 ニュースメディアの理解に必要な実用・実務的最新語彙を学ぶ。
- 7 メディア英語学習を通じてビジネスに必要なメディアリテラシーを高める。
- 8 ディスカッションとディベートを適時行う。
- 9 特定の話題に対してショート・プレゼンテーションを行う。

授業内容 ／ Course contents

第 1 時限 Listening & Speaking Activities with a Task Sheet

STEP 1 Listening to Music for Listening Perception

STEP 2 Watching a Movie Scene for Listening Perception

STEP 3 Watching a News Report for Listening Comprehension & Vocabulary Building

STEP 4 Communication Strategies for Speaking

第 2 時限 Reading & Writing Activities with Reuters Global News Feed

STEP 5 Watching a News Report & Various Tasks

STEP 6 News Dictation & Analysis

STEP 7 Vocabulary View

復 習 To be instructed in class

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

To be announced in class.

使用教材 ／ Teaching materials

The two textbooks below are commercially available online only. Be sure to get both by the first day of instruction.

教科書二冊

オンライン販売のみ

キングダム英和辞典コンパクト版

<https://www.amazon.co.jp/dp/482461046X>

VOA Business English for EFL Learners

<https://www.amazon.co.jp/gp/product/4802088574>

成績評価の方法 ／ Grading

成績評価の方法

課題・宿題原則なし

授業参加度 1 0 0 % (時間厳守、教科書の有無、質疑応答の出来具合、ペアワーク等の協力性、ディクテーションの出来具合、ショートプレゼンテーション) に基づき評価して秀、優、良、可、不可の 5 段階のいずれかの成績を付けます

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

You are required to actively participate in class activities--discussion& debate, dictation, Q&A and communication strategy Session.

履修上の注意事項 ／ Remarks

授業はビジネス界での根本的常識に合わせて、時間通りに開始し時間通りに誤差 3 0 秒以内で完結します。授業は札幌サテライトで対面のみ (M6 だけはオンライン) で行います。履修者の属性 (母語、英語レベル等) を考慮して、英語のみ。または英語と日本語を混ぜた授業を展開します。履修者は教材の準備とライングループを作るので授業初日の一週間前までにメールで私に必ず連絡してください。受講にはビジネス英語 II の履修済を条件とします。授業初日に教科書 2 冊を揃えて出席してください。授業の初日は欠席する人や遅刻や出張等の予定で欠席する可能性のある方は履修を今回はご遠慮ください。

This class is combined with Business English III offered for OBS (Otaru Business School) students, who work at daytime as business persons and come to OUC Sapporo Satellite at

night every other week.

This class is conducted entirely in English and no Japanese language knowledge or skills are required to study. You will have fun singing together, watching movies and reading newspaper articles on current topics including overtourism, abusive customers and other intercultural issues.

科目名	行政法研究(発展)／Administrative Law I
担当教員	尾下 悠希(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	尾下 悠希
オフィスアワー	尾下 悠希(授業中に指示します。)

授業の目的・方法／Course Objectives and method

行政法研究（発展）では、行政法の“発展的”論点を取り上げて、調査、深い理解、批判的・多角的な分析を行うとともに、各論点につき現代的な意義を考えることを目的とする。

演習形式で、行政法の学術文献を読み進める。受講者は、文献を読み、レジュメを作成し、報告を行う。その上で、教員も交えて、質疑・議論を行う。

達成目標／Course Goals

行政法の“発展的”論点や、重要論点に対する“応用的”問題について理解をするとともに、批判的・多角的に分析できるようになる。

授業内容／Course contents

第1週 この授業の概要、各論点の説明

第2週～第15週 毎回、論文を読んできた上で、質疑・議論をする。

事前学修・事後学修／Preparation and review lesson

（事前学修）

文献を読む。

（事後学修）

授業時の議論内容を踏まえて、文献を読み直す。

使用教材／Teaching materials

コピーを配付する。

成績評価の方法／Grading

授業への参加度（質疑・議論の様子）

成績評価の基準／Grading Criteria

①文献の内容を過不足なく要約できたか、②批判的・多角的な分析および自身の説得的な主張ができたかを基準にして、評価を行う。①②を満たしているかどうか、満たしている場合にはそれが優れているかどうか、を考慮する。秀（100～90 点）、優（89～80 点）、良（79～70 点）、可（69～60 点）、不可（59～0 点）で成績評価をする。

履修上の注意事項／Remarks

履修を希望する場合には、履修登録の期限前までに尾下（yuki-oshita@res.otaru-uc.ac.jp）にメールで連絡をしてください。

科目名	憲法研究 I (発展) / Constitutional Law I
担当教員	坂東 雄介(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	坂東 雄介(322(商大には 322 教室が 2 つあり、私の研究室は 1 号館の方です))
オフィスアワー	坂東 雄介 (連絡があれば柔軟に対応する。連絡は ybando★res.otaru-uc.ac.jp まで(★は@に変換して下さい)。)

授業の目的・方法 / Course Objectives and method

この演習では、比較法アプローチによって憲法学に関する知見を深化することを目的とする。比較法アプローチとは、外国の法制度を分析・検討することにより、日本法と比較する軸を形成し、日本との共通点及び相違点を理解するアプローチである。本演習では、担当教員の関心及び能力の理由から、特に、英米圏の憲法学及び移民法・国籍法に関する文献読解及び比較を中心とする。

上記の理由から、本演習では、比較するための前提として、①学部レベルの憲法及び行政法の知識、並びに②外国語文献を読むことが出来る程度の英語能力を有していることを受講生に求める。また、この演習は、語学の授業ではない。受講生には一定程度の英語能力を有することを前提に、外国の法制度について分析するものである。英語能力の向上(例えば英会話能力や英作文能力)の向上を目的とする者は他の授業を履修したほうが良い。

達成目標 / Course Goals

- ・日本法を外国法と比較し、相対化する視座を獲得すること
- ・移民、難民問題に関する大学院レベルの知識を習得し、多角的な分析能力、思考を身に付けること

授業内容 / Course contents

演習形式で実施する。報告者は事前に文献を読み、レジュメを作成した上で、報告することが求められる。報告者以外の履修者は、事前に文献を読んでもらうことはもちろん、報告者に質問し、全体での質疑応答(ディスカッション)に加わることが求められる。大体のペースとして、2、3週で1つの文献(または章)を読み終えるもの

のとしたい。

第1週 打ち合わせ(担当者決め、担当する文献の選択)

第2~3週 憲法学に関する文献についての発表及びディスカッション

第4~5週 移民に関する文献についての発表及びディスカッション①

第6~8週 移民に関する文献についての発表及びディスカッション②

第9~11週 難民に関する文献についての発表及びディスカッション

第12~15週 国籍・市民権に関する文献についての発表及びディスカッション

事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

指定された文献を読み、不明点を明らかにするとともに、意見・質問などを考えてくこと

使用教材 / Teaching materials

履修者数や受講生の興味関心などを勘案した上で判断する。詳細は初回到周知する。

成績評価の方法 / Grading

受講の参加状況のみ(100%)によって判断する。具体的には、報告の準備を十分に行っているかどうか、適切な質問を提示するかどうか、積極的に質問・意見などを述べるかどうか、などである。担当した発表の放棄や欠席は一切認めない。特に悪質なものについては、その後の出席及び単位を認めない。ただし、正当な理由を有する場合はこの限りではない。

成績評価の基準 / Grading Criteria

- ・秀 (100-90): 憲法学について秀でた理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について秀でた分析をすることができる。
- ・優 (89~80): 憲法学について優れた理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について優れた分析をすることができる。
- ・良 (79~70): 憲法学について良い理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について良い分析をすることができる。
- ・可 (69~60): 憲法学について理解力を示し、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について分析をすることができる。
- ・不可 (59~0): 憲法学について十分な理解力を持たず、憲法理論を応用して、さまざまな憲法問題について分析をすることができない。

履修上の注意事項 / Remarks

- ・演習形式で実施するため、事前の予習を求める。また、特段の事由がない限り、欠席は認めない。特に報告担当を放棄した場合はその場で不可とする。
- ・履修を予定している者は、第1週のオリエンテーション前日までに講義担当者である坂東に連絡すること。

科目名	憲法研究 II（発展）／Constitutional LawII
担当教員	小倉 一志(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

憲法学（特に、基本的人権・違憲審査制など）に関する学部レベルの知識を前提として、「表現（言論）の自由」・情報法の諸問題について分析・検討を行う。

なお、前期は（基本）、後期は（発展）とのことであるので、前期は概説的な文献を、後期は内容的に特化した文献を扱うこととし、両者の棲み分けを図りたい。

達成目標 ／ Course Goals

「表現（言論）の自由」・情報法に関する（大学院博士前期課程レベルの）知識を習得し、そこでの諸問題を分析・検討できるようになる。

授業内容 ／ Course contents

演習形式で実施します。報告者は事前に文献を読み、レジュメを作成した上で、報告することが求められます。報告者以外の履修者は、事前に文献を読んでくることはもちろん、報告者に質問し、全体での質疑応答（ディスカッション）に加わることも求められます。

各回で扱うテーマの一例を下に示します（後期は内容的に特化した文献を扱うことにします）。

1. 表現の自由の歴史
2. 表現の自由保障の意義
3. 表現規制立法の違憲審査基準
4. 違法な行為の煽動・唱道
5. 不快な言論
6. わいせつな表現
7. 名誉毀損的表現
8. プライバシーを侵害する表現
9. 営利的言論

- 1 0. 差別的表現
- 1 1. 報道の自由・取材の自由
- 1 2. 知る権利
- 1 3. パブリックフォーラム
- 1 4. ニューメディアにおける表現
- 1 5. 時・場所・方法の規制

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

毎回の予習課題として「文献の精読・レジュメ等の作成」を、復習課題として「授業内容の確認」を課すことにします。

使用教材 ／ Teaching materials

さしあたり、英語文献として、

DANIEL A. FARBER, THE FIRST AMENDMENT, 4th Ed. (2014)

JEROME A. BARRON, FIRST AMENDMENT LAW, 5th Ed. (2017)

T. BARTON CARTER & JULIET LUSHBOUGH DEE & HARVEY L. ZUCKMAN, MASS COMMUNICATION LAW, 7th Ed. (2014)

日本語文献として、

奥平康弘『なぜ「表現の自由」か』（東京大学出版会・1998 年）

市川正人『表現の自由の法理』（日本評論社・2003 年）

芦部信喜『憲法学III 人権各論(1)〔増補版〕』（有斐閣・2000 年）

駒村圭吾・鈴木秀美編『表現の自由I・II』（尚学社・2011 年）

高橋和之『人権研究 1 表現の自由』（有斐閣・2022 年）

小向太郎『情報法入門〔第 5 版〕』（NTT 出版・2020 年）

曾我部真裕ほか『情報法概説〔第 2 版〕』（弘文堂・2019 年）

を挙げておきます（詳細については、開講時に相談して決めることにします）。

成績評価の方法 ／ Grading

毎回出席することは当然として、授業への参加度（レジュメの作成・当日の報告・質問内容・質疑応答への参加など）により判断します。評価の要素・ウエイトは、授業への参加度を 100%とします。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：授業への参加度が極めて高い場合

優：授業への参加度が十分に高い場合

良：授業への参加度が高い場合

可：授業への参加度が一定程度ある場合

不可：授業への参加度が不十分である場合

履修上の注意事項 ／ Remarks

- ・基本的人権・違憲審査制などに関する学部レベルの知識を有していることを前提とします。
- ・演習形式で実施しますので、事前の準備が必要になります。また、欠席については「やむにやまれぬ」場合を除き認めません（自動的に不可になるので注意すること）。
- ・履修を予定されている方は、第1週のオリエンテーション時までに（私と）コンタクトをとってください。

科目名	刑事法研究（発展）／Criminal Law
担当教員	菅沼 真也子(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	水/Wed 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

わが国の刑法と法体系を同じくするドイツ刑法は、かつてよりわが国の法解釈に大きな影響を与えている。それゆえ、ドイツ刑法理論を学ぶことは、比較法的見地から見て、重要性を有する。

本講義では、比較法的観点から、ドイツ刑法に関する文献を検討対象として、まずはドイツ語の文献を講読してドイツ刑法理論に対する理解を深め、そこでの議論を参照して、翻って我が国の刑法の争点について考察を加える。

達成目標 ／ Course Goals

ドイツ刑法理論への理解を深める。

ドイツの文献購読を通じて、比較法的観点から考察する能力を身につける。

授業内容 ／ Course contents

第1週 ガイダンス・使用教材の選定・担当者の割り当て決定。

→受講者の関心事に合わせて教材・文献のテーマを選定する。

第2週～（第13週までを目安に） 文献講読。

→13週より前に読了した場合には、適宜追加の文献を指示する。

第14週 購読した各文献について、これまでの翻訳に基づいて概要をまとめる。

第15週 講読した文献の内容と関連するわが国の刑法の争点について議論する。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

（事前学修）

次回授業で読み進める予定の箇所について、各自翻訳する。

（事後学修）

翻訳で誤りを指摘された箇所について、自身で改めて検討し、必要があれば修正する。

文献を講読し終わった後で、各自の翻訳に基づいて、当該文献の概要をまとめる。

使用教材 ／ Teaching materials

初回の授業時に、学生の研究テーマ等を考慮して相談した上で、教材を選定する。
（ドイツ刑法理論の基本書を使用する予定。）

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（討論、基礎知識） 40%

翻訳の完成度 60%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

翻訳の完成度、翻訳した文献についての理解度、授業への参加度（積極的な発言）を基準にして、秀（90～100）、優（80～89）、良（70～79）、可（60～69）で評価する。

履修上の注意事項 ／ Remarks

ドイツ語文献を講読するので、ドイツ語に関する最低限の文法知識が身につけていることを履修の要件とします。

受講を希望する学生は初回講義より前にメールをください
(msuganuma@res.otaru-uc.ac.jp)。

科目名	国際法研究（発展）／International Law
担当教員	張 博一(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	木/Thu 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

国際法は国内法とは異なる独自の規律体系を有しているため、皆さんにとっては馴染みが薄い分野であろう。また、国際法の対象も人権、経済、環境など様々な分野に拡大し、より複雑になりつつある。しかし、昨今の国際情勢及び日本を取り巻くアジア地域の外交、経済、安全保障関係に鑑みれば、「国際社会の法」である国際法の重要性はいくら強調してもしすぎることはない。

本講義は国際法に時事問題文献の購読とそれに基づいた討議を行うことで、国際法に関する理解を深めると同時に、国際問題を国際法の側面から議論する手法を学ぶことを目的とする。

講義はセミナー型であり、担当者は文献について発表を行ない、それについて受講者全員で議論する。

達成目標 ／ Course Goals

国際法は国際社会の基本的枠組を定めており、国際的な時事問題の多くはこの枠組と密接に関係する。

本講義では、国際法規則の内容を把握し、その機能と限界について理解を深めることを通して、国際法が身近の法であることを感じてもらうと同時に、国際社会の様々な事象について分析する。受講生が、国際社会で生じている様々な現象に触れることで国際的な視野を身につけ、国際社会が抱える様々な課題を、政治、経済、法、社会などの側面から多角的に分析する力を修得することを目標とする。

授業内容 ／ Course contents

第一回 講義内容の説明、報告分担

第二回 「国際法」ってなに？

第三回 多数国間条約はお嫌いですか？

第四回 夫婦別姓を認めない日本の民法は条約違反？

第五回 パレスチナは国家か？

第六回 台湾の新総統就任に祝意お表明したら内政干渉？

第七回 韓国の裁判所で日本が訴えられる？

第八回 外交官はなにをしても逮捕されない？

第九回 「ウクライナ難民」は難民ではない？

第十回 「相互関税」とは何か？

第十一回 パリ協定は失敗したのか？

第十二回 ウクライナ侵攻を国際裁裁判所に訴えるには？

第十三回 ICC はプーチン大統領を裁けない？

第十四回 国連は世界の平和を守れない？

第十五回 戦争に勝つためなら病院を攻撃してもよい？

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

講義レジュメに記載された教科書該当部分、補足資料を読み、疑問点を書き出す
関連事例について、事実関係・争点等をあらかじめ把握する
授業を踏まえて、興味あるテーマ等をさらに深く掘り下げて調査する

使用教材 ／ Teaching materials

北村朋史他『国際法で世界がわかる：ニュースで読み解く 32 講』（岩波書店、2025 年）

成績評価の方法 ／ Grading

プレゼンテーション、質疑応答、議論への参加等を総合的に評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：国際法学に関して極めて優れた理解力と知識を有する。

優：国際法学に関する理解力と知識が優れている。

良：国際法学に関する理解力と知識が充分である。

可：国際法学に関して一定の理解力と知識を有する。

履修上の注意事項 ／ Remarks

国際法研究(基本)を履修していることが望ましい。

授業内容は受講生の希望や理解度等を考慮して、変更を行う場合がある。

科目名	民法研究 I（発展）／Civil LawI
担当教員	岩本 尚禧(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業の目的は、日本における法的課題を相対化するため、同種の問題に関するドイツ法の議論を参照して、さらに日本法の議論を深めることにある。日本民法の母法はドイツ法であり、両法とも法律行為論を共通の土台としている。そのため、日本民法における法的判断能力を分析・研究する場合は、ドイツ法のそれを比較参照することが有益である。しかも、認知症それ自体は原則として普遍的な病理現象であり、ドイツにおいても高齢者の遺言能力について研究が進められている。日本で同様の問題を取り組むならば、ドイツ研究の知見は参照に値する。このことを通じて、日本法の議論を深めたい。

達成目標 ／ Course Goals

日独の相続法を比較し、相互の相違と意義を理解すること。ドイツ法を学ぶことで、日本の法的課題を従来と異なる視点で捉え直す分析力の養成を目指す。

授業内容 ／ Course contents

- 第 1 回 独語論文の通読①＊対象論文は後述「使用教材」参照
- 第 2 回 独語論文の通読②
- 第 3 回 独語論文の通読③
- 第 4 回 独語論文の通読⑤
- 第 5 回 独語論文の通読⑥
- 第 6 回 遺産画策（Erbschleicherei）の論点整理
- 第 7 回 遺言能力（Testierfähigkeit）と私的自治（Privatautonomie）の関係
- 第 8 回 遺言に影響を及ぼす内在的要因としての認知症
- 第 9 回 遺言に影響を及ぼす外在的要因としての近親者
- 第 10 回 なぜ遺産画策は刑事罰の対象にならないか？
- 第 11 回 なぜ遺産画策は民事上の無効・取消可能性の対象にならないか？

- 第 12 回 日本法における遺産画策の可能性
- 第 13 回 日本法の課題－認知症高齢者と養子縁組
- 第 14 回 その他の課題
- 第 15 回 総括：高齢化社会を見据えた法の在り方について

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修としてドイツ相続法に関する日本語文献を通読することが必要である。予備知識があることで外国文献の読みやすさや理解度は相当に高まる。これは本授業を進めるにあたっても重要な事柄である。

事後学修としてドイツ以外で類似の問題を議論している外国法を調べることが望ましい。所変われば品変わる。ドイツの常識が世界の常識ではない。法的問題を相対化することは、日本法の理解を高める上でも重要である。が、事後学修は可能であれば求め、加点の対象として考慮するにとどめる。

使用教材 ／ Teaching materials

次に掲げるもののほか、各種独語文献が必要になることがある。

Clemens Cording, An den Grenzen der Geschäfts- und Testierfähigkeit, in: M. Lammel (Hrsg.), Forensische Psychiatrie Erfahrungswissenschaft und Menschenkunde Festschrift für Hans-Ludwig Kröber, 2022, S. 309 f.

成績評価の方法 ／ Grading

授業各回の翻訳提出物および授業態度によって評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- ①秀：十分な比較法的知見を習得し、それを過不足なく論理的・説得的に展開することができる。
- ②優：十分な比較法的知見を習得し、それを論理的・説得的に展開することができる。
- ③良：比較法的知見を習得し、それを論理的・説得的に展開することができる。
- ④可：比較法的知見を習得できている。

履修上の注意事項 ／ Remarks

履修条件：民法研究 I（基礎）を履修していること。民法研究 I（発展）で扱う内容は民法研究 I（基礎）を比較法の観点から発展させるものであるため、本授業の履修は民法研究 I（基礎）の既履修が前提である。

科目名	民法研究II（発展）／Civil LawII
担当教員	高 影娥(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	水/Wed 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	高 影娥(1 号館 439 室)
オフィスアワー	高 影娥

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業は、民法における主要理論および重要判例を素材として、その理論構造と問題点を検討することを目的とする。受講者による報告および討論を中心に進める。

達成目標 ／ Course Goals

- ・民法の主要理論について体系的に理解し、説明できる。
- ・判例の論理構造を分析し、学説との関係を整理できる。
- ・特定の論点について自らの見解を論理的に提示できる。

授業内容 ／ Course contents

民法の主要分野（家族法）に関する理論的課題および重要判例を取り上げる。各回において受講者による報告を行い、その内容について討論を行う。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前に指定文献および判例を精読し、報告担当者はレジュメを作成すること。
事後には討論内容を踏まえ、自らの理解を整理すること。

使用教材 ／ Teaching materials

使用教材は特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

成績評価の方法 ／ Grading

研究報告（60％）および最終レポート（40％）により評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：到達目標を十分に達成し、判例・学説を踏まえ論理的に検討できる。
優：到達目標を概ね達成し、主要論点を整理した上で説明できる。

良：基本的論点を理解しているが、説明・論証に不十分な点がある。
可：最低限の理解にとどまる。
不可：到達目標に達していない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

積極的な報告および討論参加を求める。

科目名	民法研究 III（発展）／Civil LawIII
担当教員	橋本 伸(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

（１）本講義では、民法の問題群のうち、（広い意味での）所有法（物権法）に関する日本民法学の課題を明らかにすることを目的とする。具体的には、近代民法は、資本主義経済を基底から支える役割を担い、所有法は物の帰属を規律し、かつ所有権の客体である「物（有体物）」は市場において自由に譲渡（売買）することができるという理解されてきた。もっとも、資本主義経済は、それ以前には「商品」でなかった物を「商品」にする契機を持っていた（商品化問題。例えば、血液、臓器、精子・卵子などの人間の身体部位が典型である）。こうした状況に対しては、商品化の歯止めをかけることの可否が論じられており、その中では、譲渡性が完全又は一部で制限された物の存在が指摘されつつある。本講義では、こうした具体的素材の考察を通じて、21 世紀的な所有法（物権法）の構築への示唆を求めることにしたい。

（２）方法：講義＋演習の形式で行う。主として講義形式となるが、数回ほど文献報告を予定している。

達成目標 ／ Course Goals

所有法（物権法）に関する日本法の基本知識を理解し、従前の日本の議論の到達点と残された課題がどこにあるかについて指摘できるようになること

授業内容 ／ Course contents

- 第 1 回 本講義の概要：所有法（物権法）の概要
- 第 2 回 身体部位の譲渡可能性 1：血液
- 第 3 回 身体部位の譲渡可能性 2：臓器
- 第 4 回 身体部位の譲渡可能性 3：精子・卵子
- 第 5 回 身体部位の譲渡可能性 4：代理懐胎
- 第 6 回 パブリシティ権の譲渡可能性 1：売買可能性
- 第 7 回 パブリシティ権の譲渡可能性 2：相続可能性

- 第 8 回 パブリシティ権の譲渡可能性 3：財産分与可能性
- 第 9 回 パーソナルデータの譲渡可能性 1
- 第 10 回 パーソナルデータの譲渡可能性 2
- 第 11 回 文化財の譲渡可能性 1
- 第 12 回 文化財の譲渡可能性 2
- 第 13 回 譲渡（不）可能性の根拠論一般 1
- 第 14 回 譲渡（不）可能性の根拠論一般 2
- 第 15 回 総括まとめ——所有法（物権法）への示唆

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学習：事前に配布する指定文献を読んで、疑問点を抽出しておくこと

事後学習：文献の再読および当日の議論の確認

使用教材 ／ Teaching materials

- ・教科書は指定しない。レジュメおよび資料を配布する。

成績評価の方法 ／ Grading

- ①報告（40 点）、②最終レポート（60 点）による（合計 100 点）。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）：所有法の問題について、秀でた理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について秀でた分析を加えることができる。

優（89～80）：所有法の問題について、優れた理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について優れた分析を加えることができる。

良（79～70）：所有法の問題について、良い理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について良い分析を加えることができる。

可（69～60）：所有法の問題について、理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について分析を加えることができる。

不可（59～0）：所有法の問題について、十分な理解力を持てず、民法理論を応用して、様々な問題について分析を加えることができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

- ・学部で民法の講義を受講していることが望ましいが、分からないところをご自身で調べるつもりがあれば、未履修で受講しても問題ない。
- ・受講を考えている学生は、文献の準備の都合上、開講日の 3 日前までに manaba の個別指導でご連絡ください。

科目名	商法研究Ⅱ（発展）／Commercial LawⅡ
担当教員	河森 計二(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

商法研究Ⅱ（発展）では、保険法に関する裁判例の検討を行い、受講者の保険法への理解を深めることを目的とする。

授業の方法は、『保険法判例百選（第 2 版）』を素材として、受講者の中から毎回の報告者を決定したうえで、事例の報告と受講者の質疑応答および担当教員による重要事項の解説により構成される。各回の授業は、演習形式で行うことを予定している。

達成目標 ／ Course Goals

この授業では、保険法に関する事例を通じて、私保険に関わる問題を理解し、基本的な用語や保険法におかれる規定の趣旨等について説明できるようになることが達成目標となる。

授業内容 ／ Course contents

『保険法判例百選』にある事例のなかから担当者を決定し、担当者による報告と受講者全体からの質疑応答を中心に演習を行う。必要に応じて、担当教員が保険法の論点について解説する。

商法研究Ⅱ（発展）における授業内容としては、次の内容を予定しており、各回の内容による担当事例を決定し報告してもらう。

第 1 回：保険法の概要

第 2 回：保険約款

第 3 回：損害保険契約の成立

第 4 回：保険契約者等の通知義務

第 5 回：保険者の保険給付義務

第 6 回：火災保険

第 7 回：自動車保険

第 8 回：生命保険の成立

第 9 回：告知義務違反の効果

第 10 回：保険金受取人の指定

第 11 回：保険金受取人の変更

第 12 回：保険契約者の変更

第 13 回：生命保険契約における保険者免責

第 14 回：傷害保険契約における外来性

第 15 回：疾病保険契約における契約前発病不担保条項

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修としては、各回の事例における事実の概要と判旨をよく読み、理解できない用語や内容を明確にしておくこと。また、報告者への質問を考えておくこと。

事後学修としては、事例の論点整理と質疑応答の内容を確認しまとめる。

使用教材 ／ Teaching materials

洲崎博史=後藤元（編）『保険法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2025 年）

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加度（質疑応答などの参加姿勢）：40%

報告内容：30%

課題の提出：30%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

事例報告の内容と質疑応答については、つぎの基準に留意して評価します。

秀（100 点～90 点）：①保険法で基本となる知識を十分理解している。②事例の論点を十分理解した上で、結論を適切に導き出すことができる。

優（89 点～80 点）：①保険法で基本となる知識を十分理解している。②事例の論点を十分理解した上で、結論を導き出すことできる。

良（79 点～70 点）：①保険法で基本となる知識を十分理解している。②事例の論点を理解した上で、結論を導き出すことができる。

可（69 点～60 点）：①保険法で基本となる知識を理解している。②事例の論点を理解した上で、結論を導き出すことができる。

不可（59 点～0 点）：①保険法で基本となる知識の理解が不十分である。②事例の論点を理解しておらず、結論を導き出すことができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

この授業の受講を希望する方は、第 1 回授業の前日までに、受講する旨を河森のメールアドレス（kawamori@res.otaru-uc.ac.jp）に必ず連絡すること。

受講生の顔ぶれ・人数によっては話し合いのうえで柔軟に対応します。

科目名	知的財産権法研究（発展）／Intellectual Property Law
担当教員	才原 慶道(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	火/Tue 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	才原 慶道(1 号館 3 2 3 号室)
オフィスアワー	才原 慶道(初回の授業の際に指示します。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

「知的財産権法研究（基本）」では、日本の特許法に関する基本的な事項を学びました。この科目では、原書の講読を通じて、アメリカの特許法の概要を学んでいきます。

達成目標 ／ Course Goals

アメリカの特許法との異同を知ることによって、日本の特許制度の構造をより深く理解することです。

授業内容 ／ Course contents

第 1 ～ 3 回 Patentable Subject Matter ほか
 第 4 、 5 回 Nonobviousness
 第 6 ～ 8 回 Patent Process
 第 9 、 1 0 回 Exclusive Rights ほか
 第 1 1 ～ 1 4 回 Infringement
 第 1 5 回 Remedies
 （上記は、あくまでも進行の目安です。）

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：下記の使用教材について、当該回の予習範囲として指定された部分の日本語訳を作成してきてください。
 事後学修：当該回の授業を踏まえて、4,000 字程度のレポートを作成の上、提出してください。

使用教材 ／ Teaching materials

Tyler T. Ochoa ほか『Understanding Intellectual Property Law』（第 4 版、Carolina

Academic Press）

成績評価の方法 ／ Grading

授業への参加（準備・質疑等） 60%
 レポート 40%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

現代商学専攻の統一基準によります。

履修上の注意事項 ／ Remarks

科目名	労働法研究（発展）／Labor Law
担当教員	國武 英生(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	金/Fri 5
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業は、労働法が直面している課題や論点について調査・研究することを目的とする。労働法研究（基礎）の内容をふまえ、より高度化を目指す。
 テーマを受講生と相談の上で選択し、関係法令、判例、実例、諸外国の法制度などを素材として、受講生の調査・プレゼンテーションをもとに質疑応答形式で進めていく。また、北大労働判例研究会に出席することにより、判例検討の方法等を学ぶ。

達成目標 ／ Course Goals

判例評釈を行う基礎的能力を身につけるとともに、労働法上の論点について学術的な知見をふまえながら論じる力を修得することを目指す。
 具体的には、①裁判例や具体的な事象をもとに議論する、②日本や諸外国の制度や実態を踏まえてより広く深い考察をする、③受講生同士で対話し主体的に考える力を養う、といった点に重きを置きたい。

授業内容 ／ Course contents

労働法上の論点について、毎回、報告者を決めて報告してもらう。その報告に基づき、受講生同士で質疑応答を行うことで検討する。以下の方法を組み合わせて実施する。

(a) 判例研究：最新の労働判例について検討する。報告者には、事実の概要、判旨、判決のポイント（先例との関係・位置づけ、学説の議論など）を報告してもらう。報告にあたっては、事実と判旨について、どこがわからなかったかを積極的に明らかにすること。全員で報告内容について議論し、理解を深める。

(b) テーマ研究：重要な論点や論題を選び、上記 (a) と同様の要領で検討を加え、理解を深める。

(c) レポート作成：文章作成能力を高めることを目的として、上記 (a) (b) を素材にして、レポートを作成し、提出する。

[第 1 回] ガイダンス
 [第 2 回] 判例研究
 [第 3 回] 判例研究
 [第 4 回] 判例研究
 [第 5 回] 判例研究
 [第 6 回] 判例研究
 [第 7 回] 判例研究
 [第 8 回] 判例研究
 [第 9 回] テーマ研究
 [第 10 回] テーマ研究
 [第 11 回] テーマ研究
 [第 12 回] テーマ研究
 [第 13 回] テーマ研究
 [第 14 回] テーマ研究
 [第 15 回] まとめ

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

前の学習として、各授業回で取り扱う検討素材および報告レジュメを読んで理解を深め、何がわからないかを確認しておく。その上で、授業で質問するなどして理解を深めること。各回の予習としては 120 分程度が目安となる。
 事後の学習としては、授業の内容を復習し、発見した課題や検討のアプローチ等を書き残しておく。発見した課題を次につなげる習慣を身につけることを推奨する。各回の復習としては 60 分程度が目安となる。

使用教材 ／ Teaching materials

労働法の参考文献としては、以下のものを使用する。各論に関する教材については、テーマ選択時に指定する。

- ・國武英生『改訂 雇用社会と法』（放送大学教育振興会、2021 年）
- ・村中孝史＝荒木尚志編『労働判例百選〔第 10 版〕』（有斐閣、2022 年）

成績評価の方法 ／ Grading

下記の要素に基づき成績評価を行う。

- ・報告内容（リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーション） 60%
- ・授業への参加度（討論、グループワーク） 40%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- ・労働法の諸問題に深い関心を持ち、与えられた課題に積極的に取り組むことができるか
- ・与えられた課題について、口頭や文章でわかりやすくプレゼンテーションできる

か

- ・他者と協力して課題に取り組み、議論をしながら理解を深めることができるか
- ・法的な問題点を抽出し、自らの思考・判断のプロセス・結論を文章で明確に示すことができるか

上記基準について特に秀でている者を「秀」、上記基準を十分に満たす者を「優」、上記基準を一応満たす者を「良」、上記基準をぎりぎり満たす者を「可」、上記基準を満たさない者を「不可」とする。

履修上の注意事項 / Remarks

学部授業等において労働法の基礎について学習済みであることが望ましい。

科目名	社会保障法研究（発展）／Social Security Law
担当教員	片桐 由喜(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	木/Thu 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	片桐 由喜(1 号館 407 室)
オフィスアワー	片桐 由喜 (随 時 。 た だ し 、 事 前 に メ ー ル (katagiri@res.otaru-uc.ac.jp) で訪問日時のご約束をすること。)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業は社会保障法が直面している課題や論点について調査・研究することを目的とする。

テーマを相談のうえ決定し、関係法令、判例、実務上の取扱い、外国の法制度などを素材としてする。授業は受講生の調査・プレゼンテーションを中心に質疑応答形式で行う。

達成目標 ／ Course Goals

- ①社会保障法上の論点について学術的な知見をふまえながら論じる力を習得することを目指す。
- ②判例評釈をとおして、自説を説得的に展開できることを目指す。
- ③諸外国の制度との比較をとおし、日本への示唆を見出すことができるようになることを目指す。

授業内容 ／ Course contents

- 第 1 回 社会保障法に関する主要論文の購読と論評（1）
- 第 2 回 社会保障法に関する主要論文の購読と論評（2）
- 第 3 回 社会保障法に関する主要論文の購読と論評（3）
- 第 4 回 医療保障制度の課題整理と今後の方策（1）
- 第 5 回 医療保障制度の課題整理と今後の方策（2）
- 第 6 回 所得保障保障制度の課題整理と今後の方策（1）
- 第 7 回 年金保険法関連判例の研究（1）
- 第 8 回 年金保険法関連判例の研究（2）

- 第 9 回 生活保護法関連判例の研究（1）
- 第 10 回 生活保護法関連判例の研究（2）
- 第 11 回 生活保護法関連判例の研究（3）
- 第 12 回 障害者福祉法制の構造と課題の抽出（1）
- 第 13 回 障害者福祉法制の構造と課題の抽出（2）
- 第 14 回 少子高齢社会における社会保障制度のあり方について（1）
- 第 15 回 少子高齢社会における社会保障制度のあり方について（2）

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：

- ①取り上げる判決の関連判例、評釈を調べて読んでくこと。
- ②関連する諸外国の制度を調べてくこと。

事後学修：

- ①授業で解説した内容をまとめておくこと。
- ②制度と実務の乖離の有無、その内容を考えること。

使用教材 ／ Teaching materials

プリントを授業において適宜、配布。

成績評価の方法 ／ Grading

予習の程度 20%
 授業での研究報告 40%
 授業での質疑応答への貢献度 30%
 判例評釈の程度 10%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している
 優（89～80）個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している
 良（79～70）個々の科目について良い理解力及び応用力を有している
 可（69～60）個々の科目について理解力及び応用力を有している
 不可（59～0）個々の科目について十分な理解力及び応用力を有していない

履修上の注意事項 ／ Remarks

科目名	法律学特論／Special Legal Studies
担当教員	橋本 伸(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	金/Fri 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

(1) 目的：本講義では、民法学における重要テーマを1つ取り上げ、その問題に関する現在までの議論の到達点と残された課題を明らかにすることを目的とする。本年度は、「利益の吐き出し」というテーマを取り上げる。利益の吐き出しは、ある者（侵害者）が他の者（被侵害者）の権利や利益などを侵害することを通じて利益を得るが、その利益が被侵害者の損害を超える際に問題となる（通常の損害賠償では、侵害者のもとに利益が残り、侵害者は「侵害し得」となる）。こうした問題は、所有権侵害のみならず、知的財産権侵害、名誉毀損・プライバシー侵害・パブリシティ権侵害のほか、信認義務違反や契約違反など様々な場面で問題となる。本講義ではこうした問題を各論的に考察したうえで、最期に、横断的な考察を行うこととする。なお、比較対象として英米法の議論も参照する。

(2) 方法：演習（ゼミ）形式で行う。

達成目標 ／ Course Goals

利益の吐き出しに関する日本法の基本知識を理解し、従前の日本の議論の到達点と残された課題がどこにあるかについて指摘できるようになること

授業内容 ／ Course contents

*以下は、予定である。進捗により前後する。

- 第1回 本講義の概要
- 第2回 所有権の侵害1
- 第3回 所有権の侵害2
- 第4回 著作権の侵害
- 第5回 特許権の侵害
- 第6回 名誉権の侵害1
- 第7回 名誉権の侵害2

- 第8回 プライバシー権の侵害1
- 第9回 プライバシー権の侵害2
- 第10回 パブリシティ権の侵害1
- 第11回 プブリシティ権の侵害2
- 第12回 契約違反
- 第13回 信認義務違反
- 第14回 利益吐き出しの横断的考察1
- 第15回 利益吐き出しの横断的考察2

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

利益の吐き出しに関する日本法の基本知識を理解し、従前の日本の議論の到達点と残された課題がどこにあるかについて指摘できるようになること

使用教材 ／ Teaching materials

橋本伸『利益吐き出し』原状回復救済に関する理論的考察」北大法学論集 69 巻 5号（2019）以下を主たるテキストとして用いる。

成績評価の方法 ／ Grading

・報告内容（40点）および最終レポート（60点）の総合で評価する（合計 100点）

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀（100～90）：利益吐き出しの問題について、秀でた理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について秀でた分析を加えることができる。

優（89～80）：利益吐き出しの問題について、優れた理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について優れた分析を加えることができる。

良（79～70）：利益吐き出しの問題について、良い理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について良い分析を加えることができる。

可（69～60）：利益吐き出しの問題について、理解力を示し、民法理論を応用して、様々な問題について分析を加えることができる。

不可（59～0）：利益吐き出しの問題について、十分な理解力を持てず、民法理論を応用して、様々な問題について分析を加えることができない。

履修上の注意事項 ／ Remarks

・本講義は企業法コースの学生を念頭に、修士論文を書く上で必要な一つのテーマについて横断的に調べるという手法を体験してもらうことを目指すことも副次的に意図しています。

・学部で民法の講義を受講していることが望ましいが、分からないところをご自身で調べるつもりがあれば、未履修で受講しても問題ない。

・受講を考えている学生は、文献の準備の都合上、開講日の3日前までに manaba の

個別指導を通じて連絡ください。

科目名	地域システム論I／Regional SystemsI
担当教員	大津 晶(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	水/Wed 3
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	大津 晶(4 2 8 (個人研究室))
オフィスアワー	大津 晶(随時 事前にメールで連絡をください)

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

現代の都市は多くの構成要素と物理的／経済的／制度的制約によって成り立つ複雑な社会システムであり、諸計画の前提となる都市の空間構造を理解するためのアプローチのひとつとして数理解析モデルを用いた分析が有効である。

本講義は都市・地域計画のための数理解析モデル分析について、基礎的な理論の理解および応用的な分析手法の習得と、今日的な都市問題へのアプリケーションに関する議論を通じた政策的な運用能力の向上を目的とする。

達成目標 ／ Course Goals

- ・都市解析分野の主要な理論モデルを理解する
- ・演習を通じて実際の分析手法を獲得する
- ・課題を通じて都市地域の諸課題についてモデル分析を応用する

授業内容 ／ Course contents

都市空間解析学の分野の数理解析モデル分析の理論と手法を学ぶ。

- ・移動の都市解析
- ・非集計ロジットモデルによる都市解析
- ・多角形をとりまく都市解析
- ・都市施設への距離分布の都市解析
- ・ランダムな点分布と都市解析
- ・領域間距離の都市解析
- ・施設の適切な数を探る都市解析
- ・1次元ミニサム型施設配置の都市解析
- ・その他トピック

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

〈事前学修〉

当該分野の論文等（事前に指示）を読み、概略を理解する

〈事後学修〉

講義中に議論した論点を整理する

使用教材 ／ Teaching materials

○教科書（予定）：

・栗田 治（2013）「都市と地域の数理モデル—都市解析における数学的方法—」，共立出版

・貞広幸雄 他（2018）「空間解析入門」，朝倉書店。

○参考図書：

・腰塚武志（2019）「応用のための積分幾何学」，近代科学社

・青木義次（2006）「建築計画・都市計画の数学—規模と安全の数理」，数理工学社

・栗田 治（2004）「都市モデル読本」，共立出版

・日本建築学会（2005）「建築最適化への招待」，日本建築学会

・岡部篤行・鈴木敦夫（1992）「最適配置の数理」，朝倉書店

成績評価の方法 ／ Grading

演習（2 回に 1 回程度）30%，課題およびプレゼンテーション（数回）40%，最終レポート 30%を目安として、講義中の討論等への参加を加味して総合的に評価する。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

・「可」：3 分の 2 以上の講義に出席し、講義で取り扱った都市解析の理論の概略を理解し、分析手法の演習に取り組む。

・「良」：上に加えて、演習等を通じて講義内容を十分に理解できている。

・「優」：上に加えて、課題とその成果をプレゼンテーションし、実質的な討議ができる。

・「秀」：上記の内容に特に優れた学習成果が認められる。

履修上の注意事項 ／ Remarks

学部レベルの数学的基礎（線形代数，微分積分，統計学）をひとつとおり学習済みであることを想定して授業を進めます。

必要であれば履修学生の専門分野や予備知識に応じて講義内容や水準を調整することがあるので、履修を予定している学生は事前に連絡すること。

科目名	社会測定II／Social MeasurementII
担当教員	小泉 大城(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	水/Wed 1
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

意思決定の問題は，社会科学，経済学，経営学，情報学，医学等の分野に頻出する重要な問題である．本講義ではこうした問題の基礎理論として，ベイズ統計学に基づく統計的決定理論について学習する．

達成目標 ／ Course Goals

ベイズ統計学に基づく推定について説明できる
統計的決定理論について説明できる
上記の2つを併用した応用について説明できる

授業内容 ／ Course contents

第1～2週

意思決定の問題

確率測度，確率変数，パラメータ，確率分布，期待値，確率モデル

第3～5週

ベイズの定理，パラメータの事前分布，パラメータの事後分布，予測分布

第6～9週

状態空間，行動空間，決定関数，損失関数，リスク関数，ベイズリスク関数

第10～13週

決定基準，ミニマックス基準，マクスミン基準，ベイズ基準

第14週

実問題への応用や考察

第15週

統計的決定理論の応用と近年の動向

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前に授業内容を参照し，使用教材の対応する箇所をよく読んでおくこと．
また，講義で解説した箇所を事後によく読み，復習に努めること．

使用教材 ／ Teaching materials

松原 望 著，「意思決定の基礎」，朝倉書店，2001 年．
理解度に応じて補助的な教材を指定したり，配布したりすることがある．

成績評価の方法 ／ Grading

授業参加度，レポート課題，期末レポート課題を加味して評価する．
評価項目の重みは別途掲示する．

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報コース標準成績評価基準に従う．

履修上の注意事項 ／ Remarks

本科目は，社会測定 I に続く科目であり，社会測定 I の単位を取得していることを前提に講義を行う．

科目名	組 織 情 報 論 I ／ Theory of Information and OrganizationI
担当教員	阿部 孝太郎(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	金/Fri 4
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

学部講義「組織コミュニケーション論」に準ずる内容。ただし、履修者の要望に応じて適宜アレンジする。

ビジネスの様々なコミュニケーションについて、実学的側面から学ぶ(コミュニケーション論の哲学的な問題は避ける)。コミュニケーションに関しては、理論だけ学んでも身に付かない場合が多いので、できる範囲で演習を取り入れる。

達成目標 ／ Course Goals

- ・指定テキストをマスターしてもらう。
- ・他の大学ではない現在的・実践的プログラムを体験してもらう。
- ・今後ロジカルなコミュニケーションも重要度が増すと思われるので、その辺りも練習問題を通じて体験してもらう。

授業内容 ／ Course contents

- 第1回目 全体の概略説明、質疑応答
- 第2回目 組織論の基本(アップル vs. マイクロソフトを中心に)
- 第3回目 組織論の基本(官僚制とタテ社会)
- 第4回目 組織論の基本(シリコンバレー等の産業集積)
- 第5回目 ビジネス・ライティング(ミントのピラミッド原則等のロジカル・シンキング)
- 第6回目 ビジネス・ライティング(文章術、リーダーの言語能力等)
- 第7回目 プレゼンテーション(代表的なプレゼンに学ぶ)
- 第8回目 プレゼンテーション(上記を踏まえた上で履修者による実演)
- 第9回目 会議の諸問題(意思決定の技法: SWOT 分析の演習等)
- 第10回目 会議の諸問題(アイディア創出のための会議:ブレインストーミングの演

習等)

第11回目 説得と交渉

第12回目 説得と交渉(練習問題を中心に)

第13回目 異文化コミュニケーション

第14回目 IT とコミュニケーション

第15回目 補足

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

復習が中心となる。

使用教材 ／ Teaching materials

阿部孝太郎『上司もうなる! 5つのビジネス・スキル』NTT 出版。絶版となったため、ファイルで渡す予定。

成績評価の方法 ／ Grading

演習や小テスト等がメイン。学部の講義では、約 30 点満点の小レポート 3 回行い、約 5 点満点の演習を 2,3 回行った。大学院においても、それに準ずる予定。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

社会情報コース・標準成績評価基準に従う。

その他、テキストで示すように、コミュニケーション能力とは、論理的思考力の他に、感情的知性や創造性が問われる。この三つの視点から評価を行う。例えば、論述問題に関しては、独創性(創造性)や授業の理解度(論理的思考力)が主な採点要素となる。

履修上の注意事項 ／ Remarks

履修者数により、参加型演習を行えない場合がある。

オリエンテーション時に、充填してほしい内容について希望を聞く予定。

科目名	知識情報論 I／Knowledge Information TheoryI
担当教員	木村 泰知(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	金/Fri 2
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

本授業の目的は、自然言語処理の基礎理論から大規模言語モデル（LLM）までを体系的に理解し、テキストデータを分析・活用するための知識と技能を身につけることです。テキスト処理に関連する情報理論の基礎を踏まえ、N-グラムモデルや分散表現を経て、Transformer、BERT、GPT などの仕組みを学びます。授業では講義による解説に加え、コーパス分析や簡単なプログラム実行例を通して理解を深めます。さらに、実社会における応用事例も紹介し、理論と応用を往復しながら総合的な理解を目指します。

達成目標 ／ Course Goals

本授業の達成目標は、自然言語処理の基礎理論（確率・情報理論・形態論・構文論）を理解し、それらが統計的手法やニューラルネットワークにどのように発展してきたかを説明できるようになることです。また、N-グラムモデルや単語の分散表現、Transformer、BERT、GPT などの大規模言語モデルの基本的な仕組みと特徴を理解し、それぞれの長所・限界を比較できる力を養います。

授業内容 ／ Course contents

- 第 01 回 テキスト解析とテキストマイニングの基礎
- 第 02 回 言語処理の難しさ：表記揺れ・曖昧性・文脈依存性
- 第 03 回 言語資源とコーパス：単語頻度・ジップの法則
- 第 04 回 言語処理に関する確率論の基礎：条件付き確率・ベイズの定理
- 第 05 回 情報理論の基礎：エントロピー
- 第 06 回 交差エントロピー・パープレキシティと言語モデル評価
- 第 07 回 形態論と品詞：名詞・動詞・形態素解析
- 第 08 回 構文解析：句構造・依存構造
- 第 09 回 意味論・語用論と文脈理解

- 第 10 回 コーパスに基づく研究と統計的自然言語処理
- 第 11 回 単語頻度・仮説検定・相互情報量と特徴量設計
- 第 12 回 N-グラムモデルと言語モデルの発展
- 第 13 回 単語の分散表現（Word2Vec・GloVe）と意味ベクトル
- 第 14 回 Transformer の基礎と注意機構（Self-Attention）
- 第 15 回 BERT・GPT・大規模言語モデル（LLM）の仕組みと応用

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

この講義は、自然言語処理に関連するコーパス、および、Shared Task を題材として、標準的な手法について理解する。そのため、授業のなかで取り扱う自然言語処理手法の専門用語を事前に調べるようにしてください。

- ・事前に配布する資料は必ず目をとおり、分からない語彙等は必ず調べておくこと。
- ・事後学修として、授業で解説した内容をまとめておくこと。

使用教材 ／ Teaching materials

1. Foundations of Statistical Natural Language Processing, Christopher Manning (著), Hinrich Schuetze (著) 1999.
2. Introduction to Information Retrieval, Christopher D. Manning, Prabhakar Raghavan and Hinrich Schütze, Introduction to Information Retrieval, Cambridge University Press. 2008.
- 3.Speech and Language Processing (3rd ed. draft)
<https://web.stanford.edu/~jurafsky/slp3/>
4. Attention Is All You Need
Ashish Vaswani, Noam Shazeer, Niki Parmar, Jakob Uszkoreit, Llion Jones, Aidan N. Gomez, Lukasz Kaiser, Illia Polosukhin
<https://arxiv.org/abs/1706.03762>
5. BERT: Pre-training of Deep Bidirectional Transformers for Language Understanding
Jacob Devlin, Ming-Wei Chang, Kenton Lee, Kristina Toutanova
<https://aclanthology.org/N19-1423/>

成績評価の方法 ／ Grading

- 授業への参加度（事例、討論、調査） 30%
- ホームワーク（事前課題の提出） 30%
- 小テストないしクイズ 10%
- 試験ないしプレゼンテーション（最終課題） 30%

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

- 秀（100～90）：知識情報論 I について秀でた理解力がある。
- 優（89～80）：知識情報論 I について優れた理解力がある。
- 良（79～70）：知識情報論 I について理解力がある。
- 可（69～60）：知識情報論 I について最低限の理解力がある。

不可（5 9 ～ 0）：知識情報論 I について十分な理解力を持っていない。

履修上の注意事項 / Remarks

科目名	研究指導 I／Seminars I
担当教員	商大 先生(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 研究指導I
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	他
配当年次	1 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

学生個々人の研究テーマに応じた研究指導を行います。
研究指導 I では、修士論文又は課題研究の研究テーマを設定することを目的とします。
併せて、社会通念上、専門家に求められる倫理観、道德観を身に付けます。
学生の興味や関心をもとに、担当の指導教員がテーマ設定の指導を行います。

達成目標 ／ Course Goals

研究指導教員の指導のもと、修士論文又は課題研究の研究テーマを設定します。併せて、社会通念上、専門家に求められる倫理観、道德観を身に付けます。

授業内容 ／ Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。指導には研究倫理に係る内容を含み、併せて本学が実施する研究倫理研修の受講についても指導・確認します。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

使用教材 ／ Teaching materials

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介します。

成績評価の方法 ／ Grading

研究テーマの重要性、研究方法の妥当性、研究の実施可能性等を総合的に判断します。なお、評価に先立ち、学生は有効な研究倫理研修の受講証を大学へ提出する必要があります。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

研究テーマの設定と研究手法の進捗度により評価し、小樽商科大学大学院商学研究科履修規則第 6 条に基づき、
秀（100 点～90 点）、
優（89 点～80 点）、
良（79 点～70 点）、
可（69 点～60 点）及び
不可（59 点以下）に分け、可以上を合格とします。

履修上の注意事項 ／ Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。

科目名	研究指導II／Seminars II
担当教員	商大 先生(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 研究指導II
開講学期	2026 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
開講曜限	他
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

研究指導 I で作成した研究計画に基づき、調査研究を実施し、結果を研究としてまとめ、中間報告会で報告します。
研究テーマをもとに、担当の指導教員が指導を行います。

達成目標 ／ Course Goals

研究テーマに基づき調査研究を実施し、結果を研究としてまとめ、中間報告会においてプレゼンテーションし、自己の論文の示唆を得て、研究指導 III へ繋がります。

授業内容 ／ Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

使用教材 ／ Teaching materials

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介します。

成績評価の方法 ／ Grading

中間報告会での発表内容について、
・研究テーマの重要性、
・研究方法の妥当性、
・独創性
等を総合的に判断します。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

中間報告会での発表内容により評価し、小樽商科大学大学院商学研究科履修規則第 6 条に基づき、
秀（100 点～90 点）、
優（89 点～80 点）、
良（79 点～70 点）、
可（69 点～60 点）及び
不可（59 点以下）に分け、可以上を合格とします。

履修上の注意事項 ／ Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。

科目名	研究指導 III／Seminars III
担当教員	商大 先生(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 研究指導III
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	他
配当年次	2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

修士論文又は課題研究の完成を目的とします。
研究テーマをもとに、担当の研究指導教員が指導を行います。

達成目標 ／ Course Goals

修士論文又は課題研究を完成させます。

授業内容 ／ Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

使用教材 ／ Teaching materials

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介します。

成績評価の方法 ／ Grading

「修士論文審査会要項」、
「修士論文及び課題研究の審査基準」、
「修士論文・課題研究最終試験審査基準」、
「修士論文・課題研究コース別審査基準」
により評価します（履修案内「規程関係」に掲載の審査会要項及び審査基準を参照のこと）。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

修士論文又は課題研究の審査及び最終試験により評価し、研究指導教員が小樽商科

大学大学院商学研究科履修規則第 6 条に基づき、
秀（100 点～90 点）、
優（89 点～80 点）、
良（79 点～70 点）、
可（69 点～60 点）及び
不可（59 点以下）に分け、可以上を合格とします。
（修士論文の審査基準）
経済学コース、国際商学コース、企業法学コース及び社会情報コースが定めた学術論文としての基準を満たしていること
（課題研究の審査基準）
課題研究は、学術論文の形式はとらないが修士論文と同等のものであり、各コースが定めた基準を満たしていること

履修上の注意事項 ／ Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。

科目名	特別講義（BVCC 演習（地域経営））
担当教員	長村 知幸(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士前期課程 発展科目
開講学期	2026 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
開講曜限	他
配当年次	1 年 / 2 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

授業の目的・方法 ／ Course Objectives and method

この授業は、さくらCSの協力を得て、地域課題の解決に資する提案力と地域活性化策を考える能力を身につけることを目的とする。授業の方法としては、基本的には対面で実施し、初回のオリエンテーションで、今年度のテーマや授業内容の詳細については受講者にお知らせする予定である。なお、本講義は、小樽商科大学（アントレプレナーシップ専攻および現代商学専攻の大学院生が対象）のみならず、神戸大学、和歌山大学の受講者も想定される。

達成目標 ／ Course Goals

・地域課題と地域企業の事業内容を理解し、課題解決に資する案をプレゼンできるスキルを習得する。

授業内容 ／ Course contents

授業内容は以下のとおりである。ただし、講義の順番や講義内容、講義日時を変更する場合がある。

<授業内容案（土曜日開講、10時30分～13時30分）>

1回あたり3時間（2コマ）×6回、4.5時間（3コマ）×1回。

- 第1回 BVCCとは何か、今年度のテーマ説明（2026/10/3）10:30-12:00
- 第2回 昨年度のテーマの成果物とその続き（2026/10/3）12:00-13:30
- 第3回 文献調査方法について（2026/10/17）10:30-12:00
- 第4回 社会調査（定性/定量）方法について（2026/10/17）12:00-13:30
- 第5回 介護人材業界の現状分析と課題について（2026/11/7）10:30-12:00

第6回 どのような価値提案がもん助の登録者を増やすのに有効か①
（2026/11/7）12:00-13:30

第7回 どのような価値提案がもん助の登録者を増やすのに有効か②
（2026/11/28）10:30-12:00

第8回 中間報告会（2026/11/28）12:00-13:30

第9回 他社との比較と提案の優位性の確保（2026/12/5）10:30-12:00

第10回 さくらCSとのヒアリング（2026/12/5）12:00-13:30

第11回 提案書の修正と分析（2026/12/12）10:30-12:00

第12回 アンケート調査の作成（2026/12/12）12:00-13:30

第13回 アンケート調査の解析①（2027/1/9）10:30-12:00

第14回 アンケート調査の解析②（2027/1/9）12:00-13:30

第15回 最終報告会（2027/1/9）13:30-15:00

事前学修・事後学修 ／ Preparation and review lesson

事前学修：授業計画および授業方法に記載されているキーワードについて事前に調べておくこと。地域企業や地域課題などに関する情報（新聞記事、雑誌、テレビなど）に常に興味を持ち、キャッチアップしておくこと。

事後学修：講義内容を復習しておくこと。関連文献を調査し、本を読むなどして理解を深めること。

使用教材 ／ Teaching materials

小林哲（2016）『地域ブランディングの論理』有斐閣

成績評価の方法 ／ Grading

出席状況（出席は加点対象ではないが、欠席した場合は減点とする）、グループワークの参加度、最終報告会の内容によって総合的に成績評価を行う。

成績評価の基準 ／ Grading Criteria

秀：特に優秀な成績（100-90）

優：優れた成績（89-80）

良：本講義の要求を満たす成績（79-70）

可：合格と認められる最低の成績（69-60）

履修上の注意事項 ／ Remarks

- ・授業情報は随時配信（小樽商科大学の場合、manaba を通じて配信）するため、定期的に確認できる状態にしておくこと。
- ・授業の進捗によって授業内容を調整する可能性がある。